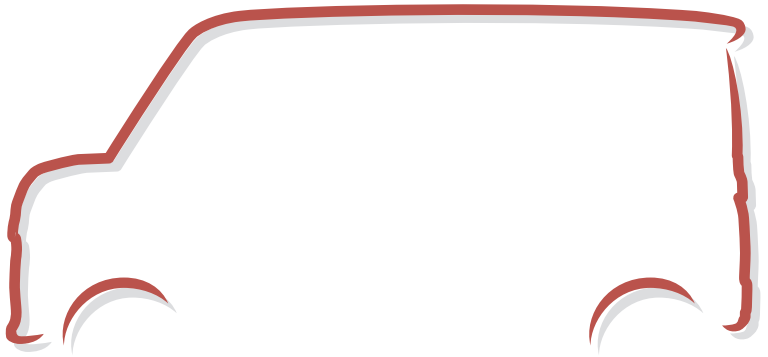


取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

CHIFFON



SUBARU

このたびは、スバル車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

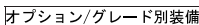
- ・本書は、シフォンの正しい取り扱いかたや、手入れの方法などについて説明しているほか、お車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
- ・福祉車両（トランスケア リフトタイプ / スロープタイプ）にお乗りの方は、本書とともに別冊の取扱説明書を参照ください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車両を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は次の通りです。

 警告	警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。
 注意	注意事項を守らないと、けがや事故、車体の破損につながるおそれがあります。
 アドバイス	お車のために守っていただきたい事項です。
 オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

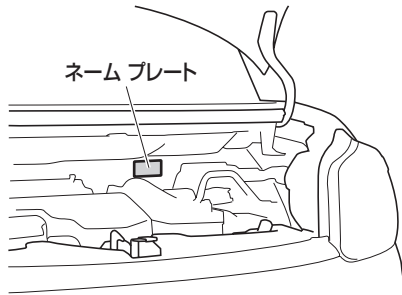
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - ・車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - ・本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ・ご不明な点は、ご購入先のスバル販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF- 型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネーム プレートはエンジン ルームに貼り付けしてあります。



MEMO

目 次

絵目次

2

必読！ドライバーのみなさまへ

11

走行する前に	12
エンジンをかけるときは	15
走行しているときは	16
駐停車するときは	19
安全な燃料給油のために	21
SRSエアバッグについて	23

CVT車について	25
お子さまを乗せるときは	27
お車を長持ちさせるには	31
こんなときは	34
知っておいていただきたいこと	37

安全装備

41

シート	42
シート ベルト	55
チャイルド シート	61
SRSエアバッグ	74
ABS	88

エマージェンシー ストップ シグナル	90
VDC&TRC	91
ヒル ホールド システム	99
スマートアシストⅢ	100
コーナー センサー	136

お車を運転する前に

141

車体各部の開閉	142
車体各部の調整	199

お車を運転するにあたって

207

メーターのはたらき	208
表示灯、警告灯のはたらき	219
スイッチの使いかた	234
運転装置の使いかた	248
エンジンのかけかた	260

CVT車の運転	262
アイドリング ストップ	
システムの使いかた	272
発電制御	284

装備品の使いかた

287

空調	288
オーディオ	305
室内装備品	311

いざというときに

325

工具類	326
いざというときの処置	332

お車の手入れ

375

お車の手入れ	376
--------	-----

積雪、寒冷時の取り扱い

401

積雪、寒冷時の取り扱い	402
-------------	-----

サービス データ

409

さくいん

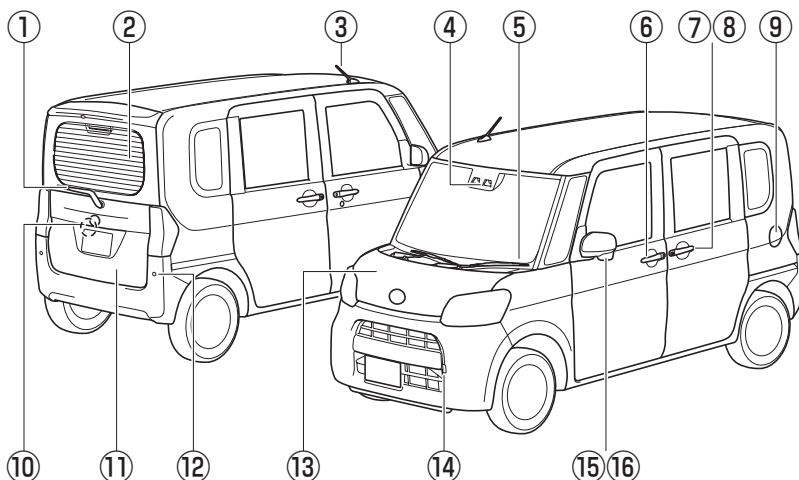
415

絵目次

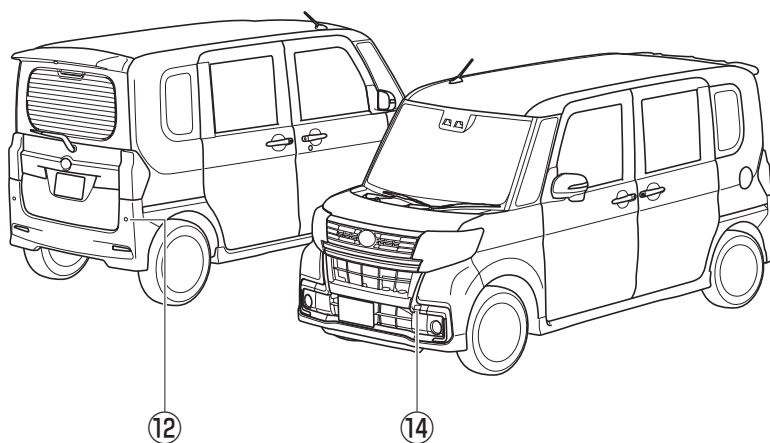
外観

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。

標準車



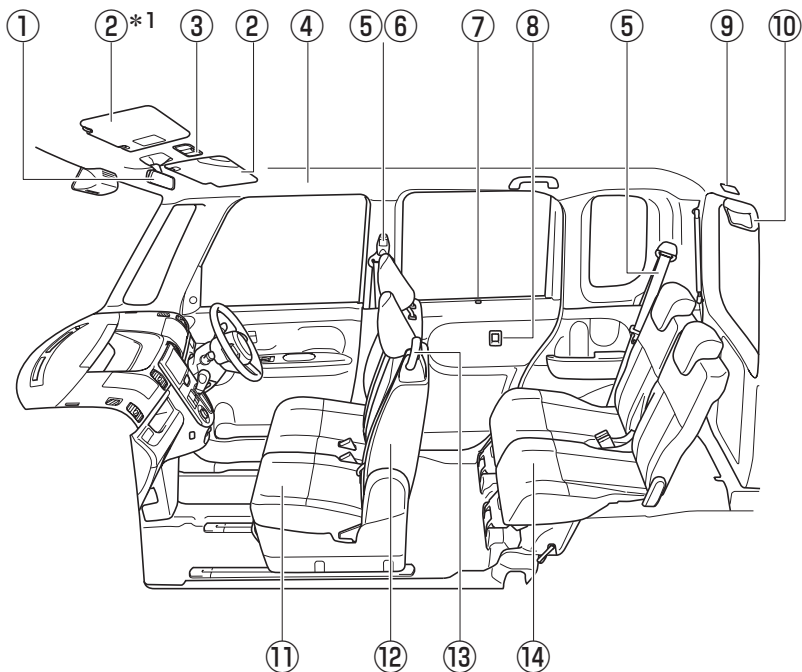
カスタム仕様車



①リヤ ワイパー -----	244
②リヤ ウィンドウ デフォッガー-----	245
③ルーフ アンテナ-----	305
④ステレオ カメラ-----	102
⑤フロント ワイパー -----	243
⑥ドアの開閉 -----	163
⑦スライド ドア -----	171
⑧パワー スライド ドア -----	175
⑨フューエル リッド -----	192
⑩バック カメラ -----	307
⑪リヤ ゲート -----	186
⑫ソナー -----	105
⑬ボンネット -----	190
⑭けん引フック-----	337
⑮電動格納式ドア ミラー-----	199
⑯サイド アンダー ミラー-----	202

内装 (1)

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



* 1 助手席側サン バイザーに次の内容のラベルが貼られています



助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルド シートを絶対に
取り付けないでください。

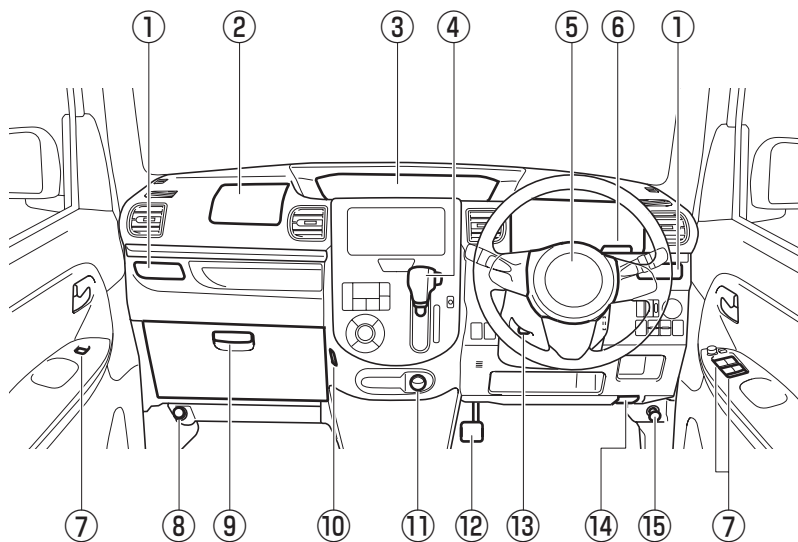
事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷
害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた→ 68 ページ)

①ルーム ミラー -----	199
②サン バイザー -----	315
③ルーム ランプ -----	311
④SRSカーテン シールド エアバッグ-----	80
⑤シート ベルト -----	58
⑥ショルダー アジャスター -----	59
⑦格納式リヤ ドア サンシェード-----	316
⑧パワー ウィンドウ -----	195
⑨カーゴ ルーム ランプ -----	312
⑩リヤ アンダー ミラー -----	203
⑪フロント シート -----	43
⑫SRSサイド エアバッグ -----	80
⑬乗降用グリップ -----	323
⑭リヤ シート -----	49

内装 (2)

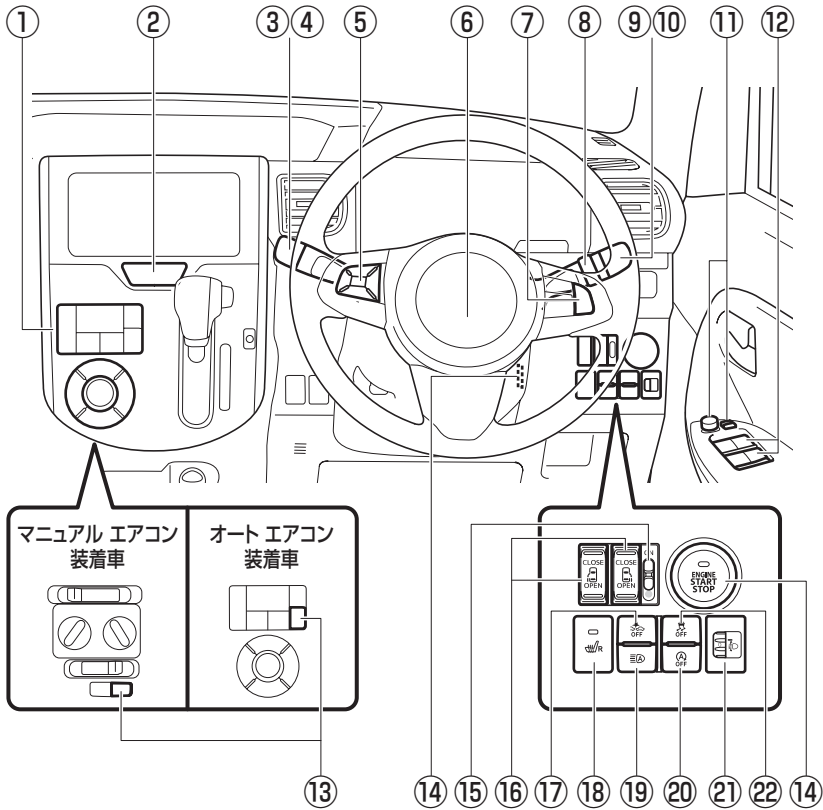
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①プッシュ オープン カップ ホルダー (前席) -----	320
②助手席SRSエアバッグ-----	74
③メーター -----	208
④セレクト レバー-----	262
⑤運転席SRSエアバッグ-----	74
⑥インパネ アッパー ボックス -----	318
⑦パワー ウィンドウ スイッチ -----	195
⑧発炎筒-----	334
⑨グローブ ボックス -----	318
⑩ショッピング フック-----	322
⑪アクセサリ ソケット -----	314
⑫駐車ブレーキ-----	256
⑬チルト ステアリング レバー -----	204
⑭フューエル リッド オープナー-----	193
⑮ボンネット オープナー-----	190

運転席まわり

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①エアコン	
マニュアル エアコン-----	288
オート エアコン-----	296
②非常点滅表示灯スイッチ-----	242
③フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ-----	243
④リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ-----	244
⑤ステアリング スイッチ-----	306
⑥ホーン スイッチ-----	247
⑦POWERモード切り替えスイッチ -----	259
⑧フォグ ランプ スイッチ-----	245
⑨ライティング スイッチ-----	234
⑩方向指示レバー -----	241
⑪ドア ミラー スイッチ -----	199
⑫パワー ウィンドウ スイッチ -----	195
⑬リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ-----	245
⑭エンジン スイッチ	
プッシュ エンジン スイッチ -----	249
キー差込みタイプ -----	248
⑮パワー スライド ドア オフ スイッチ-----	178
⑯パワー スライド ドア スイッチ（左側／右側） -----	178
⑰スマートアシストOFFスイッチ -----	134
⑱運転席シート ヒーター スイッチ-----	246
⑲ハイ ビーム アシスト スイッチ -----	236
⑳アイドリング ストップOFFスイッチ -----	281
㉑光軸調整ダイヤル -----	240
㉒VDC&TRC OFFスイッチ -----	97

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう



必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に -----	12
エンジンをかけるときは -----	15
走行しているときは -----	16
駐停車するとき -----	19
安全な燃料給油のために -----	21
SRSエアバッグについて -----	23
CVT車について -----	25
お子さまを乗せるときは -----	27
お車を長持ちさせるには -----	31
こんなときは -----	34
知っておいていただきたいこと ----	37

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわずに行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。

点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

(シート→ 42 ページ)

(車体各部の調整→ 199 ページ)

シート ベルトはしっかりと着用してください

走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。

(後席でも必ずシート ベルトを着用してください。)

シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。必ず正しい着用方法を身に付けてください。

(正しい着用→ 55 ページ)



妊娠中の方もシートベルトを着用してください

妊娠中の方も次の要領でシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあります。危険です。

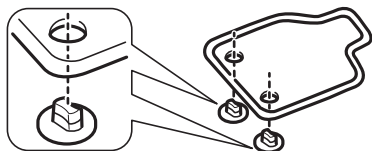


必読！ドライバーのみなさまへ 走行する前に

フロア マットはスバル純正品 を使用してください

フロア マットを使用するときは、以下の項目を必ず守って正しく装着してください。

- スバル純正であっても、他車種および異なる年式のフロア マットは使用しないでください。
- 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
- ずれないようにフロア マット付属の専用フックで必ず固定してください。



- 重ねて使用しないでください。
- 運転前にフロア マットが正しく固定されていることを確認してください。
- フックの破損などにより、フロア マットが固定できなくなったときは、すみやかにフロア マットの使用を中止してください。

これらを守らないと、ブレーキ ペダルやアクセル ペダルにフロア マットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体に当たるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。

タイヤ空気圧は、最低でも月に 1 回は点検を行ってください。

タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやリヤ ゲートなど）やアルミ部分にとりつけることはできません。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。



CVT車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でセレクトレバーを必ずPレンジにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンを始動してください。

(エンジンのかけかた→ 260 ページ)

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、次のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、お車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 371 ページ)

下り坂ではエンジン ブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂を回レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。

このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてセレクト レバーを回レンジまたは、回レンジに入れてエンジン ブレーキを併用しましょう。

その際には、急激なエンジン ブレーキ（セレクト レバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確かめてください。

効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき

→ 332 ページ）



高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。



必読！ドライバーのみなさまへ 走行しているときは

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤ シートの背もたれを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

(シート→ 42 ページ)

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。



駐停車するときには

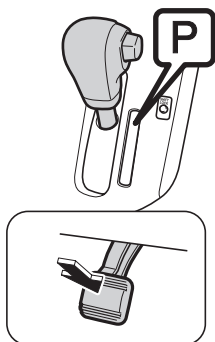
駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。



燃えやすい物のそばにお車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。お車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。

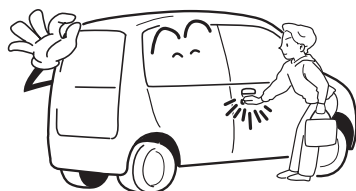
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、お車を止めたりしないでください。

お車から離れるときに注意していただきたいこと

お車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。

お車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、乳幼児のみを車内に残してお車から離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。



必読！ドライバーのみなさまへ 駐停車するときは

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にセレクト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、お車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

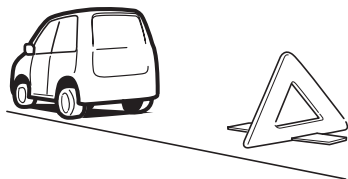
また、風通しの良くない所や風向きによっては、排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。



高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）はお車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスク ホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスク ホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。ただし、アイドリング ストップしたときは、アイドリング運転は不要です。

お車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態でお車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。

よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



燃料給油時には、必ず次のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。必ず次のことをお守りください。

- エンジンには必ず止めてください。
- お車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。



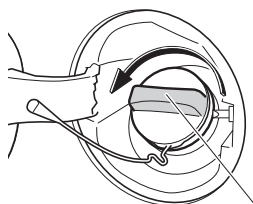
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

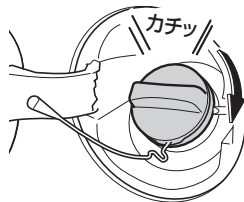
* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

必読！ドライバーのみなさまへ 安全な燃料給油のために

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方一人で行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。



ツマミ部分



- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料がお車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したまま放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- スバル指定のフューエル キャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

シート ベルトを着用してください

SRS*エアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトと併用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。

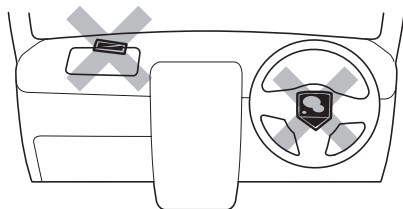
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

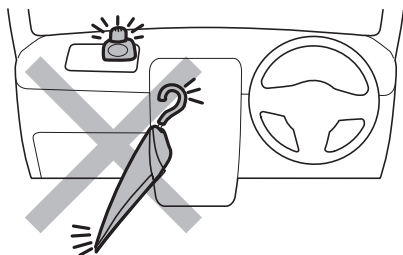
パッド部、インストルメントパネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーをおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



* Supplemental Restraint System (サブプリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。

必読！ドライバーのみなさまへ SRSエアバッグについて

走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。

また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ装着車について

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがありますので、次のことを守ってください。

- ドア近辺にもたれかからないでください。
- ドアやその周辺にカップ ホルダーなどを取り付けないでください。
- フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがありますので、フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル指定のシート カバー以外は取り付けないでください。

(SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン
シールド エアバッグ→ 80 ページ)

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルド シートを使用してください。
チャイルド シートの使用方法是チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

(SRSエアバッグ→ 74 ページ)

CVT車について

CVT車の運転のページも併せてお読みください。

CVT車の特性や操作上で注意していただきたいこと

CVT車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外では、動力がつながった状態になり、アクセル

ペダルを踏まなくてもゆっくりとお車が動き出します。

停車中は平坦路であってもお車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください

ペダルの踏み間違えないように、右足でアクセルペダルおよびブレーキペダルの位置を確認し、必ずセレクトレバーがPレンジの位置になっていることを確認してください。

ブレーキペダルは右足で操作してください

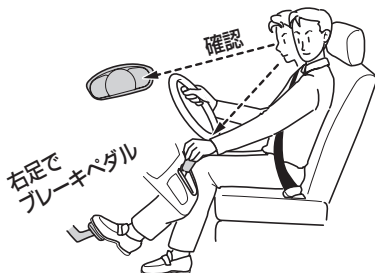
ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。



スタートするときはブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください

セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバーを操作してください。また、アクセルペダルを踏んでのセレクトレバー操作はしないでください。

(運転のしかた→ 266 ページ)



必読！ドライバーのみなさまへ CVT車について

走行中はセレクト レバーを[N] レンジの位置に入れないでく ださい

走行中はセレクト レバーを[N]レンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず
思わぬ事故の原因となります。

また、下り坂などでは必ず路面状態やス
ピードに応じてセレクト レバーを[D]レン
ジまたは、[R]レンジに入れてエンジン ブ
レーキを使用してください。ブレーキ ペ
ダルを踏み続けることはやめてください。



坂道などで注意していただ きたいこと

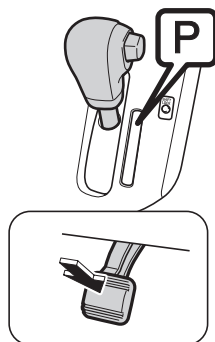
坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[S]
レンジまたは[R]レンジに入れたまま惰性
で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰
性で前進することは絶対にやめてくださ
い。

エンストを起こし、ブレーキの効きが悪
くなったり、ハンドルが重くなるなど、
思わぬ事故や故障の原因となるおそれ
があり危険です。

駐停車するときは

駐停車するときは、必ずセレクト レバー
を[P]レンジの位置にし、しっかりと駐車
ブレーキをかけてください。

また、お車が完全に停止するまでセレクト
レバーを[P]レンジには入れないでくだ
さい。

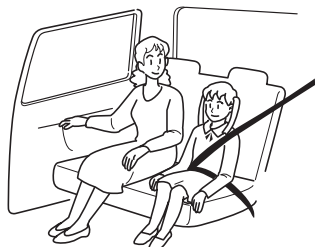


お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

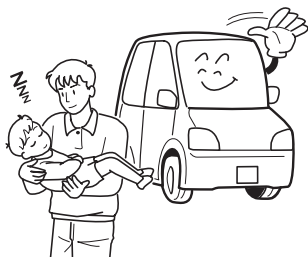
ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。開閉、施錠、解錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド プルーフを使用してください。

(車体各部の開閉→ 142 ページ)



お車から離れるときはお子さまも一緒に離れてください

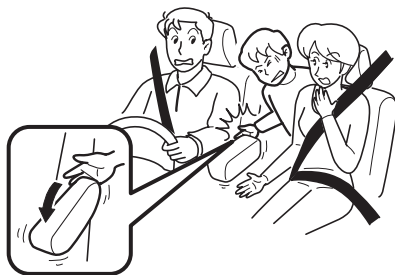
お子さまのいたずらによるお車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒にお車から離れてください。



シート、アーム レストの操作は大人が注意しながら行ってください

操作を行うときは動いている部分にお子さまの手や足を挟まないように注意してください。

隙間に指などが挟まると、けがをするおそれがあります。

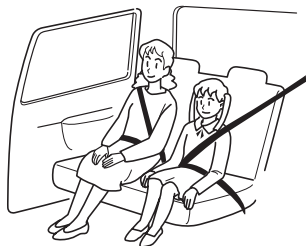


必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。

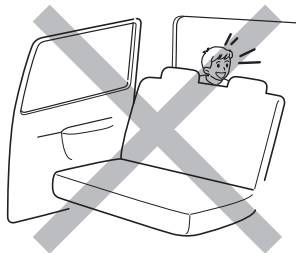
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。



お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



お子さまにもシート ベルトを着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。

また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルド シートを使用してください。通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
- チャイルド シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルド シート→ 61 ページ）

- チャイルド シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもチャイルド シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応 ISO FIX固定バー＆テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 68 ページ)

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。



* ISOはInternational Organization for Standardization（国際標準化機構）の略です。

必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルド シートを使用してください。
チャイルド シートの使用方法是チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

（SRSエアバッグ→ 74 ページ）

パワー ウインドウはお子さまに操作させないでください

パワー ウインドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ロック スイッチを“OFF”にすると、運転席ウインドウ ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF”にしてください。

（ロック スイッチ→ 196 ページ）



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。



お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、スバルが推奨するものに基づいています。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態では、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。

腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

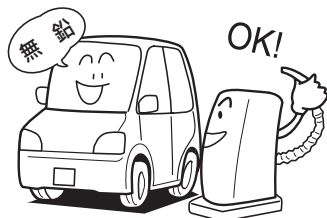
必読！ドライバーのみなさまへ お車を長持ちさせるには

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

お車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けしないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、このお車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、スバル販売店にご相談ください。
- 無線機やスバル指定部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スバル販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にスバル指定部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

指定部品を使いましょう

部品を交換する場合は「スバル指定部品」のご使用をおすすめします。



こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→ 225 ページ)

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。

また、あわてて冷却水注入口を外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバー ヒートの処置→ 350 ページ)

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤ パンク応急修理セット

→ 338 ページ)

(タイヤの交換→ 383 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所にお車を停車し、下回りを点検してください。

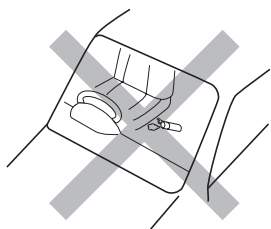
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

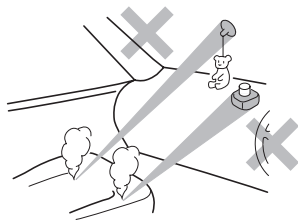
地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、お車に異常のおそれがあります。このようなときは、スバル販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、次の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。



- ウインドウ ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。



- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウ ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドウ ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いが出るときは、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

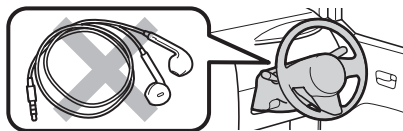
車内に水などをかけないでください

インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。
スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグ システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



- 運転者はハンズ フリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

次のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

知っておいていただきたいこと

RF送信機の取り付けについて

RF送信機は、次のような電子システムに影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

- 燃料噴射システム
- ABS（アンチロック ブレーキ システム）
- SRSエアバッグ システム
- プリテンショナー付シート ベルト
- キーレス アクセス&プッシュ スタート

故障診断コネクタに機器を取り付けないで

お車の故障診断コネクタには、点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。故障診断装置以外の機器を接続すると、車両システムに悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルをまねくおそれがあります。

特定機器以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

スバルおよびスバルが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

必読！ドライバーのみなさまへ 知っておいていただきたいこと

イベント データ レコーダー

お車には、イベント データ レコーダー（EDR）が装備されています。EDRは一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。スバルにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDRデータの情報開示

次の場合を除き、スバルはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここというスバルは、富士重工業株式会社を意味しています。】

MEMO

MEMO



安全装備

お車を運転するうえで乗員の安全を保護するための
装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢	42
フロント シート	43
リヤ シート	49

■ シート ベルト

正しい着用	55
3点式 ELR シート ベルト	58
プリテンショナー&可変ロード	
リミッター機構付 シート ベルト	60

■ チャイルド シート

チャイルド シート	61
チャイルド シートの選びかた	63
チャイルド シートの固定のしかた	68

■ SRS エアバッグ

SRS エアバッグ	74
SRS サイド エアバッグ、	
SRS カーテン シールド エアバッグ	80
SRS エアバッグ警告灯	85
SRS エアバッグ コンピューター	86

■ ABS

ABS (EBD 機能付)	88
---------------	----

■ エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナル	90
--------------------	----

■ VDC&TRC

VDC (ピークル ダイナミクス	
コントロール)	91
TRC	93
メーター表示	95
VDC&TRC OFF スイッチ	97

■ ヒル ホールド システム

ヒル ホールド システム	99
--------------	----

■ スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢ	100
衝突警報機能 (対車両・対歩行者)、	
衝突回避支援ブレーキ機能	
(対車両・対歩行者)	106
誤発進抑制制御機能 (前方・後方)	116
車線逸脱警報機能	122
先行車発進お知らせ機能	125
メーター表示	127
スマートアシスト OFF スイッチ	134

■ コーナー センサー

コーナー センサー (リヤ)	136
----------------	-----

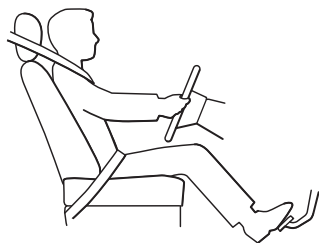


シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、次のことに注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の上にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシート ベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シート ベルト→ 55 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。



フロント シート

⚠警告

- 助手席シートに専用のスバル指定品以外を取り付けしないでください。助手席シート ベルトの正常な作動のさまたげになるおそれがあります。
- また、スバル指定シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。

SRSサイド エアバッグ、

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド

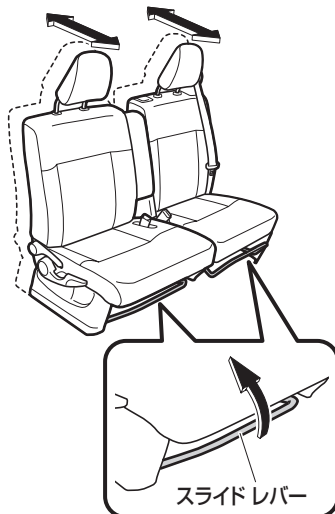
エアバッグ装着車の場合

- フロント シートに専用のスバル指定品以外を取り付けしないでください。シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- また、スバル指定シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- フロント シート表皮の張り替えやフロント シートの取り付け、取り外し、修理などを行わないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ずスバル販売店にご相談ください。

■ スライド レバー

▼ 調整方法

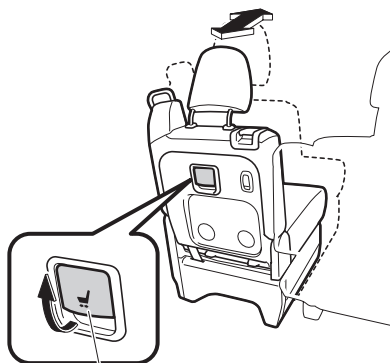
シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



■ 助手席シートバック レバー (スライド)

▼ 調整方法

助手席背もたれ裏側のスライド レバーを引き上げながら、背もたれを持って、前後にシートをスライドします。



助手席シートバックレバー (スライド)

シート スライド調整

福祉車 (リフトタイプ) 以外

▼ 調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。





リクライニング調整

福祉車（リフトタイプ）以外

▼ 調整を行う前に

⚠ 警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼ 背もたれを元に戻すときは

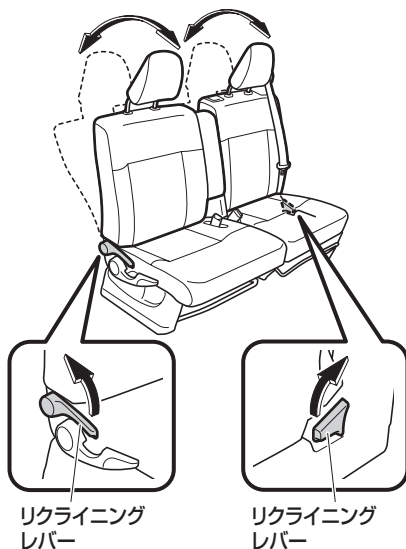
⚠ 注意

- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

■ リクライニング レバー

▼ 調整方法

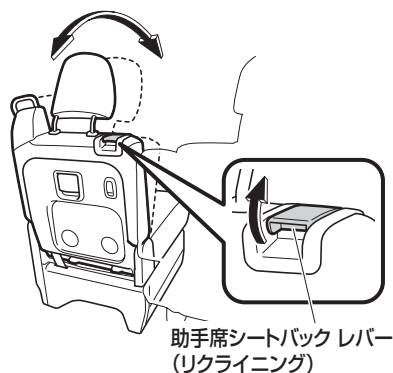
リクライニング レバーを引き上げながら背もたれの角度を調整します。



■ 助手席シートバック レバー （リクライニング）

▼ 調整方法

助手席背もたれ上側のリクライニング レバーを引き上げながら、背もたれ角度を調整します。





ヘッド レストの調整

▼ 調整を行う前に

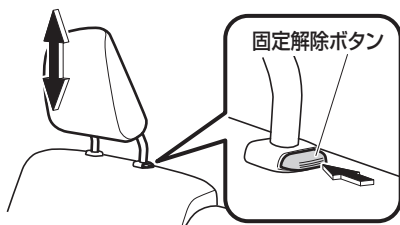
⚠警告

- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

- 下げるときは、固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定します。
- 取り外すときは、固定解除ボタンを押しながらヘッド レストを引き抜きます。

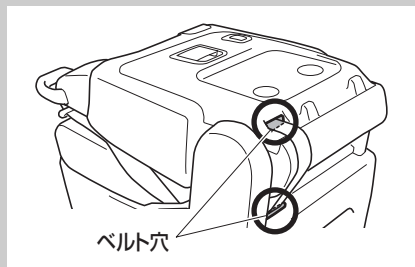


助手席背もたれの前倒し (シートバック テーブル)

助手席シートの背もたれを前に倒すと、テーブルとして利用したり、リヤ シートと併せて長い荷物を載せたりできます。

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はテーブルとして使用しないでください。急ブレーキをかけたときに置いている物が落ち、思わぬ事故につながるたり、熱い飲み物がこぼれるとやけどをするおそれがあります。
- 背もたれを前倒ししたあと、また元に戻したあとは背もたれを軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 助手席シート後ろのベルト穴にごみなどの異物を入れないでください。衝突時にシート ベルトが十分な効果を発揮できないおそれがあります。



- 助手席シート後ろのベルト穴付近に足などをせないでください。シート ベルトのプリテンショナー機構が作動したとき、やけどをするおそれがあります。





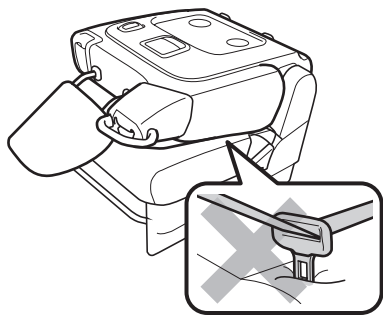
⚠ 注意

- 背もたれを操作するときは、手や足などを挟まないように注意してください。
また、背もたれが急に動くことがあります。必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しないでください。シートが破損したり、思わぬけがをするおそれがあります。
- 運転席シートは無理に前倒ししないでください。前倒しできる機構ではないため、シートが破損するおそれがあります。



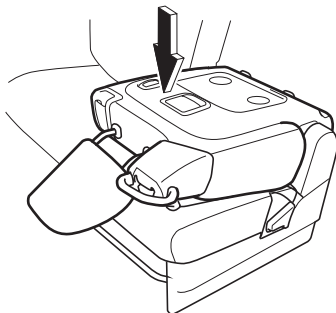
アドバイス

- 背もたれを前倒しするときは、シートベルトのタング プレートの向きに注意してください。シートにタング プレートのあとが残ることがあります。



▼ 操作方法

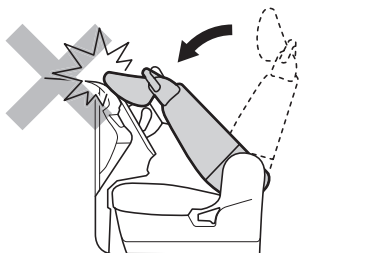
1. 助手席シートを後方いっぱいまでスライドします。
2. ヘッド レストを一番低い位置に調整します。
3. リクライニング レバーを引いて、背もたれを前に倒します。
4. 背もたれを上から押して固定します。



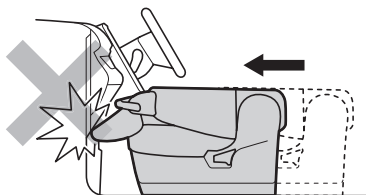


⚠注意

- 背もたれを前倒しするときは次のことに注意してください。シートがインストルメント パネルに当たり、破損するおそれがあります。
- ヘッド レストを取り外した状態での前倒し、および前倒し後の前方スライドをしない
- シートを前方にスライドした状態で背もたれを前倒ししない



- 背もたれを前倒しした状態でスライドするときは、前方に注意する



▼元に戻すとき

リクライニング レバーを引いて、背もたれを固定される位置まで引き上げます。

⚠注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。



アドバイス

- シート ベルトがロックして背もたれが起こせないときは、途中まで起こしたあといったん倒し、再度起こしてください。
または、一度シート ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。



運転席シート リフター

オプション/グレード別装備

シート全体の高さ調整を行うことができます。

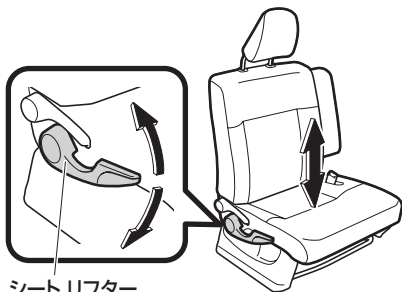
▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 調整は必ず運転前に行ってください。
走行中に調整を行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

シート リフター レバーを引き上げるとシート全体が上昇し、押し下げるとシート全体が下降します。



シートリフター
レバー

運転席シート ヒーター

オプション/グレード別装備

運転席シート ヒーター スイッチを“ON”にすると、運転席のシートを暖めることができます。

(運転席シート ヒーター スイッチ
→ 246 ページ)

アーム レスト

福祉車（リフトタイプ）以外

▼ 使用方法

前に倒して使用します。



⚠注意

- アーム レストを操作するときは、シートとアーム レストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アーム レストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アーム レストが破損したりけがをするおそれがあります。



アドバイス

- 小物入れとして使用することもできます。

(フロント アーム レスト
ボックス→ 318 ページ)

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。



リヤ シート

福祉車（スロープタイプ）以外

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

シート スライド調整

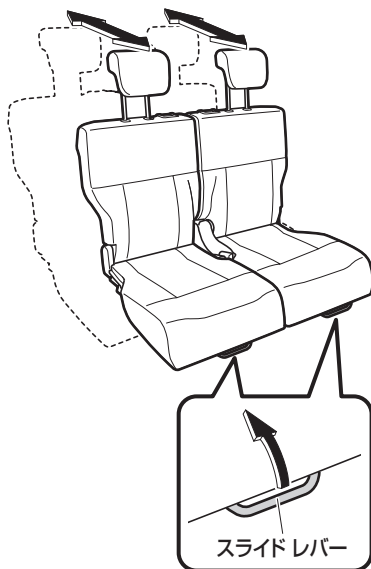
▼ 調整を行う前に

⚠注意

- スライド調整は必ず停車中に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



👉 アドバイス

- 左右独立でスライド調整することができます。





リクライニング調整

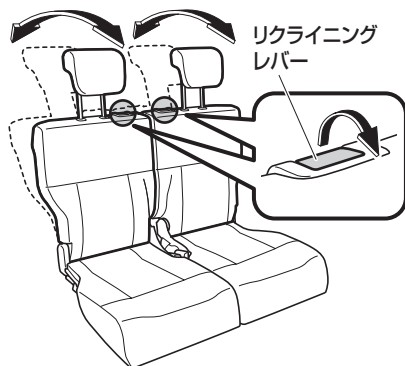
▼ 調整を行う前に

⚠ 注意

- リクライニング調整は必ず停車中にを行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

リクライニング レバーを引きながら、背もたれの角度を調整します。



⚠ 注意

- リクライニング調整するときは、背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをすることがあります。



アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

ヘッド レストの調整

▼ 調整を行う前に

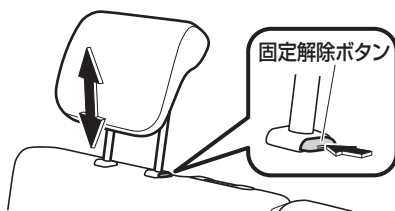
⚠ 警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

使用するときには、ヘッド レストを引き上げて「カチッ」という音がする位置で固定します。

- 下げるときは、固定解除ボタンを押しながらヘッド レストを押し下げます。
- 取り外すときは、固定解除ボタンを押しながらヘッド レストを引き抜きます。





背もたれの前倒し

リヤ シートを操作することで、カーゴルームを広くすることができます。

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

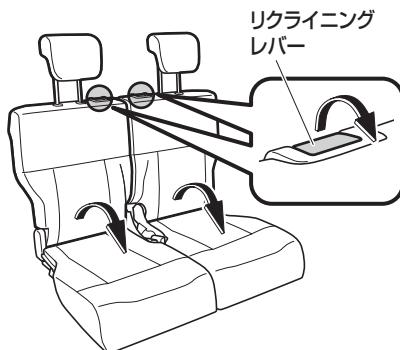
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

▼ 操作方法

リクライニング レバーを引きながら背もたれを前に倒します。



▼ 元に戻すときは

背もたれを引き起こします。

⚠ 注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。





フル ラゲージ モードにすると

リヤ シートを格納することで、荷室を広く使うことができます。左右独立して格納ができます。



アドバイス

福祉車（リフトタイプ）

- 助手席後方のリヤ シートは格納できません。

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

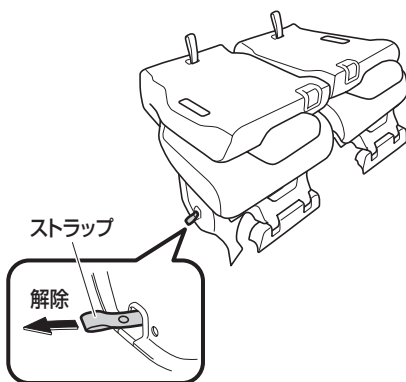
- リヤ シートをフル ラゲージ モードにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- 操作するときは、手や足などを挟まないように注意してください。

▼ 格納方法

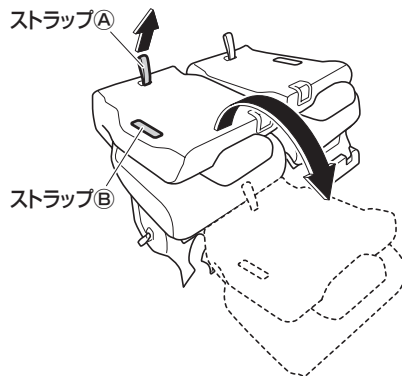
⚠ 注意

- 格納操作をするときは前（リヤ シート）側から行ってください。後ろ（カゴ ルーム）側から操作すると、体がシートの重みで前方に引っぱられ、けがをするおそれがあります。
- 格納するときは、シート クッション下を持たないでください。シート クッション下の部品でけがをするおそれがあります。

1. フロント シートを前方いっぱいまでスライドします。
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドします。
3. リヤ シートのヘッド レストを一番下まで下げます。
4. リヤ シートの背もたれを倒します。
5. ストラップを引いて、ロックを解除します。



6. リヤ シート前方から、ストラップ ①②両方を持ってリヤ シートを持ち上げ、車両前方に格納します。

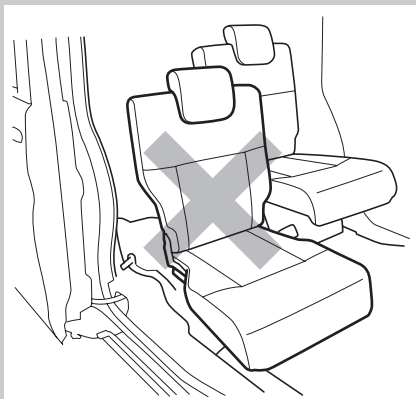




▼ 格納した後に

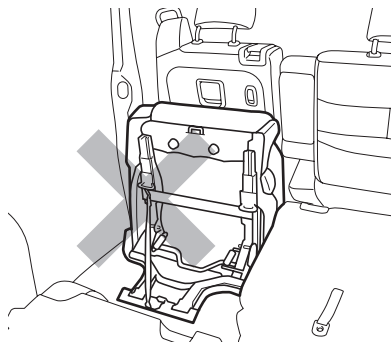
⚠ 警告

- 背もたれだけを元に戻して、人を乗せないでください。リヤ シートが固定されていないため、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

- リヤ シートは立てた状態にしないでください。リヤ シートが固定されていないためシートが急に倒れたり、シート クッション下の部品でけがをしたりするおそれがあります。

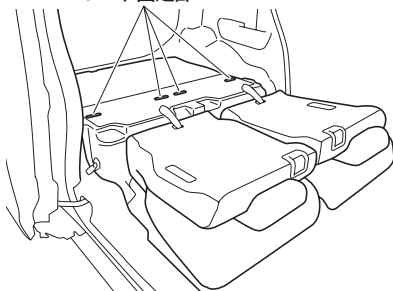


▼ 元に戻すときは

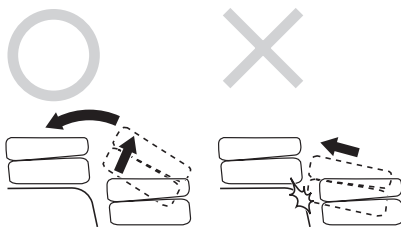
⚠ 注意

- リヤ シートを戻す前に、フロアのシート固定部に異物が入っていないことを確認してください。異物が入っていると、ロックができなかったり、ロック機構が損傷したりするおそれがあります。

シート固定部



- 元に戻すときは、必ず前（リヤ シート）側からストラップを上方に引き上げて、元の位置に戻してください。後ろ（カーゴ ルーム）側からストラップを後方に引き上げると、リヤ シートと車体が干渉し車両を損傷するおそれがあります。

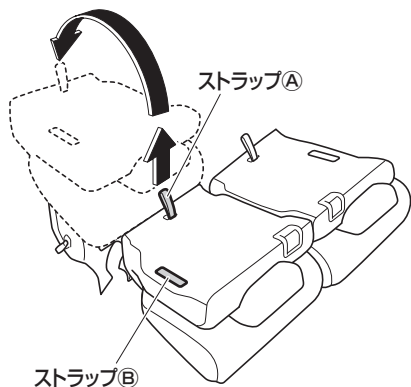


- 元に戻すときは、シート クッション下を持たないでください。シート クッション下の部品でけがをするおそれがあります。





1. フロント シートを前方いっぱいまでスライドします。
2. リヤ シート前方から、ストラップ
①②両方を持ってシートを持ち上げ、
後方へ戻します。



3. 上から押して、リヤ シートを固定します。
4. リクライニング レバーを引いて、背もたれを固定される位置まで起こします。

▼ 元に戻したときは

⚠警告

- シートを戻したときは、必ずシートを左右にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となつて、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

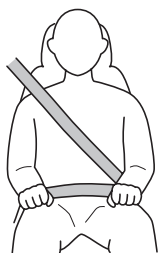


シートベルト

正しい着用

運転者はお車を運転する前に、次のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱い方を身に付けてください。



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用してください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。





⚠警告

- シートベルトは、それを着用するの
に十分な大人の体格を持った人用に設
計されています。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシ
ートの着用が法律で義務付けられてい
ますので、必ずチャイルドシート
(別売)を使用してください。
(チャイルドシート→61ページ)
(チャイルドシートの固定のしかた
→68ページ)
- 妊娠中の方もシートベルトを着用し
てください。ただし、万一のとき腹部
などに強い圧迫を受けるおそれがあり
ますので、シートベルトの着用につ
いては、医師に相談のうえ、注意事項
を確認してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ
低い位置、お腹の膨らみの下に密着さ
せて着用してください。腰部ベルトが
腰骨からずれていると、衝突したとき
などに腹部に強い圧迫を受け、けがを
するおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必
ず胸部に着用してください。肩部ベル
トを腹部にかけていると衝突したとき
などに、腹部に強い圧迫を受け、けが
をするおそれがあります。



⚠警告

- シートベルトは1人用です。2人以上
で1本のシートベルトを使用しない
でください。衝突時にシートベルト
が正常に動かず、けがをするおそれ
があります。



- シートの背もたれを必要以上に倒して
走行しないでください。衝突時に体が
シートベルトの下にもぐり、ベルト
が腰骨にかからず腹部にかかること
になり、シートベルトによりけがを
するおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近付
いて運転しないでください。衝突した
ときなどシートベルトの効果が発揮
されません。
- シートベルト使用時、クリップなど
でたるみをつけないでください。衝突
時など効果を発揮しなくなります。



⚠警告

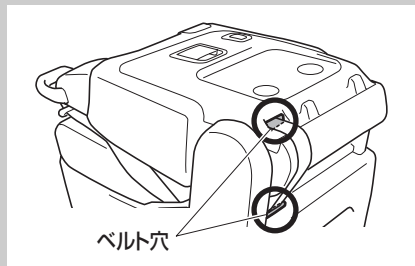
- シート ベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シート ベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシート ベルトの脱色や染色もやめてください。
- シート ベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシート ベルト一式を交換してください。シート ベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシート ベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シート ベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



⚠警告

助手席シート ベルト

- 助手席シート後ろのベルト穴にごみなどの異物を入れないでください。衝突時にシート ベルトが十分な効果を発揮できないおそれがあります。



- 助手席シート後ろのベルト穴付近に足などをのせないでください。シートベルトのプリテンショナー機構が作動したとき、やけどをするおそれがあります。



**⚠注意****助手席シート ベルト**

- 助手席シートの背もたれを倒した状態で、ベルトが巻き取りにくいときは、背もたれを起こしてください。
- 炎天下での駐車後は、シート ベルトのタング プレートが熱くなり、やけどをするおそれがあります。熱くないことを確認してから使用してください。
- 助手席シート後ろのベルトを引っ張ったり、物をひっかけないでください。シート ベルトがロックして引き出せなくなります。
シート ベルトがロックした場合は、次のように操作してください。
- 背もたれが起きた状態でシート ベルトが引き出せない場合は、一度シートの背もたれを前に倒します。
- 助手席シートがテーブルの状態でシート ベルトがロックして、背もたれが起こせない場合は、背もたれを途中まで起こしたあといったん倒し、そのあと、起こします。
または、一度シート ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

3 点式ELRシート ベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートを調整します。
2. タング プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタング プレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

**⚠警告**

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

⚠注意

- タング プレートを差し込むとき、タング プレートでバックルを無理にこじらないでください。

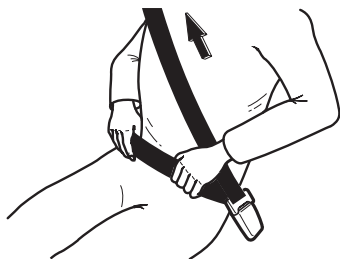


アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- フロント シート ベルトは、シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

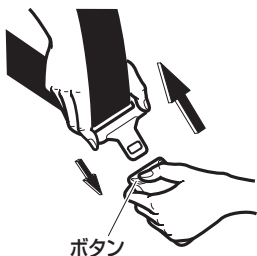
（シート ベルト警告灯
→ 228 ページ）

- 3 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、ベルトやタング プレートに手を添えてゆっくり戻します。



ボタン

ショルダー アジャスター

■ 運転席

シート ベルトが肩に十分かかるように、シート ベルトの高さを調整することができます。

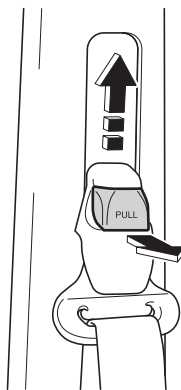
シート ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに使用します。

▼ シート ベルトを下げるとき

- 1 ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
- 2 シート ベルトを「カチッ」という音がする位置まで下げます。

▼ シート ベルトを上げるとき

- 1 ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
- 2 シート ベルトを「カチッ」という音がする位置まで上げます。



アドバイス

- 4 段階に調整できますので、最適な位置で固定してください。





プリテンショナー& 可変ロード リミッター機構付 シート ベルト

■ フロント シート

⚠警告

- プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 次のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。

👉 アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロード リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- 可変ロード リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



チャイルド シート

チャイルド シート

6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルド シートをご使用ください。

車両に固定するチャイルド シートには、ISO^{*1} FIX対応ISO FIX固定バー & テザー アンカーで固定するタイプとシート ベルトで固定するタイプがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 68 ページ)

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。



アドバイス

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

(チャイルド シートの種類→ 62 ページ)

チャイルド シートの 質量グループについて

ECE R44^{*2} の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9～18kg
グループII	15～25kg
グループIII	22～36kg

^{*1} International Organization for Standardization
(国際標準化機構) の略

^{*2} チャイルド* シートに関する国際的な安全基準です。





チャイルド シートの種類

■ ベビー シート

体重の目安：～13kg

質量グループ 0、0+に相当します。



■ チャイルド シート

体重の目安：9～18kg

質量グループ 0、0+およびⅠに相当します。

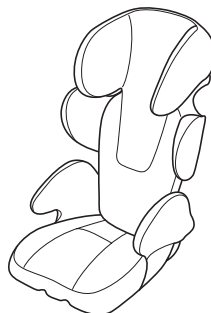


■ ジュニア シート

体重の目安：15～36kg

年齢の目安：3～12 歳

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。



(チャイルド シートの質量グループ
について→ 61 ページ)



チャイルド シートの選びかた

福祉車以外

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

- ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーで取り付ける場合
(ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 64 ページ)
- シート ベルトで取り付ける場合
(シート ベルトで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 67 ページ)



アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、スバル販売店、チャイルド シート製造業者、または販売店にご相談ください。



ISO* FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーで 取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤ シート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
O(10kgまで)	E	ISO/R1	IL*1*2
O+(13kgまで)	E	ISO/R1	IL*1*2
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I(9～18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF*1*2
	B1	ISO/F2X	IUF*1*2
	A	ISO/F3	IUF*1*2
II(15～25kg)		—	×
III(22～36kg)		—	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL：この質量グループでの使用を許可された次の「ISO FIXチャイルド シートのリスト」に示す準汎用(セミ ユニバーサル)カテゴリーのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

×：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

*1 リヤ シートの背もたれを直立状態にしてください。

*2 ヘッド レストを取り外してください。

●ISO FIX対応チャイルド シートのリスト

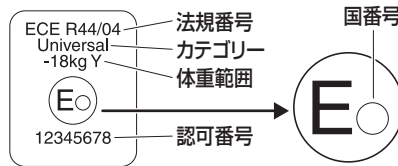
質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルド シート	カテゴリー
O(10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIXベビー シート	準汎用
O+(13kgまで)	E	ISO/R1		

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルド シート製造業者または販売店にご相談ください。

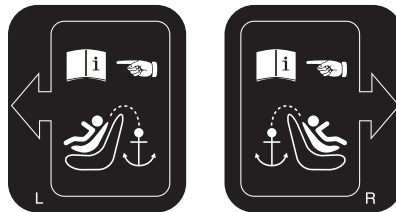


アドバイス

- このお車のISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーは、2006年10月1日施行の新保安基準に適合しています。
これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、次の認可ラベルが表示されています。
- ECE R44 の認可マークです。
汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- スバル純正ISO FIX対応テザー アンカーの位置を示すマークの一例です。



- スバル純正の準汎用（セミ ユニバーサル）カテゴリー、および汎用（ユニバーサル）のチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



アドバイス

- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 詳しくは、スバル販売店、チャイルド シートの製造業者、または販売店にご相談ください。



シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロント シート	リヤ シート
	助手席	左右席
0(10kgまで)	×	U
0+(13kgまで)	×	U
I(9～18kg)	×	U*
II(15～25kg)	×	U*
III(22～36kg)	×	U*

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートが取り付け可能です。

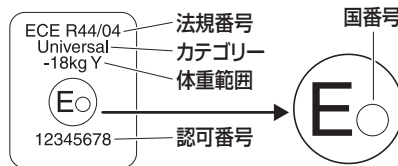
×

* ヘッド レストとチャイルド シートが干渉して、チャイルド シートが正しく取り付けられない場合、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルド シート製造業者または販売店にご相談ください。

👉 アドバイス

- チャイルド シートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
(チャイルド シートの選びかた→ 63 ページ)
- ECE R44 に適合している「U」のチャイルド シートには、次の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用(ユニバーサル)チャイルド シートの認可であることを表します。





チャイルド シートの固定のしかた

福祉車（スロープタイプ）以外

⚠警告

- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルド シートを絶対に取り付けないうでください。事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 急ブレーキや事故の際、お子さまの安全のために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルド シートを使用してください。
また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シート（ジュニア シート）を使用しているときは、ジュニアシート付属の取扱説明書に従ってシートベルトで固定してください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付け使用をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
- チャイルド シートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または、荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルド シートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- シート ベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。



⚠警告

SRSサイド エアバッグ、

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド

エアバッグ装着車

- チャイルド シートに座らせている場合でも、ドアやシート、フロント・センター ピラー、ルーフ サイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。6 歳未満のお子さまは、チャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルド シートを使用してください。取り付けはチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。



アドバイス

チャイルド シートをリヤ シートに取り付け たときは

- 運転席とチャイルド シートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤ シートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→ 42 ページ)

チャイルド シートを使用しないときは

- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に固定するか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。



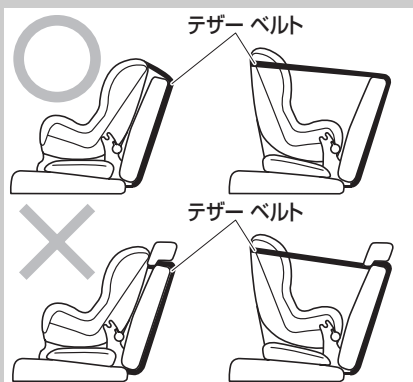


ISO FIX対応ISO FIX 固定バー&テザー アンカーによる固定

▼チャイルド シートを取り付ける前に

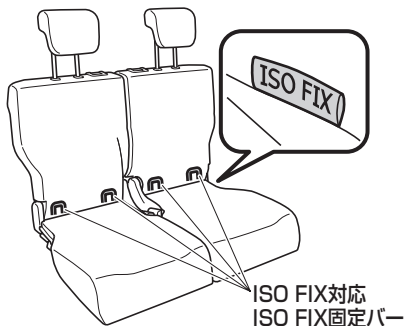
⚠警告

- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
異物やシート ベルトなどのかみ込みがあるとチャイルド シートが正しく固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートを取り付けるときは、リヤ シートのヘッド レストを取り外してから、テザー アンカーに固定してください。

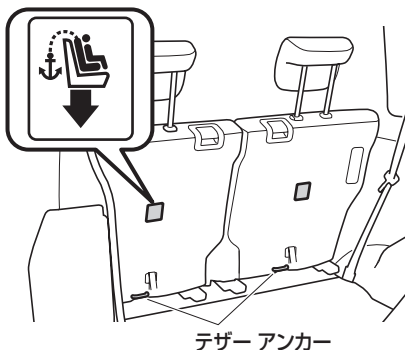


▼取り付けかた

1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー & テザー アンカーの位置を確認します。
- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。



- テザー アンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。



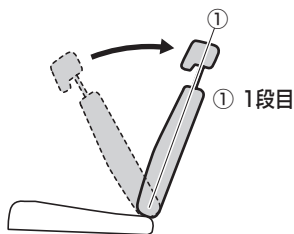
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。



チャイルド シート

3. リヤ シートの背もたれの角度を調整します。

- 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置まで起こします。



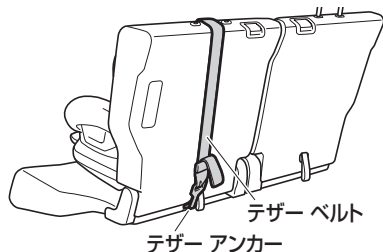
4. チャイルド シートを取り付けるシートのヘッド レストを取り外します。

5. チャイルド シートのベース シートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。

6. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）をチャイルド シートのベースシートに確実に取り付けます。

7. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）を上下左右に軽くゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。

8. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）のテザー ベルトのフックをテザー アンカーに確実に引っかけます。



⚠警告

- テザー ベルトのフックは、必ずテザー アンカーに固定してください。誤ってストラップなどで固定すると、衝突したときなどにシートが損傷したり、チャイルド シートが正しく固定されず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



9. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）のテザー ベルトがピンと張る（5kg程度）まで強く引っ張って、チャイルド シートの上側を確実に固定します。

10. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）のテザー ベルトを軽く引っ張り、テザー アンカーに確実に固定されていることを確認します。

11. チャイルド シートが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

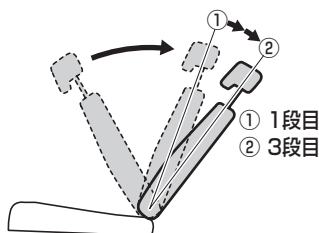




シート ベルトによる固定*

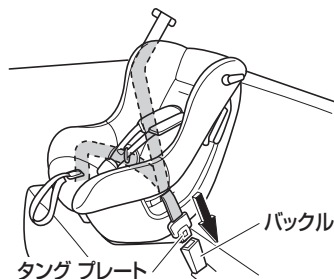
▼取り付けかた

1. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。
 2. リヤ シートの背もたれの角度を調整します。
- 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置に起こしてから、②3 段目の固定位置まで調整します。
(操作しづらいときは、チャイルドシートを置いたときに、チャイルドシートの背面とリヤ シートの背もたれとの間にすき間ができないように調整します。)



3. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。
- ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

4. タング プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。



5. バックルの中にタング プレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- タング プレートを差し込むとき、タング プレートでバックルを無理にこじらないでください。
6. チャイルド シートのロック オフ レバーを開き、肩ベルトをロック オフ レバーの下に通します。
 7. チャイルド シートに体重をかけてリヤ シートに押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせます。
 8. チャイルド シートのロック オフ レバーを閉じ、肩ベルトを固定します。

* 固定のしかたは代表例です。

また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。



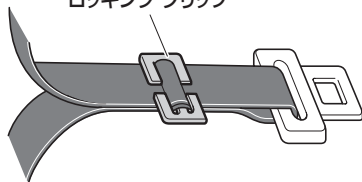
9. チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

⚠注意

- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

10. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロックング クリップを使用して固定します。

ロックング クリップ



👉 アドバイス

- ロックング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
また、ロックング クリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。



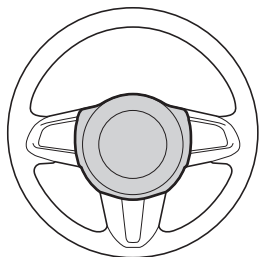
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

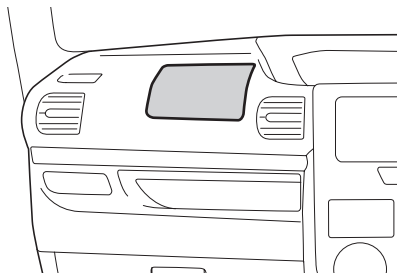
運転席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 55 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

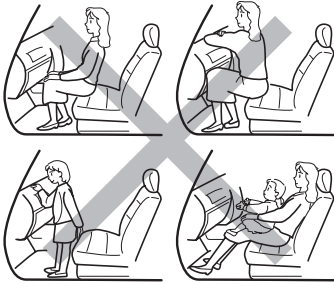
* Supplemental Restraint System（サブリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です。



⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているののでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず次の注意事項をお守りください。
- シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠警告

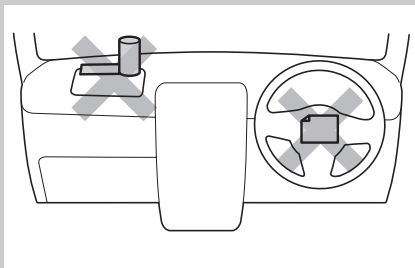
- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。





⚠警告

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上に飲み物や物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



⚠警告

- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、次の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。



⚠️注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドウ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠️注意

- 次のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルを取り外すとき
- 車両前部を修理するとき
- お車やSRSエアバッグを廃棄するとき
は必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

👉アドバイス

SRSサイド エアバッグ、

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド

エアバッグ装着車の場合

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、次のような作動をすることがあります。
- SRSエアバッグのみ作動
- SRSサイド エアバッグのみ作動
- SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動





作動する場合

SRSエアバックは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します。

走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバックが作動することがあります。

- 高速で縁石などに衝突したとき

縁石など

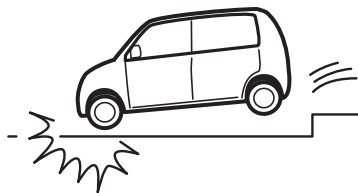


- 深い穴や溝に落ち込んだとき

深い穴や溝



- ジャンプして地面に衝突したとき



作動しない場合

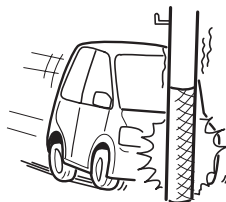
次のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき

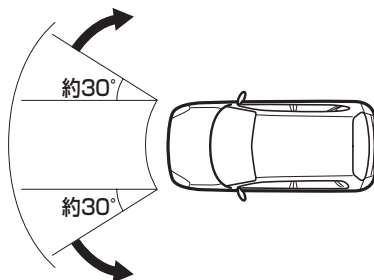
約20km/h以下



- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

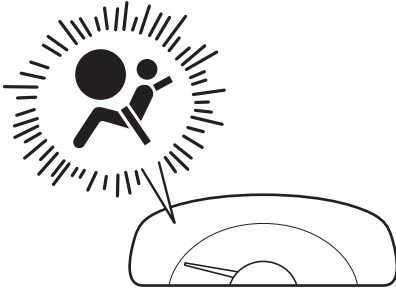


- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき





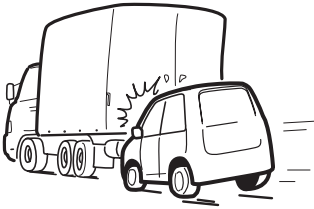
- SRSエアバッグ警告灯点灯時



- 車両が横転、転覆したとき

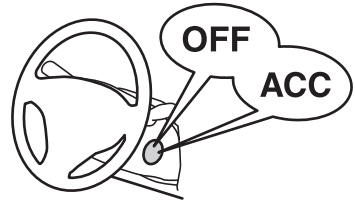


- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



次のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- 電源が“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき



次のようなときも作動しないことがあります
効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき





SRS*サイド エアバッグ、 SRSカーテン シールド エアバッグ

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、車両側方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

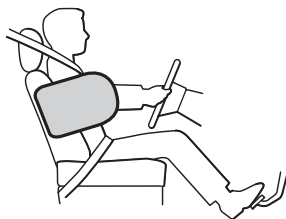
SRSサイド エアバッグ

SRSサイド エアバッグ装着車、

SRSサイド エアバッグ&

SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。

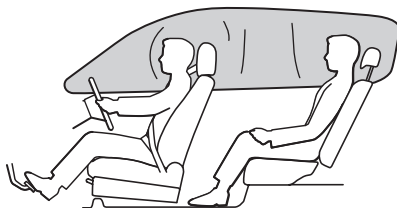


SRSカーテン シールド エアバッグ

SRSサイド エアバッグ&

SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者・助手席同乗者・リヤ シート左右席同乗者のおもに頭部への衝撃をやわらげる装置です。



* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です。



⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 55 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



⚠警告

- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのやけどをするおそれがあります。
- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、チャイルド シートをリヤ シートに装着して使用してください。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが作動しないおそれがあります。



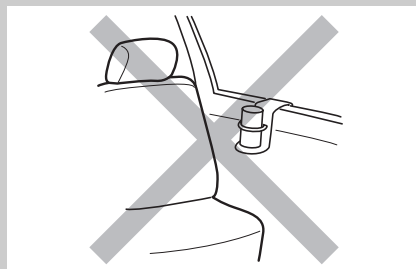


⚠警告

- フロント シート表皮の張り替えをしたり、フロント シート（SRSカーテン シールド エアバッグ装着車はフロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部も含む）を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、スバル販売店にご相談ください。
- フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル指定シート カバー以外は取り付けしないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおくと、SRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

⚠警告

- ドアやその周辺に専用のスバル指定品以外を取り付けしないでください。SRS サイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



- SRSカーテン シールド エアバッグ装着車は、フロント ガラス、フロント・リヤ ドア ガラス、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部などにアクセサリー、ハンズ フリー マイクなどを付けしないでください。SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



⚠警告

- フロント シート側部（SRSカーテン シールド エアバッグ装着車はフロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部も含む）などSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの効力を十分に発揮させるため、次の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。





⚠ 注意

- 次のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シート（SRSカーテン シールド エアバッグ装着車はフロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部も含む）を取り外すとき
- 車両側部を修理するとき
- お車やSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSカーテン シールド エアバッグが収納されている、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

👉 アドバイス

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、次のような作動をすることがあります。
- SRSエアバッグのみ作動
- SRSサイド エアバッグのみ作動
- SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動



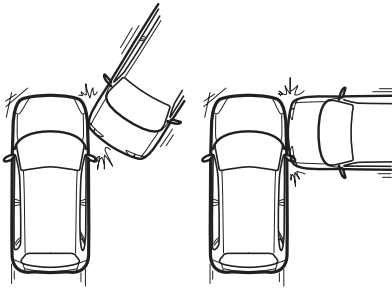
作動する場合

SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたとき作動します。

作動しない場合

次のような衝撃が弱いときには、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき



SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 74 ページ)
- SRSサイド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
- SRSカーテン シールド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
(SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド エアバッグ→ 80 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構 → 60 ページ)

⚠注意

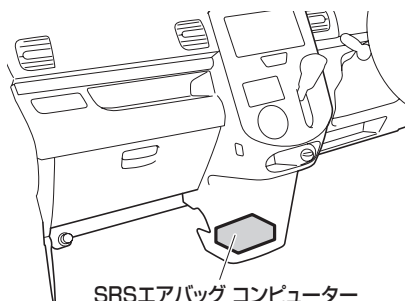
点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



SRSエアバッグ コンピューター

⚠注意

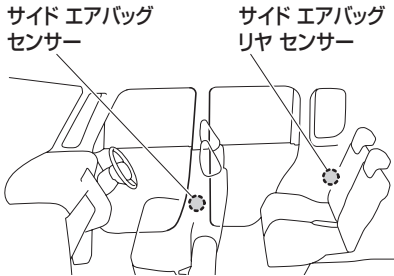
- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
- SRSエアバッグ、SRSサイド エアバッグ（オプション）、SRSカーテン シールド エアバッグ（オプション）が誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、飲み物などをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。



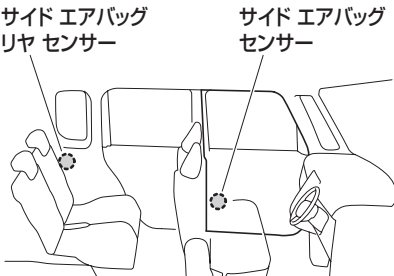
SRSサイド エアバッグ、 SRSカーテン シールド エアバッグ用 センサー

オプション/グレード別装備

▼ 運転席側



▼ 助手席側



■ サイド エアバッグ センサー

SRSサイド エアバッグ装着車、

SRSサイド エアバッグ&

SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

運転席側のピラー内部と、助手席側ドア
パネル内部に取り付けられています。

■ サイド エアバッグ リヤ センサー

SRSサイド エアバッグ&

SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

リヤ シート付近の車体左右両側に取り付
けられています。

⚠注意

- サイド エアバッグ センサー、サイド
エアバッグ リヤ センサーは、絶対に
取り外したり、分解しないでくださ
い。
SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン
シールド エアバッグが誤って展開し
たり、いざというときに作動しないお
それがあります。
- サイド エアバッグ センサー、サイド
エアバッグ リヤ センサーおよびその
近くを強くたたいたり、蹴ったりしな
いください。



ABS

ABS* (EBD機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤ チェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System（アンチロック ブレーキ システム）の略です。

 **アドバイス**

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- 電源を“ON”にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

 アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

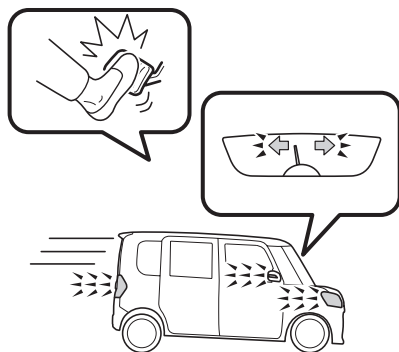


エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅表示灯が自動で高速点滅することで後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



⚠注意

- エマージェンシー ストップ シグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときには不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

■ エマージェンシー ストップ シグナルの作動条件について

エマージェンシー ストップ シグナルは、自車が次の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅表示灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h以上で走行中
- ブレーキ ペダルを踏み、急減速した、またはABSが作動した

⚠注意

- ABS警告灯、またはVDC&TRC警告灯が点灯しているときは、エマージェンシー ストップ シグナルが作動しないことがあります。

■ エマージェンシー ストップ シグナルの作動停止について

エマージェンシー ストップ シグナルは、次のいずれかのときに作動が停止します。

- 非常点滅表示灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキ ペダルから足を離した
- 急減速でなくなった
- ABSが作動停止した



VDC&TRC

VDC* (ビークル ダイナミクス コントロール)

VDCは、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

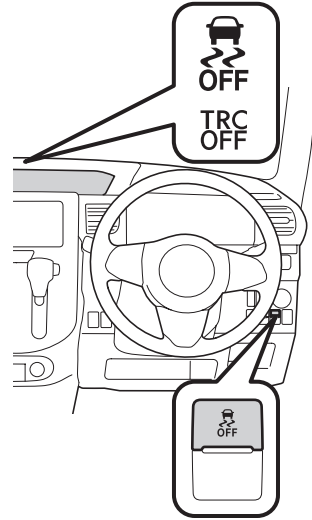
また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VDCが作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

(VDC作動表示灯→ 96 ページ)



- VDC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押して、メーター内のVDC OFF表示灯とTRC OFF表示灯が点灯しているときは、VDC (TRCを含む) は作動しません。(VDC&TRC OFFスイッチ→ 97 ページ)



- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 381 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクス コントロール) の略です。



⚠警告

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(VDC作動表示灯→ 96 ページ)

⚠注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッド パターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

👉 アドバイス

- VDCは、車速が約 15km/hを超えると作動するようになります。
- VDC（TRCを含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ブレーキ アシストについて

- VDCの“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキ ペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキ アシストが作動してブレーキが強くなり、作動音とともにブレーキ ペダルが小刻みに動くことがあります。異常ではありません。



TRC*

■ TRCのはたらき

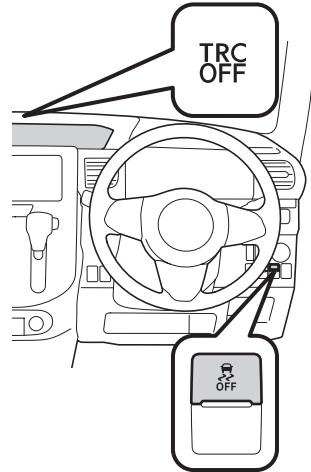
滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイール スピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRCが作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

(VDC作動表示灯→ 96 ページ)



- VDC&TRC OFFスイッチを押して、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯しているときは、TRCは作動しません。(VDC&TRC OFFスイッチ→ 97 ページ)



- めかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRCが作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VDC&TRC OFFスイッチを操作することで、TRCを停止することができます。

(スタック (立ち往生)

したとき→ 332 ページ)

■ TRCのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

* TRCは、Traction Control (トラクション コントロール) の略です。





■ TRCとタイヤの関係

TRCは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 381 ページ)

⚠警告

- TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(VDC作動表示灯→ 96 ページ)

👉 アドバイス

- TRCは、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

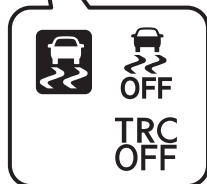
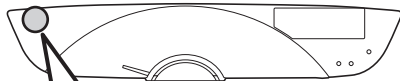
⚠注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッド パターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

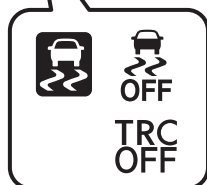


メーター表示

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



VDC* & TRC警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。
 - VDC
 - TRC
 - ヒル ホールド システム

(ヒル ホールド システム
→ 99 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

👉アドバイス

点滅した場合

- VDC、またはTRCが作動しています。
(VDC作動表示灯→ 96 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクス コントロール）の略です。





VDC*作動表示灯



(点滅)

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、次のシステムが作動した場合に点滅します。
 - VDC
 - TRC

⚠注意

- 電源を“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
(VDC & TRC 警告灯 → 95 ページ)
- VDC 作動表示灯が点滅した場合は、VDC、または TRC が作動していますので特に慎重に運転してください。

VDC OFF 表示灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC&TRC OFF スイッチを 3 秒以上押すと、VDC (TRC を含む) が作動停止状態となり点灯します。
(VDC&TRC OFF スイッチ → 97 ページ)

TRC OFF 表示灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC&TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。
(VDC&TRC OFF スイッチ → 97 ページ)

* 本書では、VSC を「VDC」と表記しています。

* VDC は、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクス コントロール) の略です。



VDC* & TRC OFFスイッチ

VDCやTRCは新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときはVDC&TRC OFFスイッチを押してVDCとTRCを“OFF”にします。

⚠警告

- VDCやTRCは自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外はVDCやTRCを作動停止状態にしないでください。VDCやTRCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

👉 アドバイス

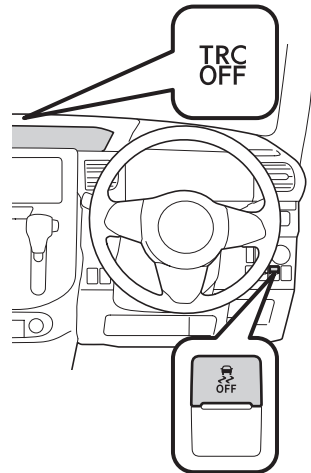
- VDCやTRCを作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的にVDCとTRCは作動可能状態に戻ります。
- TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。ただし、VDCとTRCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ TRCを“OFF”にする場合

▼ 操作方法

電源が“ON”のとき、VDC&TRC OFFスイッチを押すとTRCが“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯します。

作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯が消灯します。



* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクス コントロール）の略です。



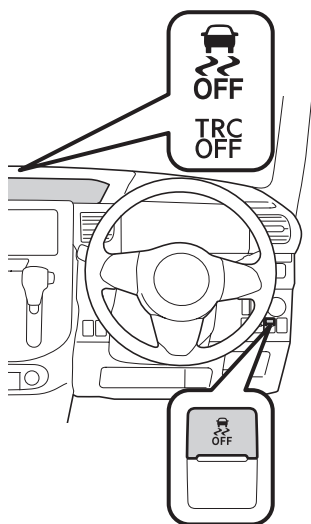


■ TRCとVDCを“OFF”にする場合

▼ 操作方法

電源が“ON”で車両が停止しているとき、VDC&TRC OFFスイッチを3秒以上押すと、VDC（TRCを含む）が“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯とVDC OFF表示灯が点灯します。

作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯とVDC OFF表示灯が消灯します。





ヒル ホールド システム

ヒル ホールド システム

ヒル ホールド システムは、急な上り坂で発進するときに起こる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。

ブレーキ ペダルからアクセル ペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約 2 秒間保持します。

作動条件

次の状態のとき、ヒル ホールド システムは作動します。

- 前進、または後退での上り坂発進時
- ブレーキ ペダルをしっかりと踏んで停車しているとき
- 駐車ブレーキを解除しているとき

⚠警告

- ヒル ホールド システムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル ホールド システムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にセレクト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。

⚠警告

- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

⚠注意

- VDC & TRC 警告灯が点灯すると、ヒル ホールド システムが作動しない場合があります。特に慎重に発進してください。
- 極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など、路面の状態や乗員の人数、荷物の重さなどによっては車両が後退することがあります。
- 停車するときのブレーキ ペダルの踏みかたが不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さによっては、ヒル ホールド システムが作動しない場合があります。
- ヒル ホールド システムは、2 秒以上車両の後退を軽減することができません。

👉 アドバイス

- ヒル ホールド システムの作動により、次の状態になることがあります。異常ではありません。
 - ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
 - ブレーキ ペダルが振動する
 - ブレーキから音が発生する





スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢ*

スマートアシストⅢは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- ハイ ビーム アシスト（ハイ ビーム アシスト→ 236 ページ）

⚠警告

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

⚠警告

- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
（スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ）
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- スペア タイヤやタイヤ チェーンを装着しているとき
- 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤ バンク応急修理セットを使用したとき
- サスペンションを改造したとき
（スバル指定品を含む）
- ステレオ カメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
- ヘッド ランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッド ランプの光軸がずれているとき
- ヘッド ランプ、フォグ ランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- けん引されるとき
- キャリア カーに積載するとき
- シャシー ダイナモ メーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフト アップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニール カーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき

* 「スマートアシスト」はダイハツ工業株式会社の登録商標です。



⚠警告

- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

⚠注意

- 次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時的に機能停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は作動します。
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置した後など、ステレオ カメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジンの始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッド ランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオ カメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃など視界が十分でないとき
- 機能によって認識性能の低下する条件や機能停止条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセル ペダルの操作状況
- ブレーキ ペダルの操作状況
- ハンドル、セレクト レバーの操作状況
- 車速などの車両情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオ カメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。





▼データの取扱いについて

スバルおよびスバルが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

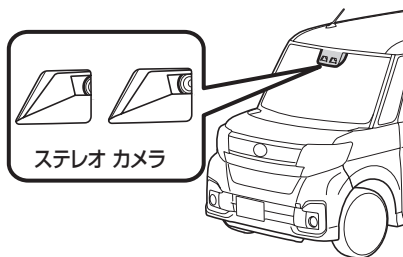
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

【ここでいうスバルは、富士重工業株式会社を意味しています。】

ステレオ カメラ

ステレオ カメラは、次の機能で使います。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- ハイ ビーム アシスト



⚠警告

- ステレオ カメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオ カメラも同様に前方車や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオ カメラによる前方車や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。



⚠警告

- 次のことをお守りください。お守りいただかないと、ステレオ カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ステレオ カメラ前面のフロント ガラスは常にきれいにしてください。
- フロント ガラス外側に汚れ、油膜、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ステレオ カメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- フロント ガラス内側のステレオ カメラ取り付け部が汚れた場合は、スバル販売店にご相談ください。
- フロント ガラスのステレオ カメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオ カメラの前面に重ならないようにしてください。

⚠警告

- フロント ガラスが曇った場合は曇りをとってください。
（ガラスの曇りを取るとき
マニュアル エアコン→ 294 ページ
オート エアコン→ 303 ページ）
- フロント ガラスのステレオ カメラ前面の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパー ラバーまたはワイパー ブレードを交換してください。ワイパー ブレードの交換が必要な場合は、スバル販売店にご相談ください。
（ワイパーの交換→ 387 ページ）
- フロント ガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオ カメラ周辺が変形した場合はスバル販売店にご相談ください。
- フロント ガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオ カメラ前面のフロント ガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。フロント ガラスの交換が必要な場合は、スバル販売店にご相談ください。





⚠警告

- スバル純正品以外のフロント ガラスに交換しないで下さい。
- ステレオ カメラに液体をかけないでください。
- ステレオ カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、スバル販売店にご相談ください。
- ステレオ カメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオ カメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオ カメラを分解しないでください。

⚠警告

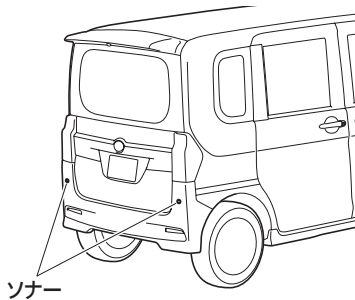
- ステレオ カメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ルーム ミラーなどのステレオ カメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメント パネル上部に物を置かないでください。フロント ガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメント パネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロント ガラスへの映りこみにより、ステレオ カメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット、フロント グリル、フロント バンパーなどに、ステレオ カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオ カメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- スバル純正品以外のルーム ミラー（ワイド タイプ ミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。



ソナー

ソナーは、次の機能で使われます。

- 誤発進抑制制御機能（後方）
- コーナー センサー
（コーナー センサー→ 136 ページ）



⚠警告

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が自動的に停止します。

⚠警告

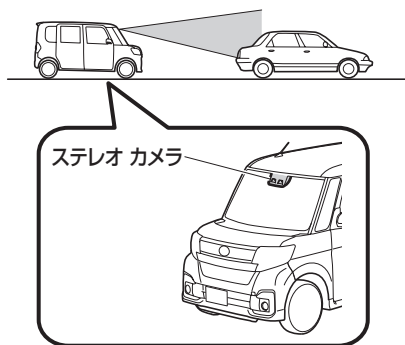
- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかに拭き取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
- ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
- ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
- ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリなどを取り付けないでください。
- リヤ バンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
- リヤ バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、スバル販売店にご相談ください。





衝突警報機能 (対車両・対歩行者)、 衝突回避支援ブレーキ機能 (対車両・対歩行者)

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



衝突警報機能

次の場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約 4～100km/hで走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4～100km/hで衝突のおそれがあるとき
- 状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約 4～50km/hで走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4～50km/hで衝突のおそれがあるとき

衝突回避支援ブレーキ機能

次の場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約 4～80km/hで走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4～80km/hで衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4～50km/hで走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4～50km/hで衝突のおそれがあるとき

被害軽減ブレーキ アシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30～80km/hで走行中、前方車に対し自車との速度差が約 30～80km/hで衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30～50km/hで走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30～50km/hで衝突のおそれがあるとき



⚠警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
(衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき→ 112 ページ)
(機能が正常に作動しないおそれがあるとき→ 110 ページ)

⚠警告

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作しても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルペダルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。





⚠警告

- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキ機能が作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車との速度差が約 30km/hを超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約 50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキ機能が作動したときに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 55 ページ）



■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキ アシストの作動条件について

次の条件を全て満たすと衝突警報機能および衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキ アシストが作動できる状態になります。

- 車両電源が“ON”
- スマートアシストOFF表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- セレクト レバーがP、Rレンジ以外
- 下表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差*1
衝突警報機能	対車両	約4～100km/h
	対歩行者	約4～50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約4～80km/h
	対歩行者	約4～50km/h
被害軽減ブレーキアシスト*2	対車両	約30～80km/h
	対歩行者	約30～50km/h

*1 自車と前方車、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

*2 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合





⚠注意

- ステレオ カメラは歩行者を認識しません。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土埃など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

⚠注意

- ステレオ カメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- フロント ガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土埃、シールなどでステレオ カメラ前面が覆われているとき
- ガラス コーティング剤を使用したとき
- フロント ガラスにフィルムを貼ったとき
- フロント ガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- フロント ウォッシャーの使用後または使用後で、フロント ガラスが充分に拭き取れていないとき
- フロント ガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオ カメラの視界がさえぎられたとき
- スバル指定品以外のワイパー ブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 雨滴やウインドウ ウォッシャーの水滴、またはワイパー ブレードがステレオ カメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオ カメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオ カメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき



⚠注意

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオ カメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道するとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
- 前方車や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車、歩行者に接近したとき
- 前方車の一部しかステレオ カメラの認識範囲内に入っていないとき

⚠注意

- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオ カメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車や対向車による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃などがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリア カー、サイド カーなどを含む）のとき
- 前方車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車が傾いているとき



⚠注意

- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の高い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

⚠注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETCゲート、狭いガードレール、雪溜まりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車に接近して走行するときや、前方の壁や前方車の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃などで前方の視界が悪いとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき



⚠️注意

- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
- 複数台の前方車などが重なってみえるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車の方向指示灯 兼 非常点滅表示灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボディ鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車の二車線変更など、二つの物が交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

⚠️注意

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシストOFF表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止”が点灯しているとき（機能停止）

緊急ブレーキについて

- 緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

👉アドバイス

- 緊急ブレーキ作動中に音が聞こえることがあります。制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあります。異常ではありません。



衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオ カメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に、①～③の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

①衝突警報

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性があると判断した場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

②1次ブレーキ

前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高いと判断した場合に、ブザー音を変化させブレーキ制御を行います。

- ・前方車、歩行者と認識していない場合、またはブレーキ ペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- ・運転者の衝突回避操作（ブレーキ ペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③2次ブレーキ

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断した場合に、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- ・停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）
- ・停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリーブ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ・システム作動中は、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起します。
- ・緊急ブレーキ作動中は制動灯、ハイマウント ストップ ランプが点灯します。
- ・緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキ アシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。



	①衝突警報	②1次 ブレーキ	③2次 ブレーキ	(停止保持)
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
被害軽減ブレーキアシスト	—	作動*1		—
ブザー音	ピピピピピッ	ピピピピピ...		ピピピッ...*2
スマートアシスト 作動灯	点滅			点滅*2
マスター ウォーニング	消灯	点灯		消灯

*1 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合に作動

*2 運転者操作で終了

👉 アドバイス

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシストOFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシストOFFスイッチ

→ 134 ページ）

👉 アドバイス

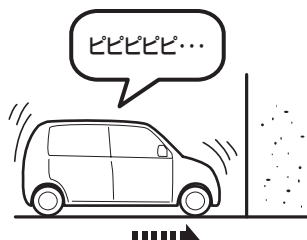
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。



誤発進抑制制御機能 (前方・後方)

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセル ペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

- 前方は、ステレオ カメラが約 4m 以内に障害物を認識している場合に作動します。



- 後方は、ソナーが約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



車速が約 4km/h 以下で、アクセル ペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセル ペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセル ペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。
- 後方で作動したとき、ブザーはリバー ス音よりも早い間隔で鳴ります。

(スマートアシストⅢの作動状態について
→ 133 ページ)

⚠警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクト レバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。



⚠警告

- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセル ペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能（後方）とコーナー センサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナー センサーのブザー音が鳴っていても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナー センサーのブザー音が鳴っていなくても、誤発進抑制制御（後方）が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオ カメラ、またはソナーが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しつけて進む場合は、慌てずにアクセル ペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。

（スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ）

⚠警告

- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRCを“OFF”またはVDC & TRCを“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセル ペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。





■ 誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシストOFF 表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- ブレーキ ペダルを踏んでいない
- 車速が0～約10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- TRC OFF表示灯、VDC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、セレクト レバーが[D]、[S]、[R]レンジ
- 後方の場合は、セレクト レバーが[R]レンジ

⚠注意

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- ステレオ カメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッド ランプの光など）を受けたとき
 - フロント ガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土埃などが付着して覆っているとき
 - ステレオ カメラの温度が極端に高いとき
 - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ヘッド ランプ照射範囲外に障害物が存在するとき



⚠注意

- 雨滴やウインドウ ウォッシャーの水
滴、またはワイパー ブレードがステ
レオ カメラの視野を遮ることによ
り、障害物の認識が不完全になったと
き
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフ
ボード、カヌー、スキー板など）を積
んだりして、ステレオ カメラの視界
がさえぎられたとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が
傾いているとき
- 前方車などの水しぶき、雪などの巻上
げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土埃など
視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフ ロードなどの悪路を走
行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い
棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央から
ずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろ
に接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂
の場合
- ステレオ カメラの認識エリア外に障
害物が存在するとき

⚠注意

- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低
いガード レール、車高の低い車両、
縁石など）
- しゃがんでいたり人や横たわっている人
などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児な
ど）
- 障害物や前方車（トレーラーや対向車
など）の自車から一番近い面および最
後面が小さいときや、障害物に接近し
すぎたとき（自車から一番近いところ
ではない部分を認識して作動し、効果
が充分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模
様やレンガなど）や模様の全くない壁
やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのと
き
- 自車の前方に他車、二輪車、自転車、
歩行者などが横から割り込んだり、飛
び出してきたとき



⚠注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻き上げ、水蒸気、砂、煙、土埃などを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

⚠注意

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき



⚠注意

- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
- バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- 動いているもの
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
- 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエア ブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニール カーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエア ブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

**⚠注意**

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシストOFF表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止”が点灯しているとき（機能停止）

（メーター表示→ 127 ページ）

誤発進抑制制御機能を “OFF”にすると

スマートアシストOFF スwitchを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能

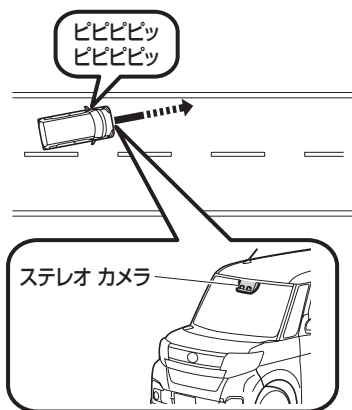
（スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ）

**アドバイス**

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロント ガラス上部に設置されたステレオ カメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促します。





⚠️警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。
- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を作動させない場合があります。
 - 車線内を走行していないとき
 - カーブ内側にはみ出して走行しているとき
 - 車線幅が狭いとき
 - 方向指示器を使用しているとき
 - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
 - 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

■ 車線逸脱警報機能の 作動条件について

この機能は、自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- 車両電源が“ON”
- 車線逸脱警報OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- 車速が約 60km/h以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

⚠️注意

次の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッド ランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガード レールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき





⚠注意

- 道路の状態（特に次のような場合）
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- 坂道や丘の頂上に近付いているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガード レール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- ガード レールの影などがあるとき
- 区画線が二重に描かれているとき

⚠注意

- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオ カメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- フロント ガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオ カメラの視界がさえぎられたとき
- フロント ガラス内側が曇っているとき
- フロント ウォッシャーの使用、または使用後などで、フロント ガラスが十分に拭き取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオ カメラが高温になったとき



車線逸脱警報機能を“OFF”に するとき

スマートアシストOFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

(スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ)

👉 アドバイス

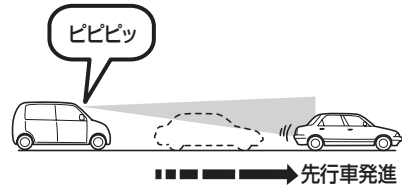
- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、車両電源をいったん“OFF”にして、再度“ON”にしても維持されます。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザー音とメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10 m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

(スマートアシストⅢの作動状態について
→ 133 ページ)



⚠️ 警告

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

👉 アドバイス

ブザー音について

- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。
詳しくはスバル販売店にご相談ください。





■ 先行車発進お知らせ機能の 作動条件について

この機能は、自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- 車両電源が“ON”
- スマートアシストOFF 表示灯が消灯
- “スマアシ停止”、“スマアシ故障”が消灯
- セレクト レバーが[D]、[S]、[B]レンジでブレーキ ペダルを踏んでいる、または[N]レンジ
- 停止してから数秒経過

⚠注意

- 次のような場合は、先行車が発進していても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。
- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
- ステレオ カメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止した時に先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイド カーなどを含む）の場合
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあまりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき



先行車発進お知らせ機能を “OFF” にするとき

スマートアシストOFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

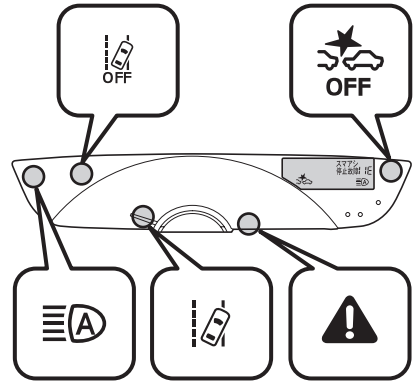
（スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ）

アドバイス

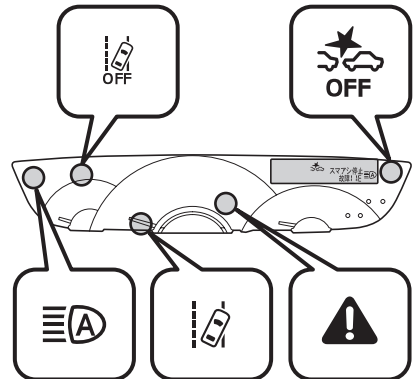
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

メーター表示

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車





マスター ウォーニング



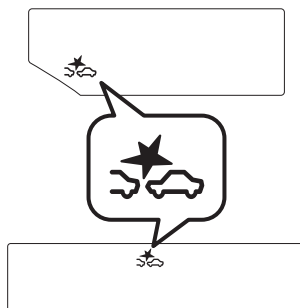
- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、次の場合に点灯します。
 - ・スマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
 - ・衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ、2次ブレーキが作動したとき
 - ・誤発進抑制制御機能が作動したとき

⚠注意

点灯した場合

- 同時に、スマートアシストOFF表示灯と車線逸脱警報OFF表示灯が点灯したときは、ハイビームアシストを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

スマートアシスト作動灯



- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、次の機能が作動したときに点滅します。
 - ・衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - ・衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
 - ・誤発進抑制制御機能（前方・後方）
 - ・先行車発進お知らせ機能



アドバイス

- 緊急ブレーキが作動中または、誤発進抑制制御機能がエンジン出力を抑制しているときは、同時にマスターウォーニングも点灯します。



スマートアシストOFF表示灯



- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、次の場合に点灯します。
- スマートアシストOFFスイッチで次の機能を“OFF”にしたとき
 - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
 - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
 - 先行車発進お知らせ機能
- ハイ ビーム アシストを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシストOFFスイッチ
→ 134 ページ）

👉 アドバイス

- ハイ ビーム アシストを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスター ウォーニングと車線逸脱警報OFF表示灯も点灯します。
（マスター ウォーニング→ 128 ページ）

車線逸脱警報作動灯



- 車両電源を“ON”にすると車線逸脱警報作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに点滅します。



車線逸脱警報OFF表示灯



- 車両電源が“ON”で、次の場合に点灯します。
- スマートアシストOFFスイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
- ハイビームアシストを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
(スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ)



アドバイス

- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、車両電源をいったん“OFF”にして、再度“ON”にしても維持されます。
- “ON”の状態を維持しているときは、車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
(スマートアシストOFFスイッチ → 134 ページ)
- ハイビームアシストを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングとスマートアシストOFF表示灯も点灯します。
(マスターウォーニング → 128 ページ)

ハイビームアシスト
作動灯

- 車両電源が“ON”でハイビームアシストが作動したときに点灯します。

スマートアシスト“故障”表示



〈タコメーター装着車以外〉



〈タコメーター装着車〉

- 車両電源が“ON”で、ハイビームアシストを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があると表示します。

⚠注意

- 表示されたときは、ハイビームアシストを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。



ハイ ビーム アシスト “故障” 表示



〈タコ メーター装着車以外〉



〈タコ メーター装着車〉

- 車両電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 車両電源が“ON”で、ハイ ビーム アシストに異常があると点灯します。

⚠注意

- 点灯したときは、同時にマスター ウォーニングも点灯し、ハイ ビーム アシストは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

スマートアシスト “停止” 表示



〈タコ メーター装着車以外〉



〈タコ メーター装着車〉

- 車両電源が“ON”で、スマートアシストⅢの機能が一時的に停止したときに“スマアシ停止”と機能停止コードを表示します。
- “スマアシ停止”が表示されているときは、スマートアシストⅢは作動しません。



アドバイス

- “スマアシ停止”が表示されても、ハイ ビーム アシストは作動することがあります。
- 機能停止コードごとに適切な処置を行ってください。

(機能停止コード→ 132 ページ)



■ 機能停止コード

機能停止コード	原因	処置
11E	ステレオ カメラが視界不良により前方を認識できない	原因状態が解消されると、復帰します。
12E	ステレオ カメラの作動条件を満たさなくなった (ステレオ カメラ内が高温になったなど)	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、車両電源を“OFF”にした後、再度車両電源を“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E	ソナー部(車両後側)に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E	フロント ワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。

⚠ 注意

- 処置をしても、機能停止コードが表示したままのときは、システムの異常が考えられます。
通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」はRレンジ以外、「15E」「16E」はRレンジのときに表示します。

スマートアシストⅢの作動状態について

スマートアシストⅢの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

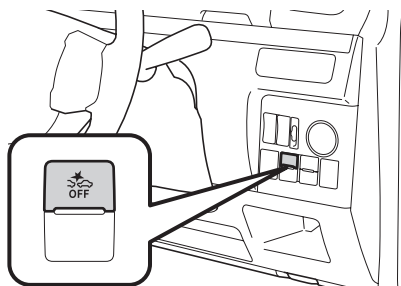
	表示灯	液晶部	ブザー音
スマートアシストOFFスイッチで、次の機能を停止したとき ・衝突警報機能(対車両・対歩行者) ・衝突回避支援ブレーキ機能(対車両・対歩行者) ・誤発進抑制制御機能(前方・後方) ・先行車発進お知らせ機能	 が点灯	—	ビピッ
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき	 が点灯	—	ビピッ
ハイ ビーム アシストを除くシステム異常時	   が点灯	次のシステムに異常がある場合、“スマアシ故障”を表示 ・ステレオ カメラ ・ソナー	—
ハイ ビーム アシスト異常時	 が点灯	 が点灯	—
機能一時停止時	—	“スマアシ停止”と機能停止コードを表示	—
衝突警報機能	—	 が点滅	ビビビビビッ
衝突回避支援機能 ブレーキ機能	1次ブレーキ		ビビビビビ...
	2次ブレーキ		ビビビビビ...
停止保持	—		ビビッ...
誤発進抑制制御機能(前方)	警報		ビビビビビッ
	制御		ビビビビビ...
誤発進抑制制御機能(後方)	警報		ビビビビビッ
	制御		ビビビビビ...
先行車発進お知らせ機能	—		ビビビッ
車線逸脱警報機能	 が点滅	—	ビビビビッ ビビビビッ
ハイ ビーム アシスト	 が点灯	—	—



スマートアシストOFF スイッチ

車両電源が“ON”のとき、スマートアシストOFFスイッチを操作することで、スマートアシストⅢの次の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能



■ 衝突警報機能、
衝突回避支援ブレーキ機能、
誤発進抑制制御機能、
先行車発進お知らせ機能を
“OFF”にすると

- スマートアシストOFFスイッチを約2秒以上押し続けると、“OFF”になります。
- メーター内のスマートアシストOFF表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを約2秒以上押し続けます。
- メーター内のスマートアシストOFF表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。



アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両電源を“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。



■ 車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

- スマートアシストOFF スイッチを押すと、“OFF”になります。
- メーター内の車線逸脱警報OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを押します。
- メーター内の車線逸脱警報OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。



アドバイス

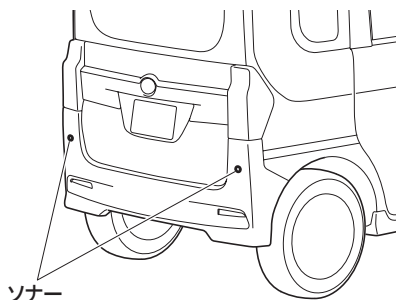
- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、車両電源をいったん“OFF”にして、再度“ON”にしても維持されます。



コーナー センサー

コーナー センサー (リヤ)

コーナー センサーは、徐行（車速約 10km/h以下）状態で後退しているときに、リヤ バンパーの左右ソナーで障害物とのおおよその距離を認識して、ブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。



(ソナー→ 105 ページ)

⚠警告

コーナー センサーをお使いになる前に

- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車速が約 10km/hをこえないようにしてください。
- ソナーの認識エリア、コーナー センサーの作動速度には限界があります。お車を後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）やソナーの認識エリア外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。

作動条件

次の条件を全て満たしたときにブザー音が鳴ります。

- 電源が“ON” のとき
- セレクト レバーがRレンジのとき
- 駐車ブレーキがかかっていないとき
- 車速が約 10km/h以下のとき

ブザー音について

障害物を認識すると、ブザー音が鳴ります。

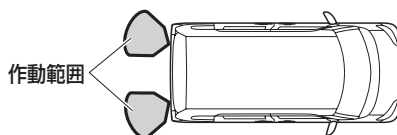
- 障害物との距離が近付くと、ブザー音が下表のとおり変化します。

ブザー音	ソナーと障害物との距離
ピッピッピッ… (断続音)	約60～45cm
ビビビ… (断続音)	約45～30cm
ピー (連続音)	約30cm以内

- ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

作動範囲

図の作動範囲に障害物が入るとブザー音が鳴ります。





⚠警告

- 次のような場合は、コーナー センサーが作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペア タイヤなど）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 後方障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - 地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - 背の低い障害物のとき
 - 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - 動いているもの（急に後方に現れたり、車両後方を横切るものなど）
 - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのとき
 - 地面に対して垂直でない壁のとき
 - 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき

⚠警告

- 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバー プレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- コーナー センサーと誤発進抑制制御機能（後方）では作動の対象とする障害物が異なります。コーナー センサーのブザー音が鳴っていても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナー センサーのブザー音がなっていないくても、誤発進抑制制御（後方）が作動する場合があります。





⚠️ 注意

- 次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

⚠️ 注意

コーナー センサーの異常について

- 次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
- 障害物を認識していない状態で、ブザー音が鳴ったとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストⅢに異常があるとき、または“スマアシ停止”と機能停止コード“15E”が表示しているとき
(スマートアシスト“停止”表示 → 131 ページ)
(機能停止コード → 132 ページ)
- ブザー音が「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴ったときは、コーナーセンサーが一時停止、または故障しています。ソナーに氷・雪・泥などが付着していないか確認して、取り除いてください。
氷・雪・泥などが付着していない状態でブザー音が鳴る場合は、ソナーの異常が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- ソナーの認識エリアはリヤバンパーの左右ソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、ブザー音が出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、ブザー音が出る前に障害物に近付きすぎると、ブザー音が鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザー音が聞き取りづらくなる場合があります。

MEMO

MEMO



お車を運転する前に

お車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検について説明しています。

■ 車体各部の開閉

キー-----	142
電波式リモコン ドア ロック ----	145
キーレス アクセス -----	146
盗難警報装置 -----	158
ドアの開閉-----	163
衝撃感知ドア ロック解除システム---	168
オート ドア ロック機能／	
オート ドア アンロック機能 ----	168
スライド ドア -----	171
パワー スライド ドア	
（ワンタッチ オープン機能、	
予約ロック機能付）-----	175
リヤ ゲート-----	186
ボンネット-----	190
フューエル リッド -----	192
パワー ウインドウ -----	195

■ 車体各部の調整

ルーム ミラー-----	199
電動格納式ドア ミラー -----	199
電動格納式ヒーター ドア ミラー-----	202
サイド アンダー ミラー-----	202
リヤ アンダー ミラー -----	203
チルト ステアリング-----	204



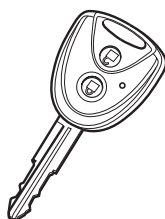
車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほか、ドアの施錠、解錠などお車を操作するためにはなくてはならない物です。大切に管理してください。

電波式リモコン ドア ロック 装着車

メインキー



スペアキー



👉 アドバイス

- スペア キーは、いざというときのために予備として使用してください。
- メイン キーは 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはスバル販売店にご相談ください。

メイン キーの取り扱い

- メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので次のことをお守りください。
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

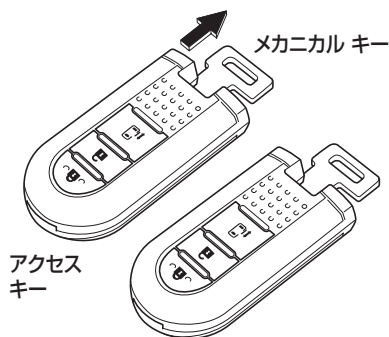
航空機に乗るときは

- 航空機にメイン キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

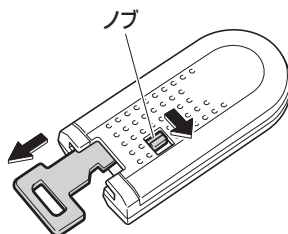


キーレス アクセス装着車

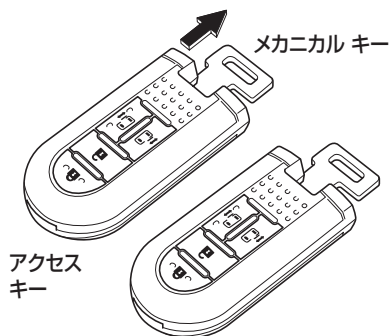
左側パワー スライド ドア装着車



■ メカニカル キーの取り出しかた
アクセス キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、アクセス キーから、メカニカル キーを引いて取り出します。



両側パワー スライド ドア装着車



アドバイス

- 使用後は元に戻し、必ずアクセス キーと一緒に所持してください。
アクセス キーが電池の消耗などで使用できなくなったときに必要になります。
- アクセス キーは最大 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはスバル販売店にご相談ください。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

アドバイス

キーの取り扱い

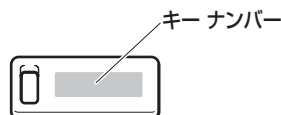
- アクセス キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、次のことを守り、取り扱いには注意してください。
- アクセス キーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらさない
- 分解をしない
- 超音波洗浄機などにつけない
- 磁気を帯びたキー ホルダーなどを付けない

航空機に乗るときは

- 航空機にアクセス キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

キー ナンバー プレート

お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。



- プレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一キーを紛失したときは、キー ナンバーをスバル販売店にご連絡いただければ、指定キーを作ることが出来ます。

アドバイス

- スペア キーを作るときもこのキー ナンバーは必要になりますので、車両以外の場所に大切に保管してください。



電波式リモコン ドア ロック

オプション/グレード別装備

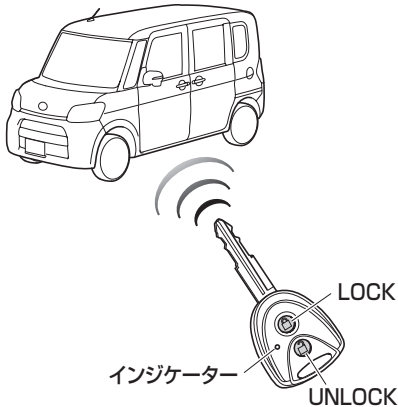
メイン キーのボタンを押すことで、ドアの施錠、解錠ができます。

▼ 操作方法

ドアが施錠された状態で、メイン キーの“UNLOCK” ボタンを押すと、すべてのドアは解錠されます。

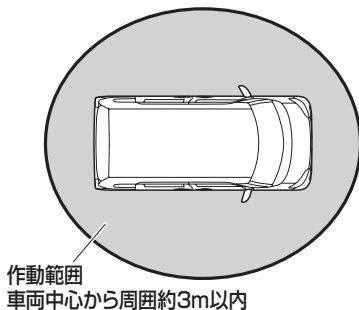
“LOCK” ボタンを押すと、すべてのドアは施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケータが点滅します。



▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m 以内です。



アドバイス

- お車から離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- メイン キーのボタンは、凸側が“LOCK”、凹側が“UNLOCK”になっています。

施錠、解錠ができない状況

- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれているとき

施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

施錠、解錠ができないおそれのある状況

- メイン キーと車両中心の距離が約 3m 以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

電池の消耗について

- メイン キーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケータが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

(キーの電池交換→ 392 ページ)

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

作動完了の確認方法

非常点滅表示灯と室内照明により、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅表示灯と室内照明（スイッチ付きは“DOOR”のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）
これにより、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認してください。

アンサー バック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅 表示灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	消灯 (点灯中は減光後に)	約15秒間 点灯後に消灯



アドバイス

- 非常点滅表示灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

キーレス アクセス

オプション/グレード別装備

アクセス キーを所持するだけで、キーを取り出すことなく次の操作ができます。

- ドアの施錠、解錠
(キーレス アクセス操作→ 149 ページ)
- エンジンの始動、停止（イモビライザー機能付）
(エンジン スイッチ→ 248 ページ)
(イモビライザー機能→ 255 ページ)

また、アクセス キーのボタンを操作して、ドアの施錠、解錠をすることができます。
(電波式リモコン ドア ロック
→ 151 ページ)



アドバイス

アクセス キーの所持について

- アクセス キーは必ず運転者が所持し、管理してください。
- アクセス キーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

システムが作動しないおそれのある状況

- 近くに次のような強い電波を発生する設備があるとき
 - TV塔
 - 発電所
 - 放送局
 - 電光掲示板
 - ガソリン スタンド
 - コイン パーキング



アドバイス

- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブル オーディオ、または他車のアクセス キーと一緒に携行したとき
- アクセス キー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
- アクセス キーの電池が消耗しているとき

電池の消耗について

- アクセス キーの電池寿命は、1 日 10 回程度の乗降で約 2 年です。（アクセス キーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています）
ただし、アクセス キーのボタン操作（ドアの施錠・解錠など）の使用頻度が高い場合、またはアクセス キーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。
- アクセス キーの電池残量が少なくなると、警告灯とブザー音でお知らせします。

（キーレス アクセス電池残量警告
→ 155 ページ）

アドバイス

- 次のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くにアクセス キーを置かないでください。アクセス キーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
 - ・テレビ
 - ・オーディオ
 - ・パソコン
 - ・ACアダプター
 - ・携帯電話、コードレス電話
 - ・充電器
 - ・電気スタンド
 - ・低周波治療器などの医療用電気機器
 - ・液晶表示器
 - ・モーター類
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 392 ページ）

アクセス キーが使用できないときは

- 電池の消耗などによりアクセス キーが使用できないときは、メカニカルキーを使用してください。
（アクセス キーが使用できないとき
→ 368 ページ）



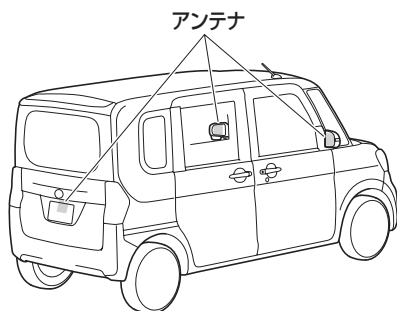
お車を運転する前に 車体各部の開閉

アンテナ

車両のアンテナから発せられる電波をアクセス キーが感知することによって、キーレス アクセスが作動します。

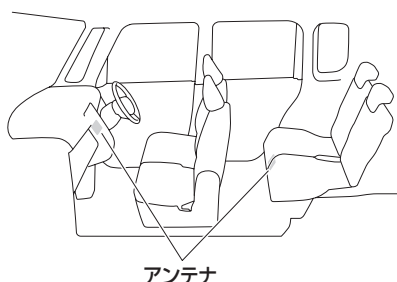
▼ 車室外アンテナ

ドア ミラー左右とリヤ ゲート中央付近にあります。(3カ所)



▼ 車室内アンテナ

インストルメント パネル中央とリヤ シート中央付近にあります。(2カ所)



⚠ 警告

植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車室外アンテナ・車室内アンテナから約 22 cm以内に近付かないようにしてください。ドア開閉時、各ドア ハンドルのスイッチ・ワンタッチ スイッチ操作時、エンジン始動時などに車両のアンテナから発せられる電波により、植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。



アドバイス

アンテナの電波について

- アンテナから発する電波を停止（キーレス アクセスを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- アンテナから発する電波を停止させたときは、プッシュ エンジン スイッチにアクセス キーを接触させなければエンジンを始動できません。（電波式リモコン ドア ロックによるドアの施錠・解錠は行えます）
(エンジンのかけかた→ 369 ページ)

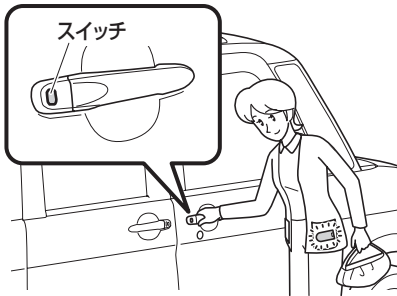


ドアの施錠、解錠

■ キーレス アクセス操作

アクセス キーを所持して作動範囲内に入り、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押すと、すべてのドアが施錠、解錠されます。

フロント ドア

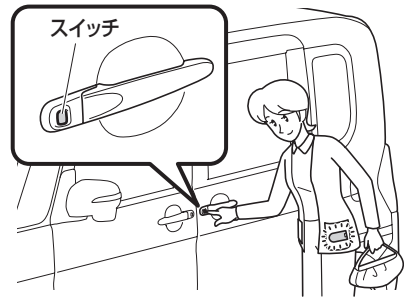


リヤ ゲート



スライド ドア

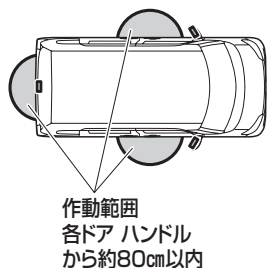
アクセス キーを所持して作動範囲内に入り、スライド ドアのワンタッチ スイッチを押すと、すべてのドアが解錠し、スライド ドアが開きます。





お車を運転する前に 車体各部の開閉

▼各ドア ハンドル スwitchの作動範囲
各ドア ハンドルから約 80cm以内です。



⚠注意

- フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドル、およびスライド ドアのワンタッチ スwitchは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。Switchが破損するおそれがあります。

👉アドバイス

- お車から離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 施錠、解錠するときは、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのSwitchを確実に押して施錠・解錠されたことを確認してください。Switchを早押しした場合、施錠・解錠がされないことがあります。
- パワー スライド ドア装着車は、スライド ドアが全閉するまで施錠されないの、自動で全閉したことを確認したあと、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのSwitchで施錠してください。

作動範囲について

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。
- アクセス キーを所持している人が作動範囲にいるときは、所持していない人でも、同じ作動範囲での施錠・解錠が可能です。



アドバイス

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき

施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- アクセス キーの所持のしかたにより、キーレス アクセス操作をしても施錠・解錠しない場合があります。
- 次のような場合は、アクセス キーが作動範囲にあっても、正常に施錠・解錠がされない場合があります。
 - アクセス キーをドア ガラスやドア ハンドル周辺に近付けすぎたとき
 - 地面の近く、もしくは高い場所にアクセス キーがあるとき

自動ロック機能

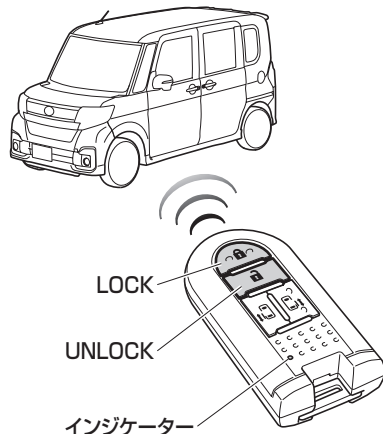
- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

■ 電波式リモコン ドア ロック

ドアが施錠された状態で、アクセス キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、すべてのドアが解錠されます。

“LOCK”ボタンを押すと、すべてのドアが施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケーターが点滅します。



パワー スライド ドアの自動開閉をアクセス キーで行うことができます。

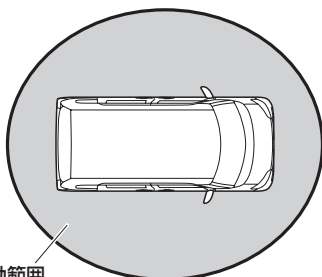
(アクセス キーによる自動開閉
→ 181 ページ)



お車を運転する前に 車体各部の開閉

▼ 作動範囲

車両中心から周囲約3m以内です。



作動範囲
車両中心から周囲約3m以内

👉 アドバイス

- お車から離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- パワー スライド ドア装着車は、スライド ドアが全閉するまで施錠されないで、自動で全閉したことを確認したあと、アクセス キーの“LOCK”ボタンで施錠してください。

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき

施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- アクセス キーと車両中心の距離が約3m以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

■ 作動完了の確認方法

非常点滅表示灯と室内照明とブザーにより、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅表示灯と室内照明（スイッチ付きは“DOOR”のとき）とブザーが下表の通り作動します。（アンサー バック）
これにより、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認してください。

アンサー バック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅 表示灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	消灯 (点灯中は減光後に)	約15秒間 点灯後に消灯
ブザー	1回	2回

👉 アドバイス

- 非常点滅表示灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



警告ブザー、メーター表示 による警告

キーレス アクセスでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。



■ アクセス キー持ち出し警告

電源が“ACC”、または“ON”のときに、いずれかのドアを開けてアクセス キーを車外に持ち出してドアを閉めると、車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、キーレス アクセス警告灯が高速点滅し、車内にアクセス キーがないことを警告します。

▼ 対処方法

アクセス キーを所持して乗車してください。

👉 アドバイス

- 窓からアクセス キーを車外に持ち出したときは警告は行われません。
- アクセス キーを車外に置いたまま、いずれかのドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われることがあります。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

■ 電源切り忘れ警告①

電源が“ACC”のときに、運転席ドアを開けると、車内で「ピッピッピッ…」と警告ブザーが鳴り続け、電源の切り忘れを警告します。

▼ 対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。

■ 電源切り忘れ警告②

電源が“ACC”、または“ON”のときに、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押してドアを施錠しようとする、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電源の切り忘れを警告します。

▼ 対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。

■ アクセス キー置き忘れ警告

車内にアクセス キーが放置された状態で、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押してドアを施錠しようとする、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、アクセス キーの置き忘れを警告します。

▼ 対処方法

アクセス キーを所持して、ドアを施錠してください。

■ 半ドア警告

いずれかのドアが開いているとき（半ドア警告灯が点灯時）に、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押すか、アクセス キーの“LOCK” ボタンを押して、ドアを施錠しようすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、ドアが開いていることを警告します。

▼ 対処方法

すべてのドアを閉めて、施錠してください。

■ アクセス キー閉じ込み警告

車内にアクセス キーが放置された状態で、次の方法で施錠すると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、アクセス キーの閉じ込みを警告します。

同時にすべてのドアが解錠されます。

▼ 施錠方法

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席ドア ハンドルを引いたままドアを閉める。
- 電源が“OFF”のとき、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉める。

▼ 対処方法

アクセス キーを所持して、ドアを施錠してください。



■ キーレス アクセス電池残量警告

電源を“OFF”にしたときに、車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、キーレス アクセス警告灯が点滅し、アクセス キーの電池残量が少ないことを警告します。

▼ 対処方法

アクセス キーが使用できなくなる前に、新しい電池と交換をしてください。

(キーの電池交換→ 392 ページ)

アドバイス

- 電源を“ON”にしたとき、システムチェックのために、警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- アクセス キーの電池残量が少ない状態を継続すると、電源を“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも警告します。

■ ハンドル ロック未完了警告

運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にすると、車内で「ピッピッピッ…」と警告ブザーが鳴り続け、ハンドルがロックされていないことを警告します。

▼ 対処方法

運転席ドアを閉めてください。

■ キー無し警告

アクセス キーを所持せずプッシュ エンジン スイッチを押すと、キーレス アクセス警告灯が点滅し、キーがないことを警告します。

▼ 対処方法

- アクセス キーを所持して、プッシュ エンジン スイッチを押してください。
- アクセス キーを所持してスイッチを押しても、キーレス アクセス警告灯が点滅する場合は、アクセス キーの電池が切れています。新しい電池と交換してください。(一時的な対処として、アクセス キーをプッシュ エンジン スイッチに接触させると、エンジン始動が可能です)

(キーの電池交換→ 392 ページ)

(アクセス キーが使用できないとき
→ 368 ページ)

■ キーレス アクセス異常

キーレス アクセスに異常がある場合、キーレス アクセス警告灯が点灯します。

▼ 対処方法

ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

■ 警告一覧

警告ブザー		メーター表示	何をしたときに 警告しましたか？	対処方法
車内	車外			
ピピピピピ	ピッピッピッ	 高速点滅	ドアを開めたとき	電源が“ACC”、または“ON”のときに、アクセスキーを車外に持ち出しています。 アクセス キーを所持して乗車してください。
—	ピーッ	—	フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押したとき	電源が“ACC”、または“ON”になっています。 電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。 いずれかのドアが開いています。 すべてのドアを閉めて、施錠してください。 アクセス キーを車内に置き忘れていました。 アクセス キーを所持して、ドアを施錠してください。
			車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドア ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠したとき	アクセス キーを車内に置き忘れていました。 アクセス キーを所持して、ドアを施錠してください。
			電源が“OFF”のとき、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき	
			アクセス キーの“LOCK”ボタンを押したとき	いずれかのドアが開いています。 すべてのドアを閉めて施錠してください。



警告ブザー		メーター表示	何をしたときに 警告しましたか？	対処方法
車内	車外			
ピッピッピッ	—	点滅	電源を“OFF”にしたとき	アクセス キーの電池残量が少なくなっています。 新しい電池と交換をしてください。
ピッピッピッ...	—	—	運転席ドアを開けたとき	電源が“ACC”になっています。 電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。
			電源を“OFF”にしたとき	運転席ドアが開いているためハンドル ロックがされていません。 運転席ドアを閉めてください。
—	—	点滅	プッシュ エンジン スイッチを押したとき	アクセス キーを所持していない状態でスイッチを押しています。 アクセス キーを所持して、スイッチを押してください。 所持しているアクセス キーの電池が消耗しています。 新しい電池と交換をしてください。 一時的な対処としてアクセス キーをスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です。
—	—	点灯	—	ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

キーレス アクセス警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源に関係なく、キーレス アクセスに異常があると点灯します。
- 次の場合に点滅します。
 - ・電源が“ACC”または“ON”で、いずれかのドアを開けてアクセス キーを車外に持ち出しドアを閉めたとき
 - ・アクセス キーの電池残量が少ない状態で、電源を“OFF”にしたとき
(電池残量が少ない状態を継続すると、電源を“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも点滅します。)
 - ・アクセス キーを所持せずにプッシュエンジン スイッチを押したとき
(警告ブザー、メーター表示による警告
→ 153 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

盗難警報装置

盗難警報装置は、すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロック、またはキーレス アクセスの操作でドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。電波式リモコン ドア ロック、またはキーレス アクセス以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。



アドバイス

- 盗難警報装置は、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかに方にお車を貸したときや、盗難警報装置の作動について知らない方が運転するときは、盗難警報装置について十分ご説明ください。
盗難警報装置の作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- 盗難警報装置の思わぬ作動および盗難を防ぐため次のことを必ず確認してください。
 - ・車内に人が乗っていないか
 - ・ドアガラスが閉じているか
 - ・車内に貴重品などを放置していないか



盗難警報装置の セット方法

1. すべてのドアを閉めます。
2. 次のいずれかの方法ですべてのドアを施錠します。（セキュリティ表示灯が点灯）

電波式リモコン ドア ロック装着車

メイン キーの“LOCK” ボタンを押す
（電波式リモコン ドア ロック
→ 145 ページ）

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、リヤ ゲート ハンドルのスイッチを押す
（キーレス アクセス操作→ 149 ページ）
 - アクセス キーの“LOCK” ボタンを押す
（電波式リモコン ドア ロック
→ 151 ページ）
3. 30 秒以上経過すると、自動的にセットします。

（セットされると、セキュリティ表示灯が点灯から点滅に変わる）



セキュリティ表示灯



アドバイス

- 電波式リモコン ドア ロック、またはキーレス アクセスの操作以外の操作でドアを施錠した場合、盗難警報装置はセットされません。（電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセスの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をした場合、盗難警報装置のセットは中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - 電波式リモコン ドア ロック装着車で、キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
 - キーレス アクセス装着車で、電源を“ON”にしたとき

キーレス アクセス装着車の場合

- セキュリティ表示灯は、イモビライザー機能と兼用しているため、盗難警報装置を解除しても、電源を“ACC”にするまで消灯しません。
また、電源を“ACC”から“OFF”にすると点滅します。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

警戒中の作動

盗難警報装置がセットされた状態で次の操作以外で解錠し、ドアを開けると盗難警報装置が作動します。

電波式リモコン ドア ロック装着車

メイン キーの“UNLOCK” ボタンを押す

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、リヤ ゲート ハンドルのスイッチを押す
- スライド ドアのワンタッチ スイッチを押す
- アクセス キーの“UNLOCK” ボタンを押す



アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、盗難警報装置が再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

盗難警報装置の警報

盗難警報装置は 2 段階で作動します。

▼ 1 次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

1 次作動の間に警報が解除されなかった場合、2 次作動に入ります。

▼ 2 次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る



盗難警報装置の 解除方法

次のいずれかの操作で盗難警報装置のセット（警戒状態）を解除できます。

電波式リモコン ドア ロック装着車

- メイン キーの“UNLOCK” ボタン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”の位置にする

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチ、またはスライド ドアのワンタッチ スイッチを押して、ドアを解錠する
- アクセス キーの“UNLOCK” ボタン操作でドアを解錠する
- 電源を“ON”にする



アドバイス

- 盗難警報装置は、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときにも作動します。盗難警報装置を誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときは、盗難警報装置をセットしないでください。

警報の停止方法

次のいずれかの操作で警報を停止できます。

電波式リモコン ドア ロック装着車

- メイン キーの“LOCK”、または“UNLOCK” ボタンを押す
- エンジン スイッチを“ON”の位置にする

キーレス アクセス装着車

- アクセス キーの“LOCK”、または“UNLOCK” ボタンを押す
- アクセス キーを所持してフロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押す
- アクセス キーを所持して乗車する
- 電源を“ON”にする



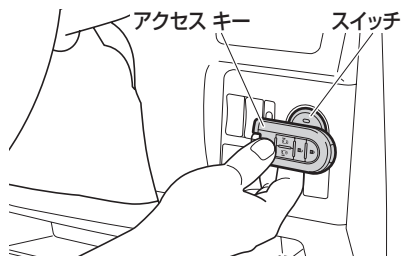
お車を運転する前に 車体各部の開閉

■ アクセス キーが使用できないとき キーレス アクセス装着車

電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できないときは、キーをプッシュ エンジン スイッチに接触させて、警報を停止してください。

▼ 操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
 2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを図のようにプッシュ エンジン スイッチに接触させます。
キーが認識されると、警報が停止します。
- アクセス キーの中心をスイッチの中心に接触させます。



👉 アドバイス

電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できないときは

- アクセス キー（メカニカル キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行うことができます。

（アクセス キーが使用できないとき
→ 368 ページ）

盗難警報装置の 作動履歴の確認

盗難警報装置のセット中に警報（2 次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼ 確認方法

電源を“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴り、2 次警報まで作動したことを知らせます。

👉 アドバイス

- 作動履歴の確認は、2 次警報作動後、1 回のみ行うことができます。

盗難警報装置の メンテナンスについて

盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

⚠️ 注意

- 盗難警報装置の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



ドアの開閉

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。
ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物がお車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- お車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人でお車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたづらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

👉 アドバイス

- ドアを解錠した直後にドア ハンドルを引くと、ドアが開かないことがあります。その場合は、もう一度ドアを解錠し直してから、ドア ハンドルを引いてください。

お車から離れるときは

- キーは必ず運転者が携帯し、車内に置き忘れないようにしてください。
- ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

電波式リモコン ドア ロックによる 施錠、解錠

(電波式リモコン ドア ロック
→ 145 ページ)

キーレス アクセスによる 施錠、解錠

(キーレス アクセス
→ 146 ページ)





お車を運転する前に 車体各部の開閉

車外からキーによる施錠、解錠

アドバイス

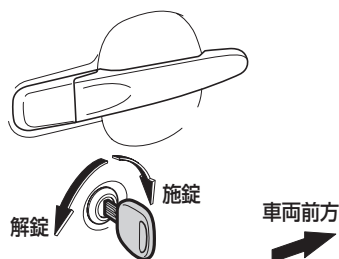
盗難警報装置がセットされている場合

- 電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）以外でドアを解錠してドアを開けると、盗難警報装置の警報が作動します。
警報が作動した場合は、ただちに「警報の停止方法」にしたがって、警報を停止させてください。

（警報の停止方法→ 161 ページ）

▼ 操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。
キーを車両前方に回すと施錠され、後方に回すと解錠されます。



アドバイス

- ドアのキー挿入口は助手席側には設定していません。

車外からキーを使用しない施錠

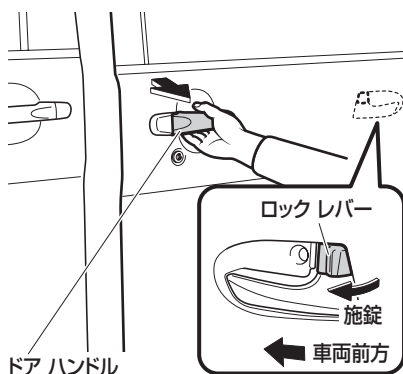
アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにはキーを手を持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付けられ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。

■ 運転席ドア

▼ 操作方法

ロック レバーを車両前方に押し込み、ドア ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。



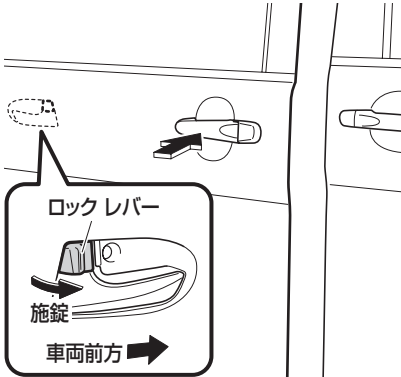


■ 助手席ドア、スライド ドア

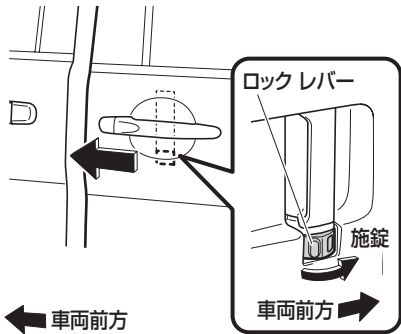
▼ 操作方法

ロック レバーを車両前方に押し込み、ドアを閉めて施錠します。

助手席ドア



スライド ドア

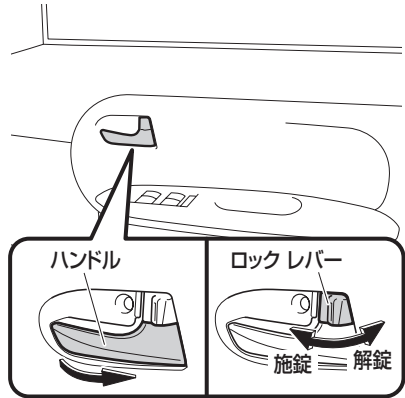


車内からの施錠、解錠

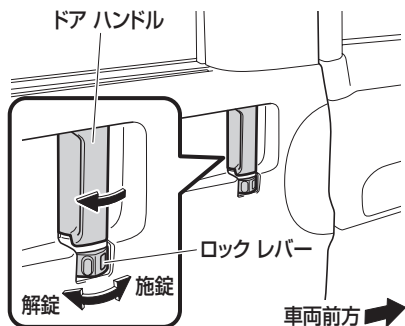
▼ 操作方法

ロック レバーを車両前方に押し込むと施錠できます。ロック レバーを車両後方に引くと解錠でき、ハンドルを引くとドアが開きます。

フロント ドア



スライド ドア

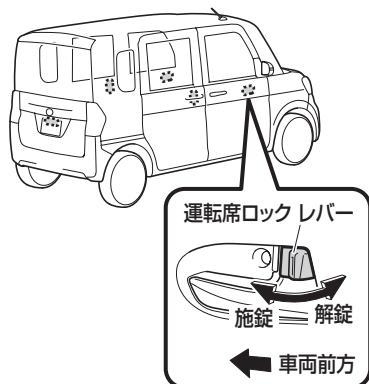




お車を運転する前に 車体各部の開閉

集中ドア ロック

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動して助手席ドア・スライド ドア・リヤ ゲートが施錠、解錠されます。



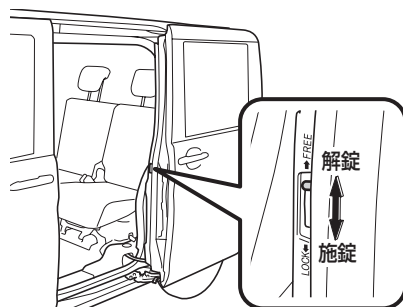
チャイルド プルーフ

お子さまの安全のため、チャイルド プルーフを左右スライド ドアに設けています。

▼ 操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。

ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。



⚠注意

- お子さまをリヤ シートに乗せるときは必ずチャイルド プルーフを使用してください。



キー抜き忘れ警告ブザー

プッシュ スタート装着車以外

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

次の状態で作動します。

電波式リモコン ドア ロック装着車

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき

キーレス アクセス装着車

電源が“ACC”か“ON”のとき、または車内にアクセス キーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき
次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席ドア ハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（車両の電源が“ON”のときは作動しません）



アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

キーレス アクセス装着車

- アクセス キーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、キー閉じ込み防止機能が作動せず、施錠されることがあります。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

衝撃感知ドア ロック解除 システム

車両の電源が“ON”のとき、車両の前後方向から強い衝撃を受けてSRSエアバッグが作動すると、約 10 秒後に全てのドアが自動的に解錠されます。

- SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグ装着車は、側面から強い衝撃を受けてSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグが作動しても解錠されます。

アドバイス

- 衝撃の加わりかたや大きさによっては、ドアロックを解除しない場合があります。

オート ドア ロック機能/ オート ドア アンロック機能

車両の状況に応じて、全てのドアを自動的にロック／アンロックする機能です。

オート ドア ロック機能

■ 車速感应オート ドア ロック

車速が約 20km/h以上になると、全てのドアが施錠されます。

- 次の設定に切り替えることができます。

▼ シフト連動オート ドア ロック

- エンジン回転中にセレクトレバーをP以外の位置にすると、全てのドアが施錠されます。

▼ オート ドア ロック機能停止

- 自動では施錠されません。

アドバイス

- オート ドア ロック機能で施錠された後に解錠すると、再度施錠はされません。
ただし、次のいずれかの状態になると再作動します。
 - 停車中にいずれかのドアを開けた
 - 車両の電源を“ACC”または“OFF”にした
 - オート ドア アンロック機能で解錠された



オート ドア アンロック機能

■ シフト連動オート ドア アンロック
運転席ドアを施錠した状態で、セレクト
レバーをPの位置にすると、全てのドア
が解錠されます。

- 次の設定に切り替えることができます。

▼ 電源“OFF”連動オート ドア アンロック

- 運転席ドアを施錠した状態で、車両の
電源を“ACC”または“OFF”にする
と、全てのドアが解錠されます。

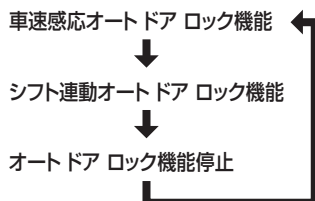
▼ オート ドア アンロック機能停止

- 自動では解錠されません。

オート ドア ロック機能／ オート ドア アンロック機能の 切り替え方法

■ オート ドア ロック機能の 切り替え方法

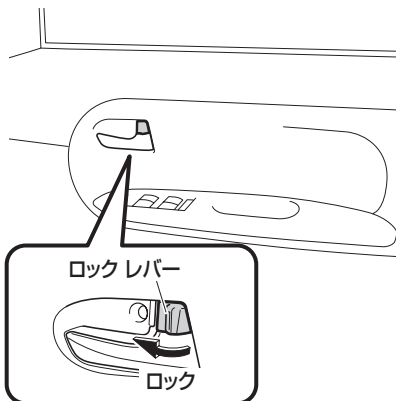
オート ドア ロック機能の切り替え操作
を完了するごとに、次の順で設定を切り
替えます。



▼ 切り替え操作の前に

車両を次の状態にしてください。

- 車幅灯を消灯する
- 車両の電源を“OFF”にする
- 全てのドアを閉める
- 運転席のドア ロック レバーを“ロック”にする



▼ 切り替え方法

1. 車両の電源を“ACC”にします。
2. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、
車幅灯を点灯・再度消灯します。
3. 消灯してから約 5 秒以内に、運転席
のドア ロックを“アンロック”にする。

▼ 切り替え完了確認

ドア ロックを“アンロック”後、約 3 秒
以内に全てのドアが“ロック”されます。

👉 アドバイス

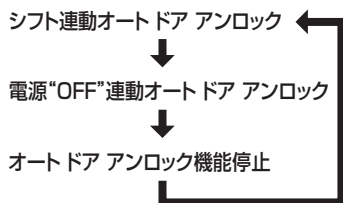
- 操作を途中で中断したときは、もう一
度ははじめからやり直してください。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

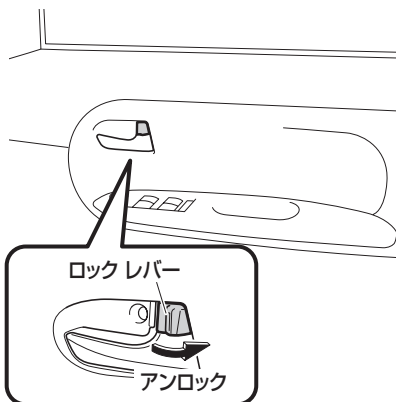
■ オート ドア アンロック機能の 切り替え方法

オート ドア アンロック機能の切り替え
操作を完了するごとに、次の順で設定を
切り替えます。



▼ 切り替え操作の前に
車両を次の状態にしてください。

- 車幅灯を消灯する
- 車両の電源を“OFF”にする
- 全てのドアを閉める
- 運転席のドア ロック レバーを“アン
ロック”にする



▼ 切り替え方法

1. 車両の電源を“ACC”にします。
2. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、
車幅灯を点灯・再度消灯します。
3. 消灯してから約 5 秒以内に、運転席
のドア ロックを“ロック”します。

▼ 切り替え完了確認

ドア ロックを“ロック”後、約 3 秒以内
に全てのドアが“アンロック”されます。



アドバイス

- 操作を途中で中断したときは、もう一
度ははじめからやり直してください。



スライド ドア

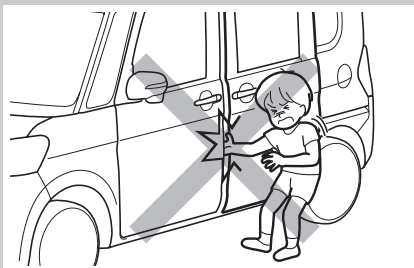
⚠警告

走行する前は

- スライド ドアが確実に閉まっていることを確認してください。半開のまま走行すると、ドアが全開または全閉方向に動き、手足や顔を挟んだり、車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

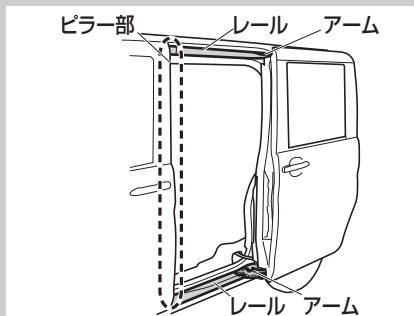
ドアを開閉するときは

- お子さまにはスライド ドアの開閉操作をさせないでください。不意にドアが動き出したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。



⚠警告

- スライド ドアを開閉するときは、次のことをお守りください。ドアで手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- スライド ドア周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドア ハンドルをしっかりと持ち、スライド ドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- スライド ドアのレール、アーム、およびピラー部には手足をかけないでください。



- スライド ドアのウインドゥ ガラスを開けたまま開閉するときは、ウインドゥ から手足や顔を出さないでください。
- スライド ドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。開け方が不完全で固定されていないと、不意に動き出すことがあります。
- スライド ドアを閉めるときは指などを挟まないよう、十分に注意してください。



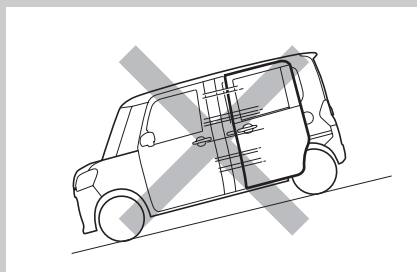


お車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠警告

傾斜地では

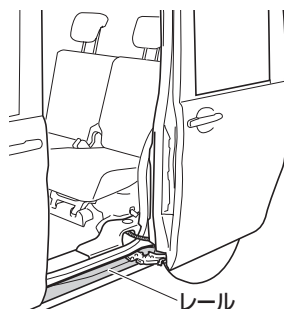
- 傾斜地でスライド ドアを開閉するときは、次のことをお守りください。ドアが不意に動き出すことがあり、手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- スライド ドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。
- スライド ドアを開けたままにしないでください。



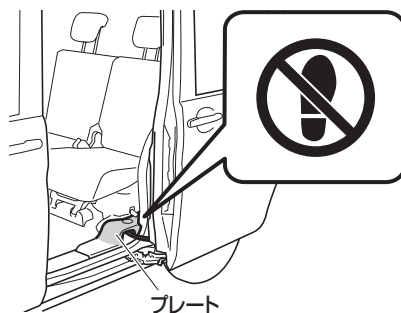
- 乗り降りの途中でドア ハンドルを操作しないでください。
- スライド ドアの開閉スピードが速くなりますので、注意してください。

⚠注意

- スライド ドアのリヤ ステップ下のレールに、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライド ドアを開閉すると、スライド ドアの故障の原因になります。



- 乗り降りするときは、リヤ シート下のプレートを押さないようにしてください。プレート下の配線類が損傷するおそれがあります。





アドバイス

- フューエル リッドが開いている状態で、左側スライド ドアを手動で開けると、途中でストッパーがかかり全開することができません。
- 途中でストッパーがかかった状態のスライド ドアを全開にするときは、一度フューエル リッドを閉めたあと、再度スライド ドアを開けてください。

スライド ドアの施錠、解錠

(車外からキーを使用しない施錠

→ 164 ページ)

(車内からの施錠、解錠→ 165 ページ)

スライド ドアの開閉

アドバイス

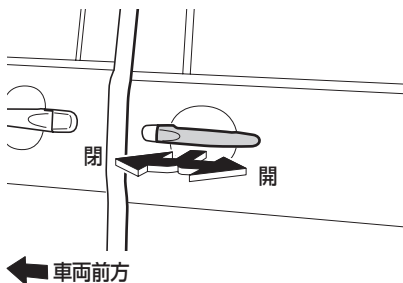
パワー スライド ドア

- パワー スライド ドア オフ スイッチが“OFF” のとき、スライド ドアを手動で開閉できます。

(パワー スライド ドア オフ
スイッチ→ 178 ページ)

■ 車外からの開閉

- 開けるときは、車外のドア ハンドルをロックが解除するまで手前に引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、車外のドア ハンドルをロックが解除するまで手前に引いて、ストッパーを解除させてから、スライド ドアを車両前方に操作します。

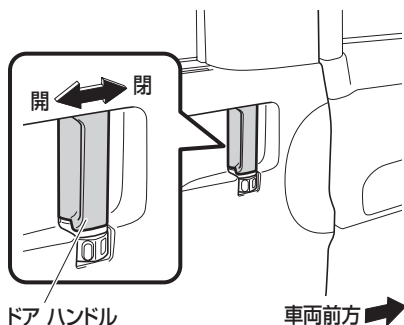




お車を運転する前に 車体各部の開閉

■ 車内からの開閉

- 開けるときは、車内のドア ハンドルをロックが解除するまで車両後方に引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、車内のドア ハンドルをロックが解除するまで車両前方に押して、ストッパーを解除させてから、スライド ドアを車両前方に操作します。



👉 アドバイス

- チャイルド プルーフが施錠状態になっているときは、ドア ハンドルでスライド ドアを開くことはできません。

イージー クローザー（左右）

オプション/グレード別装備

スライド ドアを閉めたとき、半ドア状態でも、自動的にドアを閉めることができます。

⚠️ 警告

- お子さまには、スライド ドアの開閉操作をさせないでください。
- 半ドア状態のとき、スライド ドアが自動的に閉まるため、同乗者など周囲の安全を十分に確認し、指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。特にお子さまには気をつけてください。

⚠️ 注意

- イージー クローザー作動中は、ドアに無理な力をかけないでください。また、イージー クローザーを繰り返し作動させないでください。無理な力をかけると、故障の原因になります。

👉 アドバイス

- イージー クローザー作動中に車外または車内のドア ハンドルを引くと、作動を停止することができます。
- ドア ハンドルを引いたままスライド ドアを閉めると、イージー クローザーは作動しません。

パワー スライド ドア装着車

- パワー スライド ドア オフ スイッチが“OFF”のときでも、イージー クローザーは作動します。



パワー スライド ドア (ワンタッチ オープン機能、 予約ロック機能付)

オプション/グレード別装備

左側パワー スライド ドア装着車

ドア ハンドルやスイッチの操作により、左側のスライド ドアを自動で開閉することができます。

両側パワー スライド ドア装着車

ドア ハンドルやスイッチの操作により、左右両側のスライド ドアを自動で開閉することができます。

⚠警告

- スライド ドアの警告および注意もお守りください。
(スライド ドア→ 171 ページ)
- 乗降するときは、必ずパワー スライド ドアを全開にしてください。
- パワー スライド ドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。
車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドア ハンドルやスイッチ操作により、スライド ドアを完全に閉めてください。

⚠警告

- パワー スライド ドアを自動開閉するときは、次のことをお守りください。
ドアで手足や顔を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ドアを自動開閉するときは

- お子さまには、パワー スライド ドアの開閉操作をさせないでください。
- 自動開閉している間は、同乗者や荷物など周囲の安全を十分に確認して注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- ブレーキを確実にかけて、お車が完全に停止している状態で行ってください。
- 自動開閉中に警報ブザーが鳴り、ドアが途中で緊急停止したときは、周囲の安全を十分に確認して停止原因を解消し、すみやかに開閉操作をしてください。坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあります。
- エンジン停止中に、パワー スライド ドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドア ハンドルの操作で途中停止した場合は、約3分後(挟み込みで停止した場合は約30分後)にブザーが鳴り、停止保持状態を解除して手動状態になるため、坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあります。





お車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠警告

傾斜地では

- パワー スライド ドアを開ける場合は、全開にして静止していることを確認してください。全開でないと、不意に動き出すおそれがあります。
- 急な傾斜地ではパワー スライド ドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。

タイヤ交換や洗車機を使用するときは

- パワー スライド ドア オフ スイッチを“OFF”にしてください。“ON”にしていると、誤ってスライド ドアハンドルやワンタッチ スイッチなどに触れ、スライド ドアが動き出すおそれがあります。

⚠注意

- エンジン停止時の自動開閉中に、エンジンを始動しないでください。パワー スライド ドアが正常に作動しなくなる場合があります。
- アイドリング ストップ中にパワー スライド ドアを作動させると、エンジンが再始動することがあります。しっかりとブレーキを踏み続けてください。

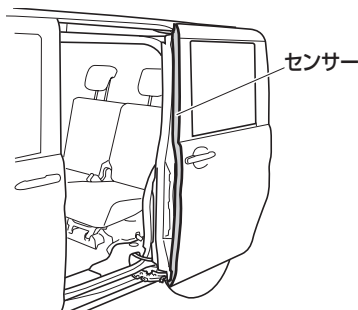
(アイドリング ストップ
→ 272 ページ)

ドアが凍結しているときは

- パワー スライド ドアが開閉可能かを手動で確認してから自動開閉操作をしてください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因になります。

⚠注意

- スライド ドアの側面部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、パワー スライド ドアはただちに停止します。



👉アドバイス

- 車外または車内のドア ハンドルによる自動開操作の際、ドア ハンドル操作が不十分な場合にパワー スライド ドア後端付近で「ガコッ」と音がしてブザーが約 10 秒間鳴ることがありますが、故障ではありません。もう一度ドア ハンドルを引くと、パワー スライド ドアが正常に作動します。



■ パワー スライド ドアの 作動条件について

パワー スライド ドアは、電源に関係なく作動します。

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワー スライド ドア オフ スイッチが“ON”の状態
- フューエル リッドが閉まっているとき（左側パワー スライド ドア開閉時）
- 電源が“ON”のときは、車速が約3km/h以下で、次のいずれかの条件を満たしているとき
 - ・セレクト レバーがPレンジの位置
 - ・駐車ブレーキがかかっている
 - ・ブレーキ ペダルを踏んでいる

👉 アドバイス

- スライド ドアが施錠された状態で、ワンタッチ スイッチ以外の操作をしたときは、自動開作動ができません。自動開作動の前に解錠してください。
- ワンタッチ スイッチは、解錠してドアを開くことはできますが、施錠することはできません。
- 電源が“ACC”または“ON”のときは、アクセス キーによる自動開閉はできません。
- パワー スライド ドア オフ スイッチが“ON”のとき、作動可能条件を満たしていない状態でパワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて手動で開けると、警報ブザーが鳴ります。その際、スライド ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなると、警報ブザーが鳴ることがあります。
- 次のようなときは、パワー スライド ドアが作動しない場合があります。
 - ・バッテリーの電圧が低下しているとき
 - ・坂道などの傾斜地で駐車しているとき
- 次の状態でワンタッチ スイッチにバッグなどが当たってしまうと、スライド ドアが自動で開くことがあります。
 - ・施錠状態でアクセス キーを所持しているとき
 - ・解錠状態のとき





お車を運転する前に 車体各部の開閉

パワー スライド ドアの自動開閉

■ パワー スライド ドア オフ スイッチ

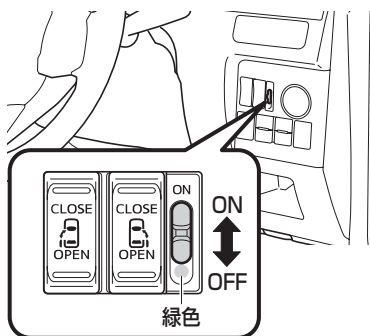
▼ スイッチが“ON” のとき

スライド ドアを自動で開閉できる状態です。

- スイッチ下部に緑色のマークが表れます。

▼ スイッチが“OFF” のとき

スライド ドアを自動で開閉できません。



■ パワー スライド ドア開閉スイッチ による自動開閉

▼ 開けるとき

- 左側（右側）スイッチの“OPEN” 側を約 0.5 秒以上押し続けると、ブザーが鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全開します。

▼ 閉めるとき

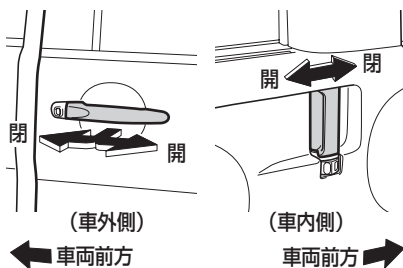
- 左側（右側）スイッチの“CLOSE” 側を約 0.5 秒以上押し続けると、ブザーが断続的に鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全閉します。

👉 アドバイス

- 自動開閉作動中に左側（右側）スイッチの“OPEN” または“CLOSE” 側を押すとブザーが鳴り、左側（右側）ドアが停止します。

👉 アドバイス

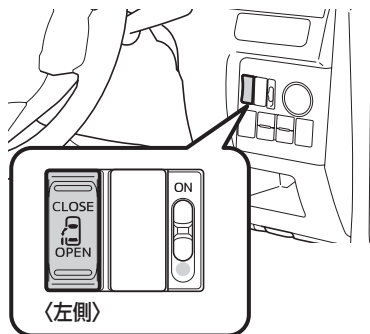
- スイッチが“OFF” のときは、自動開閉はできませんが、車外または車内のドア ハンドルで手動による開閉はできます。



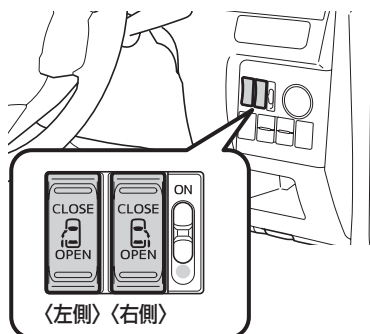
- スイッチが“OFF” のときでもイメージ クローザーは作動します。



左側パワー スライド ドア装着車



両側パワー スライド ドア装着車



アドバイス

- スイッチを押している時間が短いと自動開閉できません。
- パワー スライド ドア オフ スイッチが“OFF”のときにパワー スライド ドア開閉スイッチを押すと、ブザーが“ピピッ”と鳴り、パワー スライド ドアが作動しないことをお知らせします。

(パワー スライド ドア オフ
スイッチ→ 178 ページ)

■ 車内のドア ハンドルによる自動開閉

▼ 開けるとき

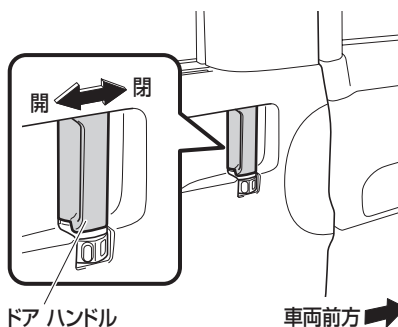
- パワー スライド ドアが全閉のとき、車内のドア ハンドルをロックが解除するまで車両後方に引くと、ブザーが鳴り、自動でドアが全開します。

▼ 閉めるとき

- パワー スライド ドアが全開のとき、車内のドア ハンドルをロックが解除するまで車両前方に押すと、ブザーが断続的に鳴り、自動でドアが全閉します。

アドバイス

- 自動開閉作動中に車内のドア ハンドルを操作するとブザーが鳴り、ドアが停止します。



アドバイス

- チャイルド プルーフが施錠状態になっているときは、車内のドア ハンドルでスライド ドアを自動で開くことはできません。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

■ 車外のドア ハンドルによる自動開閉

ワンタッチ スイッチ操作

▼ 開けるとき

- パワー スライド ドアが全閉のとき、アクセス キーを所持し、キーレス アクセスの作動範囲内でワンタッチ スイッチを押すとすべてのドアが解錠し、スライド ドアが自動で全開します。
- ドアが解錠されていれば、アクセス キーを所持していなくてもワンタッチ スイッチを押すことでスライド ドアを開けることができます。

(各ドア ハンドル スイッチの
作動範囲→ 150 ページ)

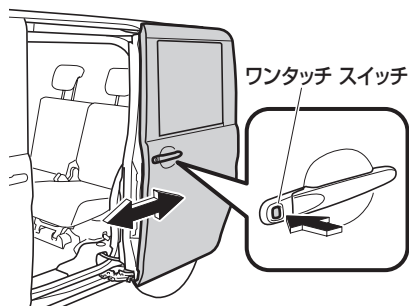
▼ 閉めるとき

- パワー スライド ドアが全開のとき、ワンタッチ スイッチを押すと、スライド ドアが自動で全閉します。



アドバイス

- 自動開閉作動中にワンタッチ スイッチを押すとブザーが鳴り、作動停止します。
もう一度ワンタッチ スイッチを押すとドアが反対方向に作動します。
- ワンタッチ スイッチでドアを施錠することはできません。



ドア ハンドル操作

▼ 開けるとき

- パワー スライド ドアが全閉のとき、車外のドア ハンドルをロックが解除するまで引くと、ブザーが鳴り、自動でドアが全開します。

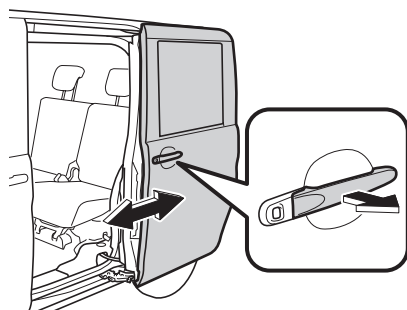
▼ 閉めるとき

- パワー スライド ドアが全開のとき、車外のドア ハンドルをロックが解除するまで引くと、ブザーが断続的に鳴り、自動でドアが全閉します。



アドバイス

- 自動開閉作動中に車外のドア ハンドルを引くとブザーが鳴り、ドアが停止します。
もう一度ドア ハンドルを引くとドアが反対方向に作動します。





■ アクセス キーによる自動開閉
電源が“OFF”のときに操作できます。

▼ 開けるとき

- 左側（右側）パワー スライド ドアが全閉のとき、アクセス キーの左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを約 1 秒以上押し続けると、ブザーが鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全開します。

▼ 閉めるとき

- 左側（右側）パワー スライド ドアが全開のとき、アクセス キーの左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを約 1 秒以上押し続けると、ブザーが断続的に鳴り、自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全閉します。

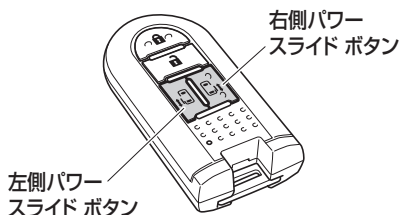
 アドバイス

- 自動開閉作動中にアクセス キーの左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを押すとブザーが鳴り、ドアが停止します。
もう一度左側（右側）パワー スライド ドア ボタンを約 1 秒以上押し続けると自動で左側（右側）パワー スライド ドアが全開します。
- パワー スライド ドアが途中まで開いた状態から閉じる場合は、ドアを全開にした後に再度ボタン操作をしてください。

左側パワー スライド ドア装着車



両側パワー スライド ドア装着車



 アドバイス

- ボタンを押している時間が短いと自動開閉できません。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

予約ロック機能

スライド ドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、スライド ドア以外のすべてのドアが施錠され、スライド ドアが閉まると同時にスライド ドアも施錠されます。

▼ 予約ロック方法

1. スライド ドア以外のすべてのドアを閉じます。
2. スライド ドアの自動閉作動中に、アクセス キーで施錠操作を行います。
 - アンサー バックでお知らせします。（ブザーと非常点滅表示灯の点滅が 1 回）
（電波式リモコン ドア ロック操作 → 151 ページ）
3. スライド ドアが閉まると同時に施錠されます。
 - アンサー バックでお知らせして、予約ロックが完了します。（ブザーと非常点滅表示灯の点滅が 1 回）

アドバイス

- 予約ロックをしてスライド ドアが自動閉作動中に、キーレス アクセスで解錠したり、挟み込み防止機構が働くなどの停止操作が行われたりすると、予約ロック機能を解除してすべてのドアが解錠されます。
 - ・ アンサー バックでお知らせします。（ブザーと非常点滅表示灯の点滅が 2 回）
- 予約ロックをしてスライド ドアが自動閉作動中に、運転席側ドアのロックレバーを解錠方向へ操作したり、電源を“ACC”にしたりすると、予約ロック機能を解除してすべてのドアが解錠されます。
 - ・ アンサー バックのお知らせはありません。
- 予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、アクセス キーを車内に戻すと、車内にアクセス キーが閉じ込められることがあります。予約ロック機能を使用するときは、必ずアクセス キーを携帯した状態で行ってください。
- お車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。
- フロント ドア ハンドル、またはリヤゲート ハンドルのスイッチでは、予約ロックはできません。



自動開閉中の緊急停止について

次のような状態になると、警報ブザーが鳴り、ドアを途中で緊急停止します。

- パワー スライド ドア オフ
スイッチを“OFF”にした
- フューエル リッドを開いた
(左側パワー スライド ドア開閉時)
- 自動開作動中に車速約 3 km/h 以上になった

⚠警告

- 自動開閉中にパワー スライド ドア オフ スwitchを“OFF”にしたり、フューエル リッドを開いたりしたときは、警報ブザーが鳴ってスライド ドアが途中で緊急停止し、約 3 秒間停止を継続します。その後、坂道などの傾斜地の場合、停止したドアが断続的に傾斜方向に動き出すおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して停止原因を解消し、すみやかに開閉操作をしてください。
- 自動開作動中に車速が約 3 km/h 以上になったときは、警報ブザーが鳴ってドアを途中で緊急停止し、そのまま停止し続けます。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドア ハンドルやスイッチ操作により、スライド ドアを完全に閉めてください。

▼ 緊急停止後に自動開閉を再開するには
停止したパワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて、全閉にしてください。



アドバイス

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがあります、異常ではありません。





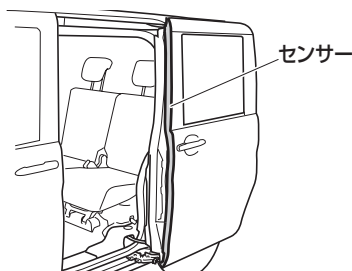
お車を運転する前に 車体各部の開閉

挟み込み防止機構

パワー スライド ドアの自動開閉作動中に、挟み込みを検知したドアを少し反転作動した後に途中で停止させる機構です。

次のような場合に作動します。

- 自動で閉めているときに、パワー スライド ドアの前端部にあるセンサーが、異物などの挟み込みを検知した
- 自動開閉中に異物を挟み込むなどして、ドアに一定以上の負荷がかかった



⚠警告

- パワー スライド ドアが自動開閉している間は、同乗者など周囲の安全を十分に確認し、手・頭・首などを挟まないように十分に注意してください。特にお子さまには気をつけてください。
- 全開直前または全閉直前の位置では、挟み込み防止機構が作動しない領域があります。
- 挟まれる異物の形状、硬さ、挟まれ方によっては、異物を検知できずに挟み込み防止機構が作動しないことがあります。

👉アドバイス

- センサーに手などを強く触れたままにしていると、自動閉作動ができません。
- 挟み込みを検知してスライド ドアが途中で停止しているときは、アクセスキーのリモコン操作による自動開閉ができません。
- 挟み込みを検知したドアが反転作動している間に再度挟み込みを検知すると、即停止します。

▼自動開閉ができないときは

停止したパワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて、全閉にしてください。

👉アドバイス

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがあります、異常ではありません。



初期設定

パワー スライド ドアが全閉していないときに、ヒューズ切れやバッテリーあがり起きたときは、パワー スライド ドアの初期設定をしてください。

パワー スライド ドアが初期設定されていないと、次の機能が作動しません。

- パワー スライド ドアの自動開閉
- 挟み込み防止機構

■ 初期設定のしかた

パワー スライド ドアのドア ハンドルを引いて全閉にすると、初期設定が完了します。



アドバイス

- 手動で全閉にする際は、ドアにブレーキをかけるためスムーズに動かないことがあります。異常ではありません。





お車を運転する前に 車体各部の開閉

リヤ ゲート

▼ 操作を行う前に

⚠警告

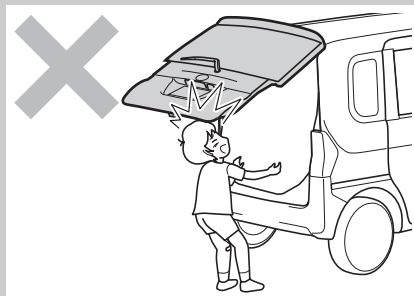
走行するときは

- 走行中はリヤ ゲートを閉じてください。開けたまま走行すると、リヤ ゲートが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 走行前はリヤ ゲートを軽くゆすり、リヤ ゲートが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然リヤ ゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはリヤ ゲートの開閉をさせないでください。不意にリヤ ゲートが動いたり、閉めるときに頭をぶついたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。



- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。



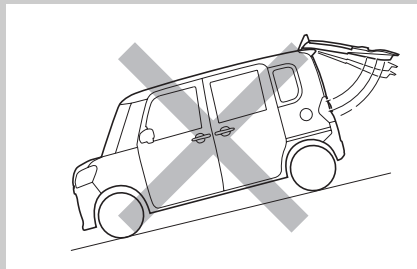
⚠警告

リヤ ゲートを開閉するときは

- リヤ ゲートの開閉や荷物の出し入れをするときは、次のことをお守りください。リヤ ゲートで頭をぶついたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- リヤ ゲート周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- リヤ ゲートのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- リヤ ゲートは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、リヤ ゲートが不意に閉まるおそれがあります。
- リヤ ゲートを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、リヤ ゲートが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもリヤ ゲートが開閉しにくかったり、急にリヤ ゲートが閉じたり開いたりするおそれがあります。リヤ ゲートを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。



- リヤ ゲートを開ける前に、リヤ ゲートに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤ ゲートが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- リヤ ゲートを支えているダンパー ステーを持ってリヤ ゲートを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- リヤ ゲートにスバル指定品以外のアクセサリを取り付けしないでください。リヤ ゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなり、不意にリヤ ゲートが閉まるおそれがあります。



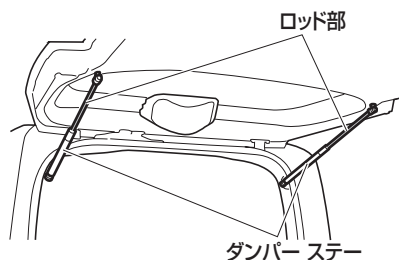


お車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠注意

ダンパー ステーについて

- リヤ ゲートには、リヤ ゲートを支えるためのダンパー ステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
- ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。

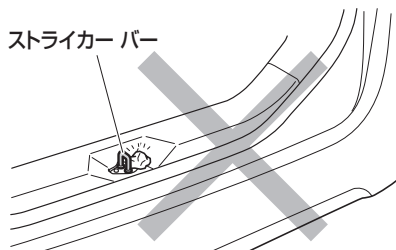


- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

⚠注意

ストライカー バーについて

- リヤ ゲートを閉めるときはストライカー バーに異物が卡み込まないようにしてください。
バーが破損し、リヤ ゲートが閉まらなくなるおそれがあります。





車内からの施錠、解錠

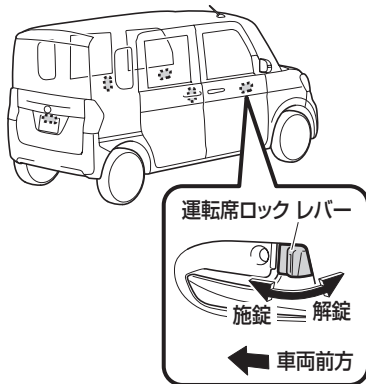
■ リヤ ゲート連動集中ドア ロック
運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動してリヤ ゲートが施錠、解錠されます。このとき助手席ドア、スライド ドアも同時に施錠、解錠されます。

▼ 施錠方法

運転席ドアのロック レバーを押し込むと施錠できます。

▼ 解錠方法

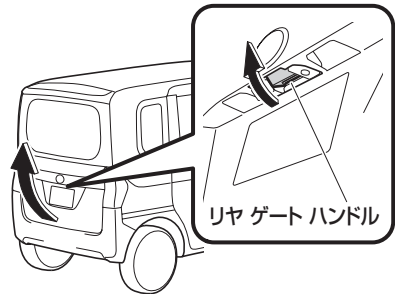
運転席ドアのロック レバーを手前に引くと解錠できます。



リヤ ゲートの開閉

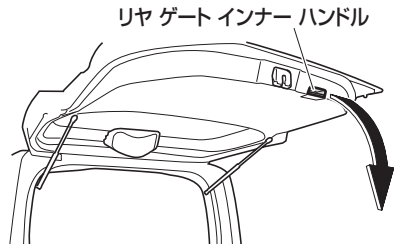
▼ 開けるとき

解錠したあとでリヤ ゲート ハンドルを引いて、リヤ ゲートをゆっくりと引っばいまで持ち上げます。



▼ 閉めるとき

1. リヤ ゲート インナー ハンドルを持ってリヤ ゲートを途中までゆっくりと下げます。



⚠注意

- リヤ ゲート インナー ハンドルで直接リヤ ゲートを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。リヤ ゲートは、必ず外から押して閉めてください。
2. ハンドルから手を離して、リヤ ゲートを上から手で押さえつけるように閉めます。
 3. 半ドアでないことを確認します。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

ボンネット

▼ 操作を行う前に

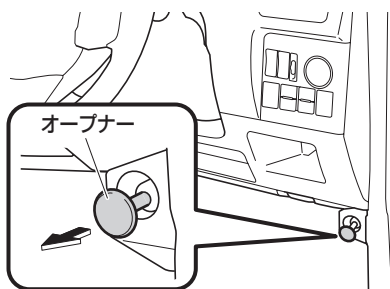
⚠ 警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、次のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあり大変危険です。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。

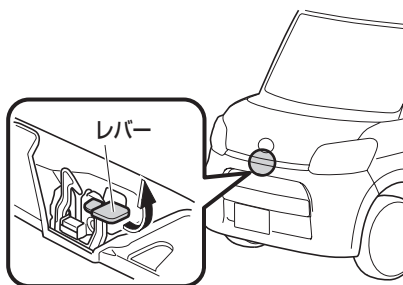
開けかた

▼ 操作手順

1. インストルメント パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。



2. ボンネット前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。

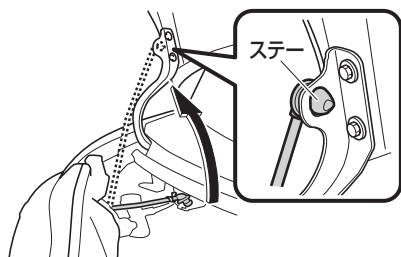


⚠ 注意

- エンジン回転中や停止後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。



3. ボンネットをステーで確実に支えます。



⚠注意

- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

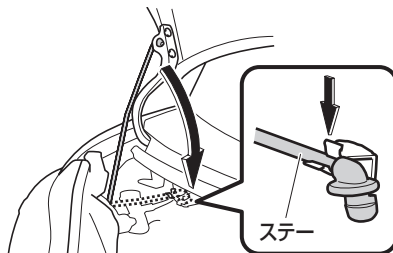
👉アドバイス

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

閉めかた

▼ 操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステーを元の位置へ戻します。



2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

👉アドバイス

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。





お車を運転する前に 車体各部の開閉

フューエル リッド

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 燃料は引火しやすいため、次のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンはず必ず止めてください。
- お車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。

⚠警告

- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料がお車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近づけないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- スバル指定フューエル キャップ以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。



⚠注意

- 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリンです。
- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエル リッドの開閉

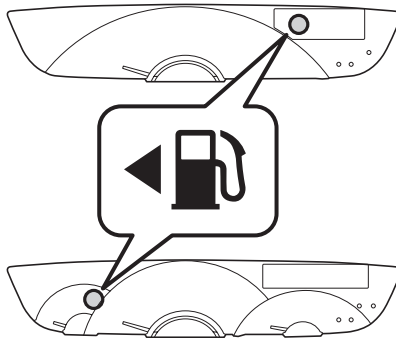
⚠注意

- 左側スライド ドアが全開、またはフューエル リッド付近まで開いているときに、フューエル リッドを開けないでください。左側スライド ドア、またはフューエル リッドが破損するおそれがあります。



アドバイス

- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。



* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。





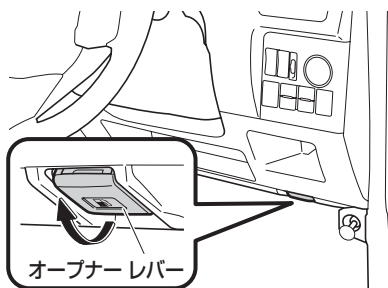
お車を運転する前に 車体各部の開閉

アドバイス

- フューエル リッドが開いている状態で、左側スライド ドアを手動で開けると、途中でストッパーがかかり全開することができません。
- フューエル リッドが開いている状態で、左側スライド ドアを自動（パワー スライド ドア）で開けることはできません。
- パワー スライド ドアの自動開閉中に、フューエル リッドを開けると、ブザーが鳴り、左側スライド ドアの作動を停止します。

▼ 開けるとき

インストルメント パネルの右下にあるオープナー レバーを引き上げます。



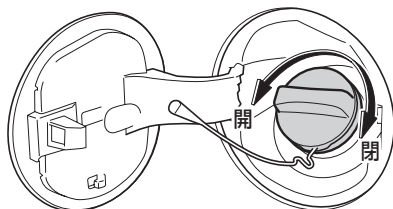
▼ 閉めるとき

リッドを押して閉めます。

フューエル キャップの開閉

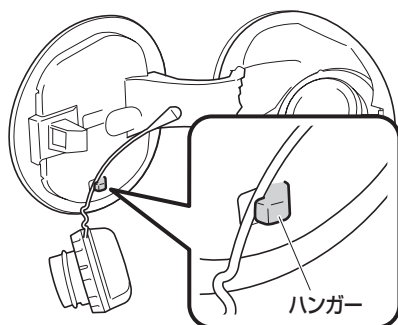
▼ 開けるとき

左に回して開けます。



▼ 給油するとき

外したフューエル キャップをフューエル リッド裏側にあるハンガーにかけておくことができます。



▼ 閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。



パワー ウインドウ

スイッチ操作により運転席、助手席、後席のウインドウの開閉ができます。

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- パワー ウインドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにパワー ウインドウの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF”にしてください。

👉 アドバイス

- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドウを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- パワー ウインドウの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。エンジン停止時に行くと、バッテリーあがりの原因になります。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドウ スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。
- 電源を“ON”にすると、運転席ドア側ウインドウ スイッチのスイッチ照明が点灯します。

パワー ウインドウ モーターの過熱保護機能について

- パワー ウインドウ モーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワー ウインドウ モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワー ウインドウが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

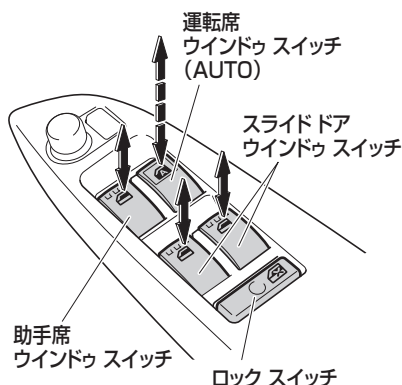




お車を運転する前に 車体各部の開閉

運転席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。



■ 運転席 ウィンドウ スイッチ (AUTO)

▼ 操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、軽く引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウィンドウ ガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

▼ 電源“OFF”後作動機能

電源を“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ウィンドウ ガラスを開閉できます。

■ 助手席ウィンドウ スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

■ スライド ドア ウィンドウ スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

■ ロック スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押し込むと“OFF”になり、運転席ウィンドウ ガラス以外は操作できなくなります。

スイッチをもう一度押すと解除されます。



ON

(全席ウィンドウ
操作可)



OFF

(運転席ウィンドウのみ
操作可)

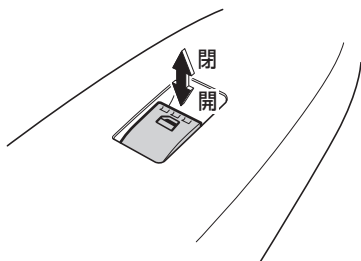


助手席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。

▼ 操作方法

スイッチを押しながらウインドウガラスは開き、引き上げている間ウインドウガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。



スライド ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。

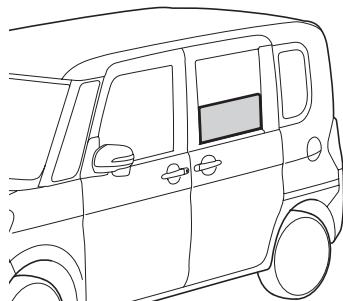
▼ 操作方法

スイッチの上側を押している間ウインドウガラスは閉まり、スイッチの下側を押している間ウインドウガラスは開きます。
手を離すとその位置で止まります。



アドバイス

- 左右スライド ドアのドア ウインドウは全開になりません。



ウインドウ反転機構（運転席）

運転席ドア ウインドウ ガラスを閉めるときに、窓枠とウインドウ ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドウ ガラスの上昇を停止し、自動的にウインドウ ガラスが下降します。

アドバイス

- 特に小さな物を挟み込んだとき、ウインドウ反転機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウインドウ ガラスに加わると、ウインドウ反転機構が作動することがあります。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

運転席ウィンドウ ガラスが 全閉しないときは

ウィンドウ反転機構が異常に作動してしまい、ウィンドウ ガラスを全閉できないときは、運転席ウィンドウ スイッチで、次の操作を行ってください。

▼ 操作方法

1. お車を停止し、電源を“ON”にします。
2. 運転席ウィンドウ スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウィンドウ ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上を引きます。



アドバイス

- 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめてやり直してください。
- 上記の操作を行っても運転席ウィンドウ ガラスが全閉しない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワー ウィンドウの初期設定をしてください。

パワー ウィンドウの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

● 運転席ウィンドウ ガラスの

- ・自動開閉機能
- ・ウィンドウ反転機構
- ・電源“OFF”後作動機能

▼ 操作手順

1. 電源を“ON”にします。
2. 運転席ウィンドウ スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウィンドウ ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 2 秒間スイッチを上を引きます。



車体各部の調整

ルーム ミラー

▼ 操作を行う前に

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

▼ 調整のしかた

ルーム ミラー全体を動かして角度を調整します。



電動格納式ドア ミラー

ミラーの格納、角度調整をスイッチまたはノブの操作で行うことができます。電源が“ACC”または“ON”のときに使用できます。

▼ 操作を行う前に

⚠注意

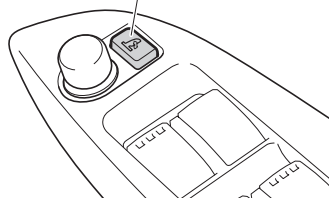
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

▼ 格納のしかた

電波式リモコン ドア ロック装着車

ミラー格納スイッチを押すと、ミラーを格納することができます。もう一度押すと元に戻ります。走行するときは、必ず元に戻してください。

ミラー格納スイッチ





お車を運転する前に 車体各部の調整

キーレス アクセス装着車

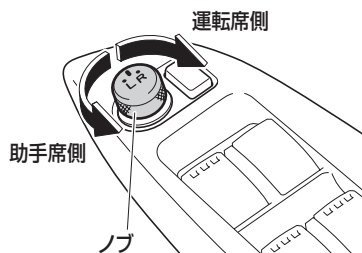
ミラーを格納するには、①のスイッチを押します。

ミラーを復帰するには、②のスイッチを押します。

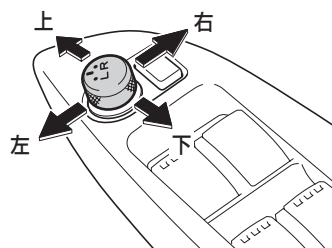


▼ 調整のしかた

1. ノブを調整する側にまわします。



2. ノブを動かして、ミラーの角度を調整します。



⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。



アドバイス

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 調整ノブを中立（中央）の位置にすると操作することができません。



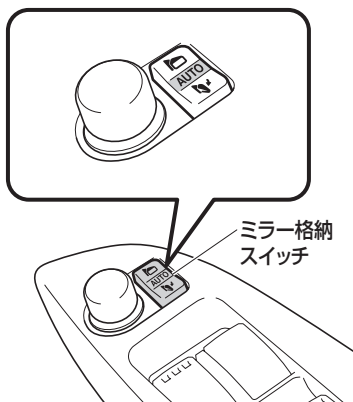
オート格納式ドア ミラー (キーレス アクセス連動)

キーレス アクセス装着車

キーレス アクセスによるドアの施錠に連動して、ドア ミラーが自動的に格納します。

▼ 格納のしかた

1. ミラー 格納 スイッチを“AUTO” (中立) の位置にします。
2. フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチを押す、またはアクセス キーの“LOCK” ボタンを押してドアを施錠します。



▼ 復帰のしかた

電源を“ACC” または “ON” にします。

⚠ 注意

- ミラーを復帰するときは、ドア ミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドア ミラーが当たり、破損するおそれがあります。

👉 アドバイス

- ドア ミラーを自動で格納 (または復帰) させたくないときは、ミラー格納スイッチを復帰側 (または格納側) の位置にしてください。
- 電源を“ON” にしたときのみ、ドア ミラーを復帰するようにできます。
(ミラー格納スイッチの操作も、電源を“ON” にしたときのみ可能になります。) スバル販売店にご相談ください。



お車を運転する前に 車体各部の調整

電動格納式ヒートッド ドア ミラー

オプション/グレード別装備

曇り取り機能を装備した電動格納式ドア ミラーです。

雨天時などに、ドア ミラーが曇ったとき、ドア ミラーの曇りを取ることができます。

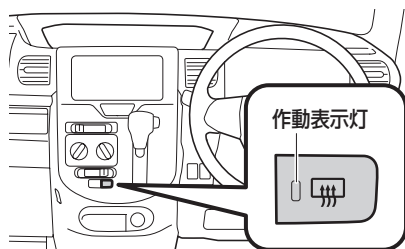
(電動格納式ドア ミラー→ 199 ページ)

▼ 操作方法

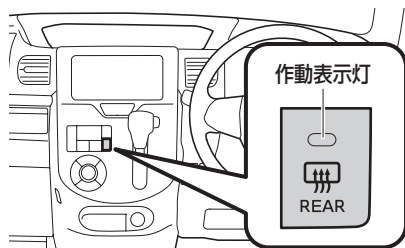
リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ドア ミラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車



オート エアコン装着車

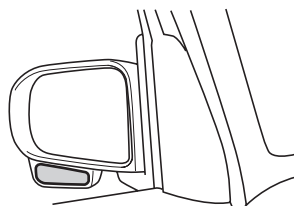


👉 アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

サイド アンダー ミラー

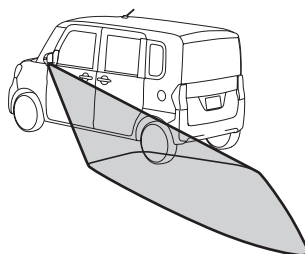
助手席側ドア ミラー下部に装着されているミラーにより、停車時や発進時、路肩に寄せるときなどに車両左側下部を確認することができます。



👉 アドバイス

- サイド アンダー ミラーは下向きになっています。
- サイド アンダー ミラーの角度調整は不要です。

▼ 見える範囲



ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。

⚠️ 注意

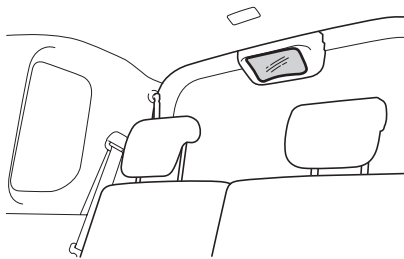
- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視するか、ルーム ミラー、ドア ミラーなども併用して十分行ってください。



リヤ アンダー ミラー

オプション/グレード別装備

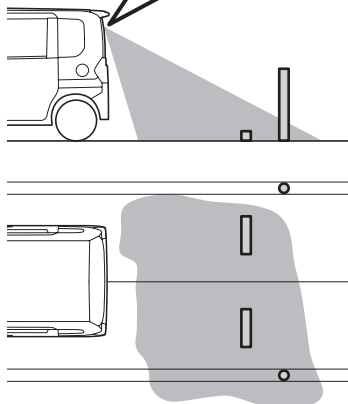
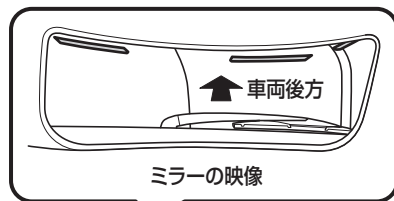
リヤ ゲート内部に装着されているミラーにより、車両後方付近を確認することができます。



アドバイス

- リヤ アンダー ミラーの角度調整は不要です。

▼ 見える範囲



- ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。
- パンパーから約 40cmまでの範囲は映りません。

⚠ 注意

- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視するか、ルーム ミラー、ドア ミラーなども併用して十分行ってください。



お車を運転する前に 車体各部の調整

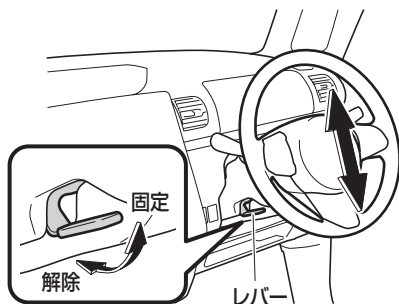
チルト ステアリング

オプション/グレード別装備

ハンドルの位置を調整することができます。

▼ 調整のしかた

レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整します。その状態でレバーを引き上げると固定されます。



⚠ 警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。

スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグ システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。





MEMO



お車を運転するにあたって

お車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の
使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

メーター	208
------	-----

■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯	219
警告灯	225

■ スイッチの使いかた

ライティング スイッチ	234
光軸調整ダイヤル	240
方向指示レバー	241
非常点滅表示灯スイッチ	242
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	243
フォグ ランプ スイッチ	245
リヤ ウインドウ デフォッガー スイッチ	245
運転席シート ヒーター スイッチ	246
ホーン スイッチ	247

■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ	248
駐車ブレーキ	256
ターボ車	257
AWD車	257
POWERモード切り替えスイッチ	259

■ エンジンのかけかた

CVT車	260
------	-----

■ CVT車の運転

CVT車	262
セレクト レバーの操作	264
運転のしかた	266

■ アイドリング ストップ システムの使いかた

アイドリング ストップ	272
-------------	-----

■ 発電制御

発電制御	284
------	-----

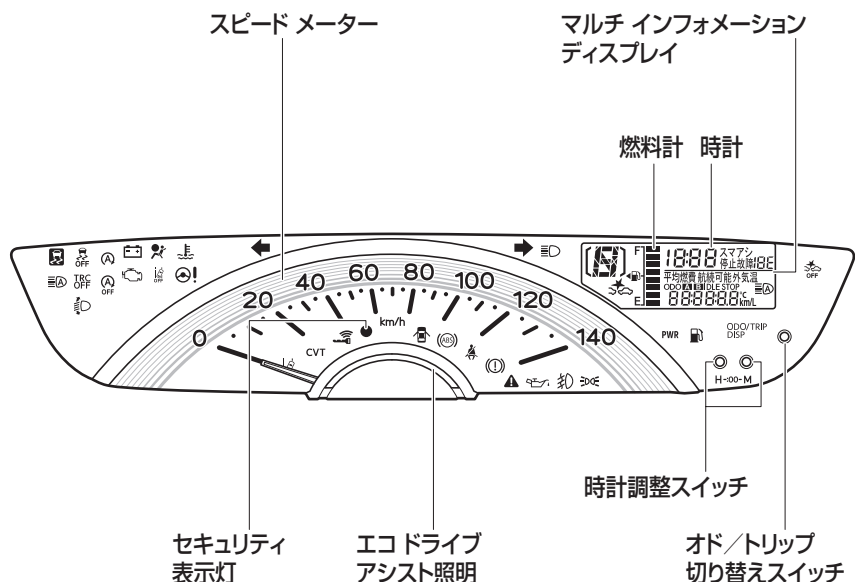


メーターのはたらき

メーター

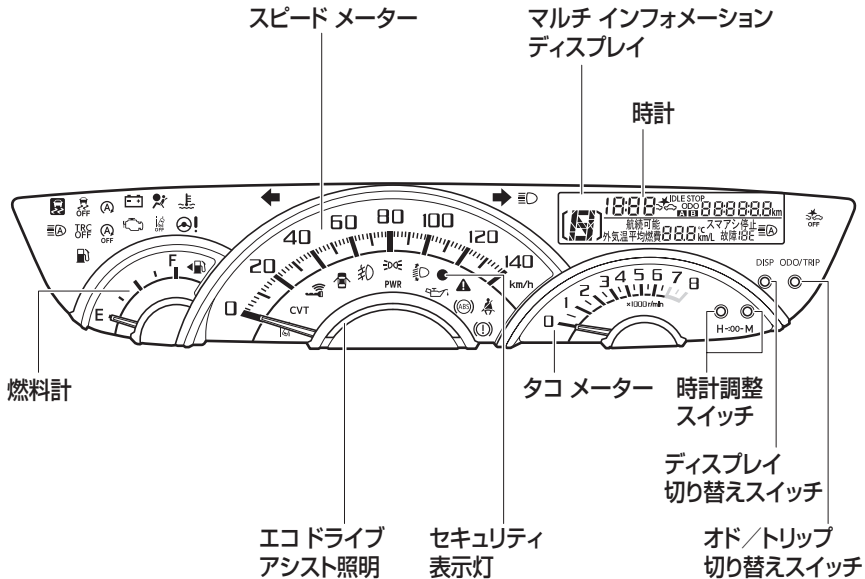
表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやメーカー オプションにより一部異なることがあります。

タコ メーター装着車以外





タコメーター装着車



👉 アドバイス

電源“ON”時のメーター演出

- メーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。



お車を運転するにあたって メーターのはたらき

スピード メーター

走行速度をkm/h で表示します。

タコ メーター

オプション/グレード別装備

1 分間当たりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

電源が“ON” のとき、燃料残量を表示します。

- 燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

(燃料残量警告灯→ 230 ページ)

⚠注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

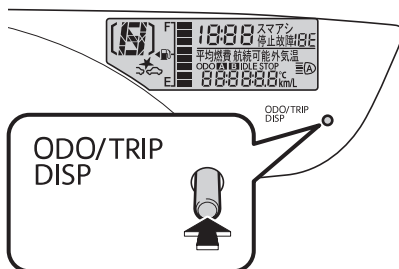
- ただちに燃料を給油してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

マルチ インフォメーション ディスプレイ

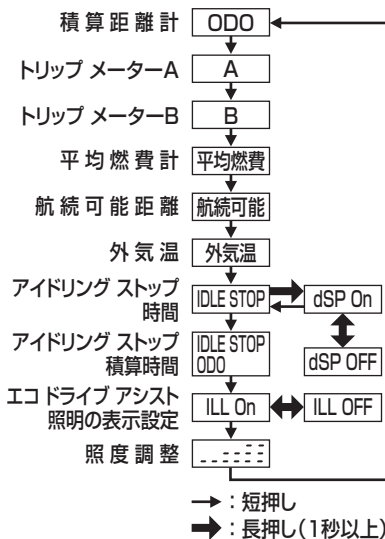
電源が“ON” のとき表示します。

タコ メーター装着車以外

オドノトリップ切り替えスイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



▼ オドノトリップ切り替えスイッチによる 切り替わりかた

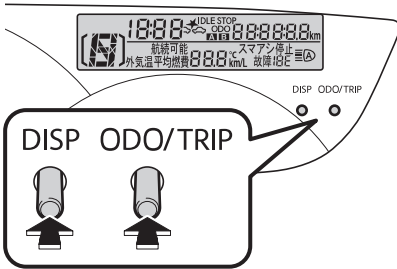


お車を運転するにあたって メーターのはたらき

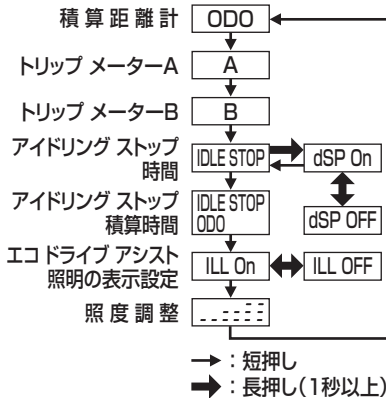


タコ メーター装着車

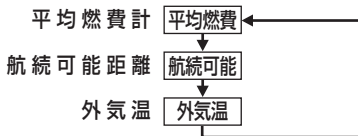
オド／トリップ切り替えスイッチ、またはディスプレイ切り替えスイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



▼ オド／トリップ切り替えスイッチによる 切り替わりかた



▼ ディスプレイ切り替えスイッチによる 切り替わりかた



■ オド メーター（積算距離計）
走行した総距離を表示します。

■ トリップ メーター（区間距離計）
リセットした地点からの走行距離を表示します。
トリップ メーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。

▼ トリップ メーター表示をリセット するには

リセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、オド／トリップ切り替えスイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

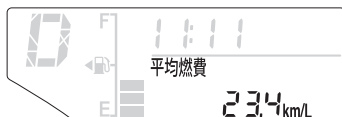


お車を運転するにあたって メーターのはたらき

■ 平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

タコ メーター装着車以外



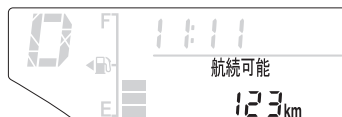
タコ メーター装着車



■ 航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



▼ 平均燃費表示をリセットするには

平均燃費を表示させ、タコ メーター装着車以外はオドノトリップ切り替えスイッチ（タコ メーター装着車はディスプレイ切り替えスイッチ）を約 1 秒以上押し続けると、表示が「0.0km/L」になります。

👉 アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

⚠️ 注意

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、ただちに燃料を給油してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。



アドバイス

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされます。

■ 外気温

外気温を表示します。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車



▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3℃以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

3℃
(点滅)



お車を運転するにあたって メーターのはたらき

アドバイス

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- 電源を“ON”にした直後は、外気温が表示されないことがあります。
- 表示範囲は、「-30～50℃」です。
- 異常検出したときの表示は、「-℃」です。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
 - 停車しているときや低速走行しているとき
 - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- 電源を“ON”にしたとき、外気温がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

■ アイドリング ストップ時間

電源を“ON”にしてからのアイドリング ストップ時間を表示します。

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



▼ アイドリング ストップ時間表示のリセットについて

電源を“OFF”にすると、表示がリセットされます。リセット後、電源を“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。



▼ アイドリング ストップ時間の自動表示について

アイドリング ストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、アイドリング ストップ中に、自動でアイドリング ストップ時間を表示します。

アドバイス

アイドリング ストップ時間自動表示を

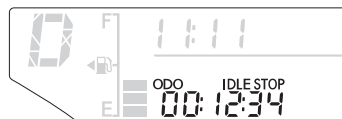
解除するには

- アイドリング ストップ時間を表示させ、オド／トリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	アイドリング ストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

■ アイドリング ストップ積算時間表示をリセットしてからのアイドリング ストップ積算時間を表示します。

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



▼ アイドリング ストップ積算時間表示をリセットするには

アイドリング ストップ積算時間を表示させ、オド／トリップ切り替えスイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。



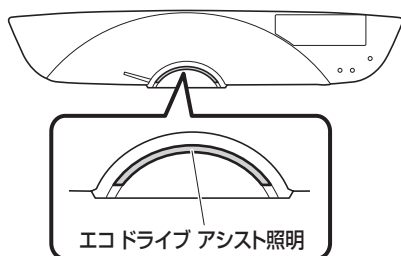
お車を運転するにあたって メーターのはたらき

■ エコ ドライブ* アシスト照明の 表示設定

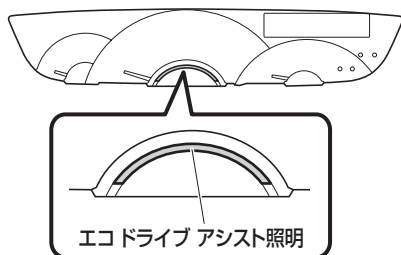
ILL On（またはILL OFF）を表示させて、
オドノトリップ切り替えスイッチを約 1
秒以上押し続けるごとに、“ILL On”、
“ILL OFF” が切り替わります。

（エコ ドライブ アシスト照明
→ 218 ページ）

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



■ 照度調整

照度調整表示中、オドノトリップ切り替
えスイッチを約 1 秒以上押し続けている
間、メーター照明の明るさが下表のよう
に変わります。

明るさ	表示	照度レベル
↑ ↓ 明るい 暗い	— — — — —	レベル1
	— — — —	レベル2
	— — —	レベル3
	— —	レベル4
	—	レベル5

▼ 照度調整

メーター照明は、昼間用、および夜間用
としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

車幅灯を消灯して調整します。

夜間用

車幅灯を点灯して調整します。

アドバイス

- 夜間用の設定を“レベル 1”にする
と、車幅灯を点灯させたときに、メー
ター照明が減光しません。

* エコ ドライブ：二酸化炭素排出量の少ない
環境にやさしい運転



時計

電源が“ON”のとき、時計を表示します。

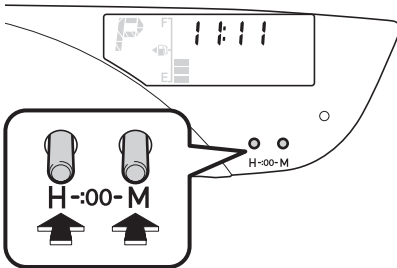
- 時計調整スイッチを押して、時計を調整します。

📞 アドバイス

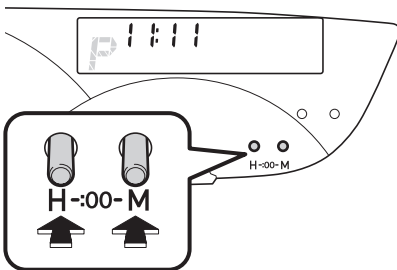
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。
- 時刻の表示は、12 時間表示です。

▼ 時計調整スイッチ

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



■ “時” を調整する

時計調整 “H” スイッチを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

■ “分” を調整する

時計調整 “M” スイッチを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

■ 時報 “:00” に合わせる

時計調整 “H” スイッチと “M” スイッチを同時に約 1 秒以上押します。

(例) 1:00～1:29→1:00

(例) 1:30～1:59→2:00

- 時報合わせが完了すると、“時” “分” が 2 回点滅します。

1:00

(点滅)



お車を運転するにあたって メーターのはたらき

メーター照明

- 電源を“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。



アドバイス

- ランプの点灯・消灯の確認は、ライティング スイッチ表示灯で行ってください。
(ライティング スイッチ表示灯 → 220 ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

(照度調整 → 216 ページ)

■ エコ ドライブ アシスト照明

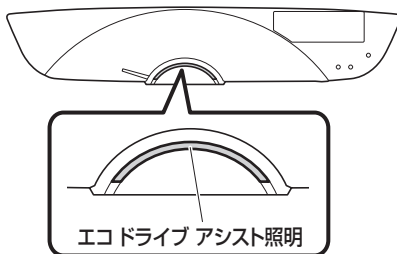
エコ ドライブ アシスト照明の設定が“ILL On”のときに、走行状態に応じてエコ ドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、メーター照明の一部が変化します。

- “ILL OFF”のときは、
タコ メーター装着車以外はアンバー、
タコ メーター装着車はブルー
のまま照明色は変化しません。

(エコ ドライブ アシスト照明の
表示設定 → 216 ページ)

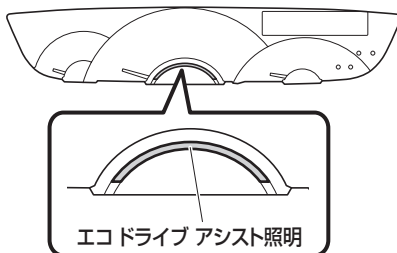
- 電源を“ON”にすると数秒間、グリーン色に点灯します。
- セレクト レバーがRレンジのとき、走行速度にあったアクセル ペダルの操作でエコ運転をしていると、エコ ドライブ アシスト照明色が変わります。

タコ メーター装着車以外



エコ運転 度合	照明色			エコ運転 度合
	アンバー	イエロー	グリーン	
低	→			高

タコ メーター装着車



エコ運転 度合	照明色			エコ運転 度合
	ブルー	スカイ ブルー	グリーン	
低	→			高



アドバイス

- アイドリング ストップ中はグリーン色になります。

(アイドリング ストップ
→ 272 ページ)



表示灯、警告灯のはたらき

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

△注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

方向指示器表示灯



■ 方向指示器表示灯

電源が“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

■ 非常点滅表示灯

- 電源に関係なく、非常点滅表示灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h以上で走行中に急ブレーキをかけて、自動で非常点滅表示灯が高速点滅すると、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

（エマージェンシー ストップ シグナル
→ 90 ページ）



アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅表示灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ハイビーム/パッシング表示灯



電源に関係なく、ヘッド ランプを上向き
の状態にすると点灯します。

ライティング スイッチ表示灯



電源に関係なく、車幅灯が点灯している
ときに点灯します。

フォグ ランプ表示灯

オプション/グレード別装備



電源に関係なく、フォグ ランプを点灯さ
せると点灯します。

(フォグ ランプ スイッチ
→ 245 ページ)

水温表示灯（青色）



電源が“ON”で、エンジン冷却水温が低
いとき、青色に点灯します。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な
空ぶかし、急加速、高速走行はしない
でください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したまま
の場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けて
ください。



アドバイス

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点
滅・点灯します。

(水温警告灯（赤色）→ 227 ページ)



セキュリティ表示灯

電波式リモコン ドア ロック装着車

(盗難警報装置→ 158 ページ)

キーレス アクセス装着車



セキュリティ表示灯



- 電源を“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- 電源を“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

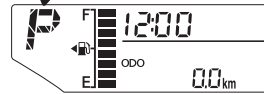
(イモビライザー機能→ 255 ページ)

アドバイス

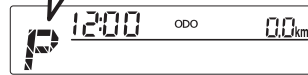
- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、キーレスアクセス操作・電波式リモコン ドア ロック操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
また、盗難警報装置が解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。

シフト セレクト インジケーター

タコ メーター装着車以外



タコ メーター装着車



- 電源が“ON”のとき、使用中のセレクト レバーの位置が点灯します。
- Rレンジにすると、“[]”が点滅します。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

アイドリング ストップ 表示灯



(アイドリング ストップ
表示灯→ 279 ページ)

アイドリング ストップ OFF表示灯



(アイドリング ストップ
OFF表示灯→ 280 ページ)

VDC*作動表示灯



(点滅)

(VDC作動表示灯→ 96 ページ)

(VDC→ 91 ページ)

(TRC→ 93 ページ)

VDC OFF表示灯



(VDC OFF表示灯→ 96 ページ)

(VDC→ 91 ページ)

TRC OFF表示灯



(TRC OFF表示灯→ 96 ページ)

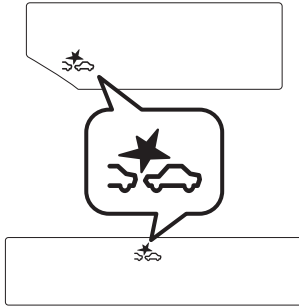
(TRC→ 93 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークル
ダイナミクス コントロール）の略です。



スマートアシスト作動灯



(スマートアシスト作動灯
→ 128 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)

スマートアシストOFF表示灯



(スマートアシストOFF表示灯
→ 129 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)

車線逸脱警報作動灯



(車線逸脱警報作動灯→ 129 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)

車線逸脱警報OFF表示灯

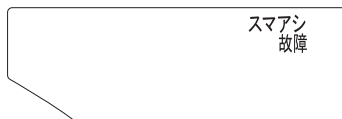


(車線逸脱警報OFF表示灯
→ 130 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)



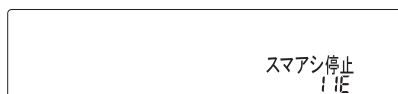
お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

スマートアシスト“故障”表示



(スマートアシスト“故障”表示
→ 130 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)

スマートアシスト“停止”表示



(スマートアシスト“停止”表示
→ 131 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)

ハイ ビーム アシスト作動灯



(ハイ ビーム アシスト作動灯
→ 130 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)

ハイ ビーム アシスト“故障”表示



(ハイ ビーム アシスト“故障”表示
→ 131 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 100 ページ)



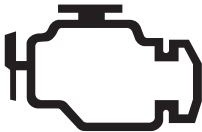
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

⚠注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 電源を“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オイル プレッシャー警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、スバル販売店にご連絡ください。

👉 アドバイス

- オイル プレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

チャージ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- 電源が“ON”で、次の場合に点灯します。

▼ 点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

(ABS (EBD機能付) → 88 ページ)

▼ 駐車ブレーキが解除されている場合
電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

■ 警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。



⚠注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
この場合、ブレーキの効が悪くなっているおそれがあります。
効が悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

水温警告灯（赤色）



- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置
→ 350 ページ）



アドバイス

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。

（水温表示灯（青色）→ 220 ページ）

■ 警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。



アドバイス

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

CVT警告灯

CVT

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、CVTシステムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

シートベルト警告灯 (運転席・助手席)



▼ 運転席

- 電源が“ON”で、運転席の乗員がシートベルトを着用していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

▼ 助手席

福祉車（リフトタイプ）以外

- 電源が“ON”で、助手席に乗車時、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。



アドバイス

- 助手席の乗員検知センサーは、座面にある一定の重量がかかったときに検知します。このため、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。



■ 警告ブザー

福祉車（リフトタイプ）以外

シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。



アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯



電源に関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- 警告灯が点灯、または点滅したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 警告灯が点灯、または点滅した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
消灯しないときや、再び点灯、または点滅するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

助手席側ドアについて

- ドアの下にロックがあり、それぞれで半ドアを検知しているため、上下どちらかが半ドア状態になると、警告灯が点灯・点滅します。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

燃料残量警告灯



電源が“ON”のとき、燃料残量が2WD車は約6.0ℓ、AWD車は約5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が5回点滅した後、点灯します。

(燃料計→210ページ)

△注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。



アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■ 警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが2回鳴ります。

ABS警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

△注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- 走行中に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・点滅をくり返す場合は、スバル販売店で点検を受けてください。



SRSエアバッグ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 74 ページ)
- SRSサイド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
- SRSカーテン シールド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
(SRSサイド エアバッグ、SRSカーテン シールド
エアバッグ→ 80 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構
→ 60 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オート レベライザー警告灯

LEDヘッド ランプ装着車



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ロー ビームのオート レベリング機能に異常があると点灯します。
(ロー ビーム・オート レベリング機能
→ 240 ページ)

⚠注意

走行中に点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。
再度電源を“ON”にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。
消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ステアリング制御警告灯



- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワー ステアリング システムに異常があると赤色に点灯します。
- 電源が“ON”で、電圧不足、電動パワー ステアリング システム過熱によりパワー ステアリング制御が制限されると、黄色に点灯します。

△注意

赤色に点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

黄色に点灯した場合

- パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はスバル販売店で点検を受けてください。

👉 アドバイス

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。これは、パワー ステアリング モーターが作動しているときの音で、異常ではありません。

黄色に点灯する場合

- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため黄色に点灯します。

■ 警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。



VDC* & TRC警告灯



(VDC & TRC警告灯 → 95 ページ)

(VDC → 91 ページ)

(TRC → 93 ページ)

マスター ウォーニング



(マスター ウォーニング

→ 128 ページ)

(スマートアシストⅢ → 100 ページ)

キーレス アクセス警告灯

キーレス アクセス装着車



(キーレス アクセス警告灯

→ 155 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークル
ダイナミクス コントロール）の略です。



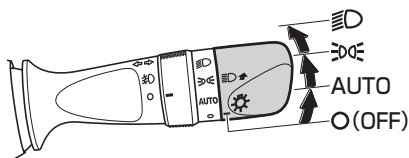
スイッチの使いかた

ライティング スイッチ

ランプの点灯

▼ 操作方法

スイッチを回すと、下表のランプ類が点灯します。



ランプ	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
スイッチ位置		
点灯	点灯	点灯
AUTO*	—	点灯
自動点灯・消灯		
O(OFF)	—	—

※：オプション/グレード別装備

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、ランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずライティングスイッチを“OFF”にしてください。

ランプの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

オート ライト機能

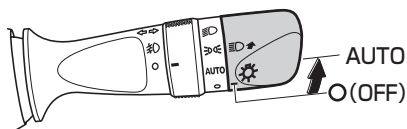
オート ライト装着車

電源が“ON”でライティングスイッチが“AUTO”の位置のとき、周囲の明るさに応じてヘッドランプ、車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

▼ 操作方法

スイッチを“AUTO”の位置にします。

- エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。
- 電源を“ON”にすると、再び点灯します。

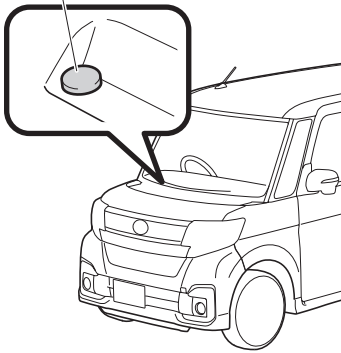




👉 アドバイス

- 自動で点灯・消灯するタイミングを変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- オート ライト センサーの上に物を置いたり、ガラス クリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

オートライトセンサー
(日射センサー兼用)



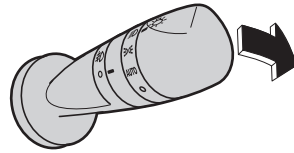
LEDライナー装着車

- 電源が“ON”でライティング スイッチが“AUTO”の位置のときは、周囲の明るさに関係なくLEDライナーが点灯します。

(LEDライナー→ 239 ページ)

ヘッド ランプの切り替え

- ▼ ランプ点灯時ハイ ビームに切り替える
- ライティング スイッチが“ ”または“**AUTO**”の位置のときレバーを押します。(戻すと下向き(ロー ビーム)になります)



⚠️ 注意

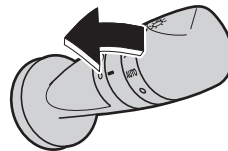
- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼ 一時的に使用する

👉 アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。





お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ハイ ビーム アシスト

フロント ウインドウ ガラス上部に設置されたステレオ カメラにより、対向車、または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイ ビームとロー ビームを切り替えます。

(ステレオ カメラ→ 102 ページ)

⚠警告

安全にお使いいただくために

- ハイ ビーム アシストを過信しないでください。ハイ ビーム アシストは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としています。状況によってはハイ ビームとロー ビームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイ ビームとロー ビームを切り替えてください。

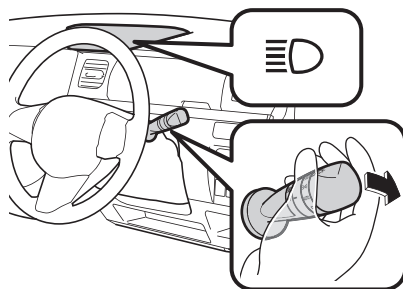
⚠注意

ハイ ビーム アシストを正しく作動させるために

- 荷物を積みすぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

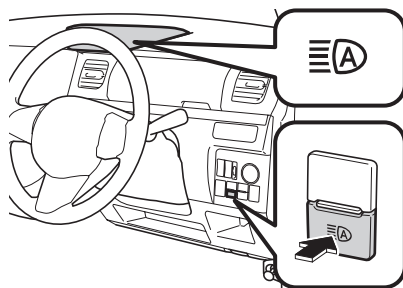
▼使用方法

1. 電源が“ON”で、ライティングスイッチが“ ”または“AUTO”の位置のときレバーを前方へ押します。
 - ハイ ビーム/パッシング表示灯が点灯します。



2. ハイ ビーム アシスト スイッチを押します。
 - ハイ ビーム アシストが作動すると、ハイ ビーム アシスト作動灯が点灯します。

(ハイ ビーム アシスト作動灯
→ 130 ページ)





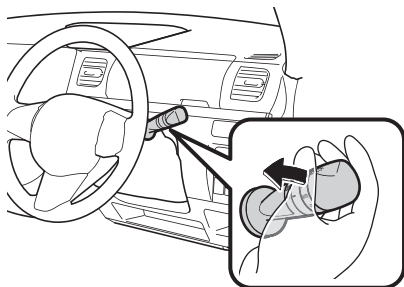
■ 自動切り替え条件について

- 次の条件をすべて満たすと、ハイ ビームに切り替わります。
 - 車速が約 25km/h以上
 - 車両前方が暗い
 - 対向車、または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
 - 前方の街灯が暗い
- 次のいずれかの条件になると、ロービームに切り替わります。
 - 車速が約 20km/h以下
 - 車両前方が明るい
 - 対向車、または先行車がランプを点灯している
 - 前方の街灯が明るい

■ 手動切り替え方法

▼ ロービームへの切り替え

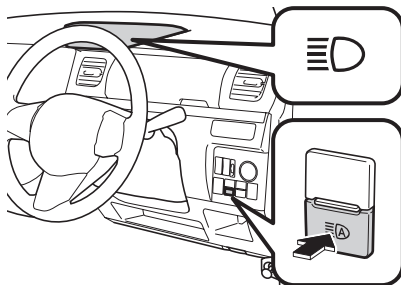
- レバーを元の位置に戻します。
- ハイビームアシスト表示灯が消灯します。



- ハイビームアシストに戻すには、再度レバーを前方に押します。

▼ ハイビームへの切り替え

- ハイビームアシストスイッチを押します。
- ハイビームアシスト作動灯が消灯し、ハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。



- ハイビームアシストに戻すには、再度スイッチを押します。

⚠ 注意

- ハイビームアシスト“故障”が表示されたときは、ハイビームアシストは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。
(ハイビームアシスト“故障”表示 → 131 ページ)

👉 アドバイス

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - 他車が前方を横切ったとき
 - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき





お車を運転するにあたって スイッチの使いかた



アドバイス

- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
 - 対向車または先行車のランプの明るさ
 - 対向車または先行車の動きや向き
 - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - 対向車または先行車が二輪車のとき
 - 道路状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - 乗車人数や荷物の量
- ハイビームアシストは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識するため、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は認識しない場合があります。



アドバイス

- 次の状況では、周囲の明るさが正しく認識されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - フロントガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
 - ステレオカメラの温度が高いとき
 - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
 - 急激な明るさの変化が連続するとき
 - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - パンクやけん引などにより車両が傾いているとき



ランプ自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、ランプ類を点灯したまま、電源を“OFF”または“ACC”にして、運転席のドアを開けると、ランプ類が自動で消灯します。

再びランプを点灯させる場合は、次の操作をします。

- 電源を“ON”にする
または
- ライティング スイッチを“OFF”に戻し、再度“”、または“”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、電源が“OFF”または“ACC”の状態ではランプ類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- 電源を“ON”にする
または
- ライティング スイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ランプ消し忘れ警告ブザー

電源が“OFF”または“ACC”の状態では、ランプを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせます。



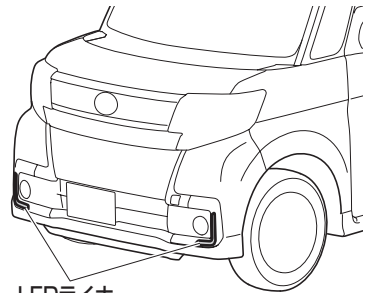
アドバイス

- 運転席ドアを開けたときに、ランプ類が自動消灯機能により消灯した場合、警告ブザーは鳴りません。

LEDライナー

オプション/グレード別装備

- ライティング スイッチが“AUTO”の位置で周囲が明るいときは、電源を“ON”にすると点灯し、“OFF”または“ACC”にすると消灯します。
- 上記以外のときは車幅灯に連動して、点灯・消灯します。



LEDライナー



アドバイス

- LEDライナーを点灯しないように設定を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ロー ビーム・オート レベリング 機能

LEDヘッド ランプ装着車

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する機能です。

アドバイス

- エンジンを始動して、初めてヘッド ランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッド ランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッド ランプの光軸に異常を感じたときは、スバル販売店で点検を受けてください。

光軸調整ダイヤル

ハロゲン ヘッド ランプ装着車

ヘッド ランプが点灯しているときに使用できます。

乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。

通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

アドバイス

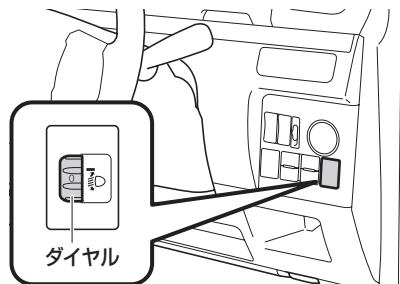
LEDヘッド ランプ装着車

- ヘッド ランプの光軸は自動的に調整されるため、光軸調整ダイヤルは装着されていません。

▼ 操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプの光軸が上下に変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。





アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

福祉車（スロープタイプ）以外

乗車や荷室の 積載状況		ダイヤル位置	
		2WD	AWD
運転席のみ乗車時		0	0
運転席と助手席に乗車時		0	0
4名乗車時		1	1
4名乗車で荷室満載時		2	1.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	Lグレード	3	2.5
	上記を除く	2.5	

福祉車（スロープタイプ）

乗車や荷室の 積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
運転席と車いす乗車時 (リヤシートは格納状態)	0.5
4名乗車時	1
4名乗車で荷室満載時	1.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	2.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

方向指示レバー

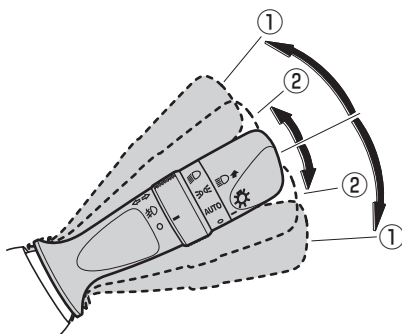
▼ 操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

- レバーは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。
消灯しないときは、レバーを②の位置まで軽く操作してください。

車線変更などのときは、レバーを②の位置まで軽く上下に操作します。

- レバーを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- ②の位置まで操作したあと、すぐに手を離れたときは、3回点滅します。





お車を運転するにあたって スイッチの使いかた



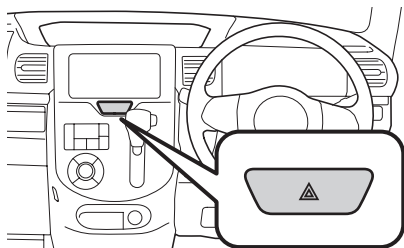
アドバイス

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。
- 次のように機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- ②の位置まで操作したときの 3 回点滅を停止する
- 3 回点滅するときのレバー操作の時間を変更する
- 右左折後に消灯するハンドル角度を変更する

非常点滅表示灯スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



⚠ 注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。



ワイパー・ウォッシャー スイッチ

⚠注意

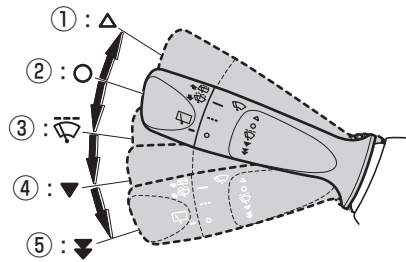
- 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

電源が“ON” のとき使用できます。

■ ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



① : △	一時作動
② : ○	停止
③ : 𐀀	間欠作動
④ : ▼	低速作動
⑤ : ↓	高速作動

▼ 一時作動の使いかた

レバーを②から①の位置に押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと②の位置に戻ります。

▼ 車速感应式ワイパー

レバーを③の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

👉 アドバイス

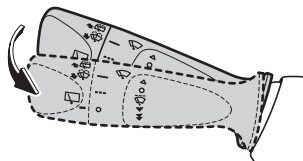
- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が速くなります。
- 車速感应作動の機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

■ ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



アドバイス

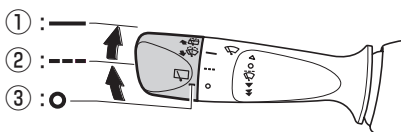
- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

リヤ

電源が“ON” のとき使用できます。

■ ワイパーの使いかた

スイッチを回すと、リヤ ワイパーが作動します。



—	低速作動
---	4秒間低速作動した後、間欠作動
○	停止

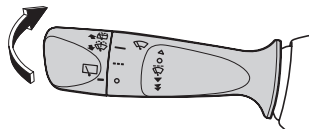


アドバイス

- 次のように、②の間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- 間欠作動の間隔を変更する
- 約 4 秒間の低速作動を停止する

■ ウォッシャー液の噴射

レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。



アドバイス

- リヤ ワイパーが停止しているときにリヤ ウォッシャーを作動させると、リヤ ワイパーが作動するように機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■ リバース連動リヤ ワイパー

フロント ワイパーが作動中に、セレクトレバーをⒺレンジにすると、リヤ ワイパーが数回作動します。



アドバイス

- フロント ワイパーが停止後、約 10 秒間はセレクト レバーをⒺレンジに入れると、リヤ ワイパーが数回作動します。
- 機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



フォグ ランプ スイッチ

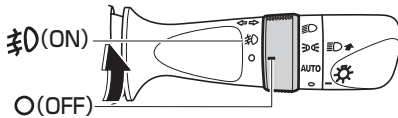
オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。

▼ 操作方法

車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にすると、メーター内のフォグランプ表示灯が点灯し、フォグランプが点灯します。

消灯するときは、スイッチを“OFF”にしてください。フォグランプ表示灯も消灯します。



リヤ ウインドウ デフォグガー スイッチ

リヤ ウインドウ ガラスの曇りを取るときに使用します。

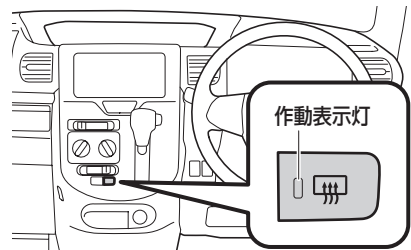
電源が“ON”のとき使用できます。

▼ 操作方法

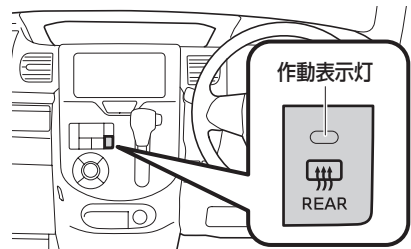
スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウインドウ ガラスと、電動格納式ヒートッド ドア ミラー装着車はドア ミラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車



オート エアコン装着車





お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。
- リヤ ウインドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

オート エアコン装着車

- スイッチを押すと、約 15 分～60 分後に自動的に作動が停止します。
(外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります)

運転席シート ヒーター スイッチ

オプション/グレード別装備

運転席のシートの背もたれと座面を暖めることができます。

電源が“ON”のときに使用することができます。

▼ 操作方法

スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、シートの背もたれと座面を暖めます。

もう一度スイッチを押すと、作動表示灯が消灯し、作動が停止します。



⚠注意

- 次に相当される方がご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
- お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- ねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用した方



⚠注意

- 毛布や座布団など保温性の良い物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
- シート ヒーターを必要以上に使用しないでください。低温やけどを負ったり、シート ヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。
- 凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利な物を突き刺したりしないでください。故障の原因となります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- 液体をこぼしたときは、すみやかに乾いた布でふき取ってください。
- 使用中に異常が発生したときは、ただちに作動を停止して、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

ホーン スイッチ

ハンドルのHマーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。



アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。



運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くとときなどに使用します。

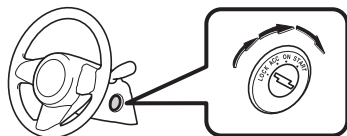
⚠注意

- エンジンを止めた状態で、電源を“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

キー差し込みタイプ

キーレス アクセス装着車以外

挿入口にキーを差し込んで回し、エンジンの始動、停止を行います。



位置	はたらき
LOCK	・電源“OFF”エンジン停止 キーを抜き差しする位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	・電源“ACC”エンジン停止 オーディオが聞ける位置です。
ON	・電源“ON”エンジン停止 すべての電装品が使用できます。 ・電源“ON”エンジン回転 通常走行中の位置です。
START	・電源“ON”エンジン始動 エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたまましていると、エンジンを損傷するおそれがあります。

👉アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。



プッシュ エンジン スイッチ

キーレス アクセス装着車

⚠注意

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドル ロックが作動する可能性があります危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにスバル販売店にご連絡ください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、スイッチの表面が熱くなる場合がありますので、やけどをしないように気をつけてください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

⚠注意

- 車両は常に電源の状態（“ACC”または“ON”）を記憶しているため、車両のバッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前の電源の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ず電源を“OFF”にしてから行ってください。
車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の電源の状態がわからないときは、一度電源を“OFF”にしてください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

電源自動OFF 機能

- セレクト レバーがPレンジのとき、電源が“ACC”、または“ON”のまま放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的に電源が“OFF”になります。
- “ACC”のときは約 1 時間放置すると“OFF”になります。
- “ON”のときは約 20 分放置すると“OFF”になります。

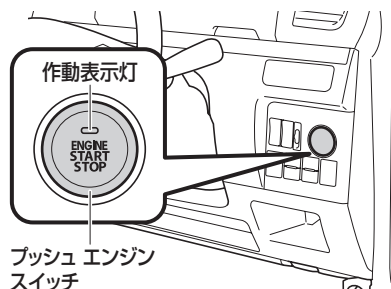




お車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

アンテナから発する電波をアクセス キーが感知することによって、電源のロックが解除され、エンジンの始動、停止を行うことができます。

- アクセス キーを所持して車室内アンテナの作動範囲に入ると、プッシュ エンジン スイッチを押して、電源を“OFF”から“ACC”にすることができます。



電源の状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	はたらき
OFF	消灯	停止	ハンドルがロックされ、キーレス アクセスの通信を開始します。
ACC	緑色点滅	停止	オーディオが聞ける状態です。
ON	緑色点滅	停止	すべての電装品が使用できます。
ON	消灯	回転中またはアイドリング ストップ中	通常走行中の状態です。

⚠注意

- プッシュ エンジン スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん電源を“OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。

■ ハンドル ロック

電源を“OFF”にしたあとにリヤ ゲートを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。

プッシュ エンジン スイッチを操作すると、ハンドル ロックは自動で解除されます。



アドバイス

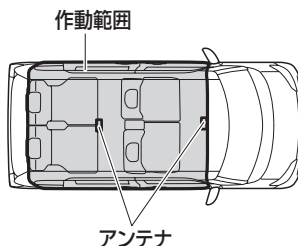
ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュ エンジン スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。



■ 作動範囲

車室内です。



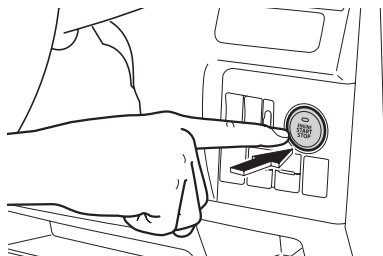
👉 アドバイス

- インストルメント パネルの上や中（グローブ ボックス内など）・荷室・ドア ポケット・アーム レストボックス内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドア ハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。
- エンジン始動後にアクセス キーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、アクセス キーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓からアクセス キーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

(セキュリティ表示灯
→ 221 ページ)

■ 電源の切り替え

1. アクセス キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルを踏まずに、スイッチを押します。
スイッチを押すごとに電源が「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- 車両が停止していないときは、電源を“ON”から“OFF”にしないでください。
- 電源を“ACC”にするとセキュリティ表示灯が消灯します。

(セキュリティ表示灯
→ 221 ページ)



お車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

⚠ 注意

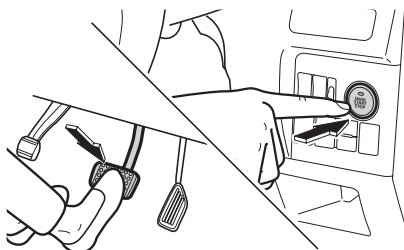
- スイッチを押したとき、キーレス アクセス警告灯が消灯せず、高速で点滅したときは、アクセス キーが作動範囲外にある可能性があります。アクセス キーを確認してください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合 ハンドル ロックが作動しません。

📞 アドバイス

- 電源が“ACC”または“ON”のときは、作動表示灯が緑色に点滅します。
- スイッチを早押しした場合、電源が切り替わらないことがあります。目的の電源の状態になるまで、1 回ずつ確実に押してください。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

■ エンジンの始動

1. アクセス キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
3. ブレーキ ペダルを踏みながら、スイッチを押します。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- エンジンを始動するとセキュリティ表示灯が消灯します。

（セキュリティ表示灯
→ 221 ページ）

- エンジンを始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ブレーキ ペダルを踏みながらスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。



アドバイス

- エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せずに、スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅しているときは、ハンドル ロックが解除されていません。
ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。

■ エンジンの停止

車両を完全に停止させ、セレクト レバーをⓅレンジにし、スイッチを押します。

- 電源が“OFF”になり、エンジンが停止します。

警告

- 次の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にプッシュ エンジン スイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- プッシュ エンジン スイッチを 3 秒以上押し続ける
- プッシュ エンジン スイッチを 3 回以上連打する

(車両を緊急停止するには
→ 371 ページ)

注意

- セレクト レバーがⓅレンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。セレクト レバーがⓅレンジ以外でエンジンを停止した場合、電源が“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。





アドバイス

- セレクト レバーが[P]レンジ以外でスイッチを押すと、電源は“ACC”になります。セレクト レバーを[R]レンジにして、電源を“OFF”にしてください。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

■ 電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できないとき

プッシュ エンジン スイッチにアクセスキーを接触させてスイッチを押すことで、電源を“ON”にすることができます。

（アクセス キーが使用できないとき
→ 368 ページ）

キー インター ロック

キーレス アクセス装着車以外

誤操作防止のため、セレクト レバーが[R]レンジ以外有的时候に、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼ 操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、セレクト レバーを[R]レンジにしてから行います。

⚠注意

- セレクト レバーが[P]レンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。



イモビライザー機能

キーレス アクセス装着車

車両の盗難防止のため、アクセス キーには信号アンテナが内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- 電源を“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。

(セキュリティ表示灯
→ 221 ページ)

- 電源を“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



アドバイス

- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロック操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
また、盗難警報装置が解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- アクセス キーに登録された信号はキーごとに異なります。

■ メンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



駐車ブレーキ

⚠注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。

駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキ ペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキング ペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

▼ かけるとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルをいっぱいまで踏み込みます。
- 電源が“ON” のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

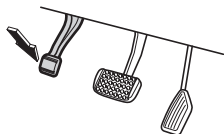
(ブレーキ警告灯→ 226 ページ)

👉 アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。
(ブレーキ警告灯→ 226 ページ)

▼ 解除するとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキング ペダルをゆっくり戻します。
- 電源が“ON” のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。



坂道に駐車するとき

▼ 操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、セレクト レバーをRレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。



ターボ車

オプション/グレード別装備

⚠注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。ただし、アイドリングストップが作動したときは、アイドリング運転は不要です。

運転状態	アイドリング時間
一般走行後	—
高速走行後、登坂走行後	約1分

👉アドバイス

- アイドリング運転をするときは駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーをPレンジに入れてください。

AWD車

オプション/グレード別装備

⚠注意

- AWD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。エンストだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- AWD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。



フル タイムAWDシステム

アドバイス

- シフオンは、フル タイムAWDシステムを採用しています。フル タイムAWDシステムは、2WDとAWDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。またAWD表示灯也没有ありません。

AWD車のタイヤ交換

AWD車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4 輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッド パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

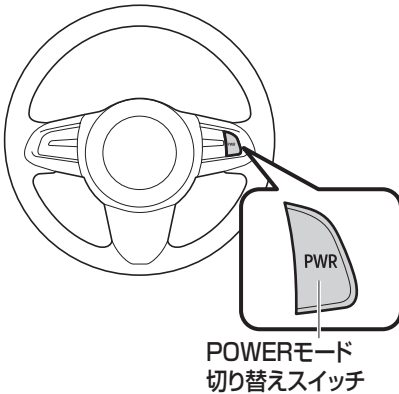
アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に 1 回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤのローテーションは 5,000km ごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤ チェーンは必ず前輪に装着してください。



POWERモード切り替え スイッチ

POWERモード切り替えスイッチを“ON”にすると、エンジンとCVTの制御が切り替わりパワーモードになります。セレクトレバーがD、Sレンジのときに軽快な走行をすることができます。



- スイッチを押して“ON”にすると、メーター内のPOWERモード表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと“OFF”になり、メーター内のPOWERモード表示灯が消灯します。

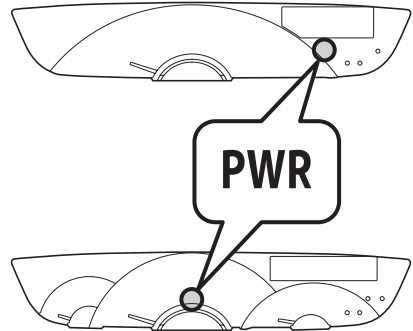
⚠注意

- エンジン警告灯、CVT警告灯が点灯しているときは、パワーモード制御に切り替わりません。

👉アドバイス

- R、Bレンジでの走行時は、パワーモード制御は行われません。
- POWERモード切り替えスイッチを“ON”にしても、電源を“ON”にするたびに、POWERモード切り替えスイッチは“OFF”になります。

POWERモード表示灯



👉アドバイス

- POWERモード表示灯が点灯しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。



エンジンのかけかた

CVT車

エンジン始動の準備

▼ 操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーがPレンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。



エンジンをかけるとき

▼ 操作方法

プッシュ スタート装着車を除く

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置まで回します。

プッシュ スタート装着車

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、スイッチを押します。

(プッシュ エンジン スイッチ
→ 249 ページ)

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけるとお車が急に動き出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。



アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤ ウインドウ デフォッガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。(ただしブレーキ警告灯は除きます)
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドル回転に下がります。



アドバイス

- プッシュ スタート装着車でアクセスキーを使用してエンジン始動する場合、通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、ブレーキ ペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。

■ エンジン スタート サポート

エンジン スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する（プッシュ スタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。

アドバイス

- エンジン スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置（プッシュ スタート装着車は電源を“ACC”または“OFF”）にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジン止めるとき

▼ 操作方法

プッシュ スタート装着車を除く

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

プッシュ スタート装着車

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからスイッチを押します。

（プッシュ エンジン スイッチ
→ 249 ページ）

⚠ 注意

- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約 1 分程度行ってください。（ただし、アイドリング ストップが作動したときは、アイドリング運転は不要です）



CVT車の運転

CVT車

CVT車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になります。いくつかの特性があります。CVT車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

CVT車の特性

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクト レバーがP、Nレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏んでください。



アドバイス

- 停車中は、平坦路であってもお車が動かないように、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

セレクト レバー

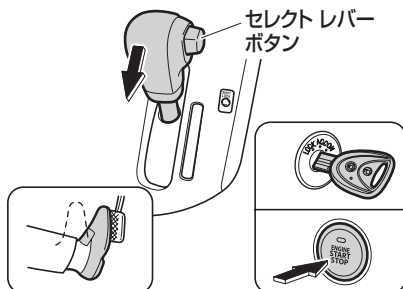
セレクト レバーの操作は確実に行ってください。

■ シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼ シフト ロック解除方法

電源を“ON”にし、ブレーキ ペダルを踏むと、セレクト レバーの操作ができます。





アドバイス

- セレクト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでないと、**P**レンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にセレクト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、セレクト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。
- 電源が“ON”以外では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーは**P**レンジからほかのレンジへは動きません。

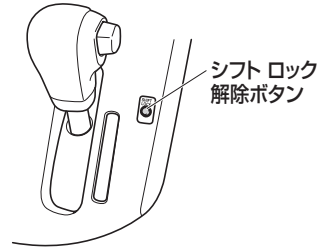
■ シフト ロック解除ボタン

シフト ロックを解除するためのボタンです。バッテリーあがりなどで、セレクト レバーが**P**レンジからほかのレンジへ動かないときに使用します。

▼ シフト ロック解除方法

ブレーキ ペダルを踏んだ状態で、シフト ロック解除ボタンを押しながら、セレクト レバーを操作します。

- 必ずブレーキ ペダルを踏みながら操作してください。





お車を運転するにあたって CVT車の運転

セレクト レバーの操作

セレクト レバー部には、セレクト レバーを動かすときに使用するセレクト レバー ボタンが装着されています。



▼ 操作する前に

⚠ 警告

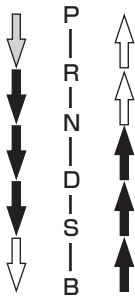
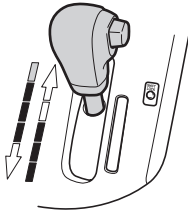
- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	お車を後退させるときの位置 (お車が完全に止まってから入れてください)
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置[前進] (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
Sレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置[前進] (エンジン ブレーキが必要なときの位置)
Bレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置[前進] (強いエンジン ブレーキが必要なときの位置)



セレクト レバーの動かしかた



↓ ブレーキ ペダルを踏みながら
セレクト レバー ボタンを押して
動かします。

↑ ↓ セレクト レバー ボタンを押して
動かします。

↑ ↓ そのまま動かします。

⚠ 警告

- ➡ の操作は誤作動を防ぐため、セレクト レバー ボタンを押さずに動かしてください。常にセレクト レバー ボタンを押して操作していると、**P・R・B**レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中に**N**レンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が完全に止まらないうちに**P**レンジに入れないでください。また、前進走行中に**R**レンジ、および後退走行中に**D・S・B**レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



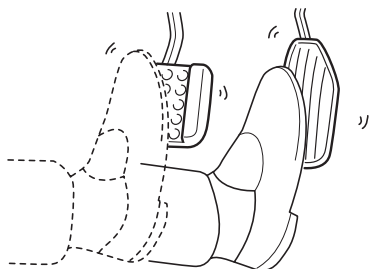


運転のしかた

エンジン始動前

▼ 操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



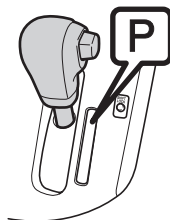
⚠注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼ 操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクト レバーがPレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。（プッシュ スタート装着車は、ブレーキ ペダルを踏んだままスイッチを押します。）





発進時

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然お車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままセレクト レバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼ 操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままセレクト レバーを前進であればDレンジに、状況に応じてS、Rレンジに、また後退のときはRレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠注意

- セレクト レバーがどの位置にあるかをセレクト レバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクト レバーがP、Nレンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）

⚠注意

- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドル アップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全にお車を止めてから行ってください。
完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにPレンジからRレンジ、NレンジからDレンジ、NレンジからRレンジにセレクト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかりと踏んでから行ってください。
- 坂道発進時など、アクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。





お車を運転するにあたって CVT車の運転



アドバイス

- セレクト レバーを[R]レンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーが[R]レンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

▼ 坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、セレクト レバーを[R]レンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、お車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。



アドバイス

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがあります。故障ではありません。

走行時

▼ 操作手順

1. 通常は[R]レンジで走行します。
2. 強い加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じて[S]レンジまたは[R]レンジに切り替えます。

⚠ 警告

- 坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[S]レンジまたは[R]レンジに入れたまま惰性で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。



⚠注意

- 走行中はNレンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中にPレンジ、また前進走行中にRレンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂をDレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
Sレンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、Bレンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行中にアクセル ペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。走行中、アクセル ペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

👉アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Dレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
CVT車は、軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。





お車を運転するにあたって CVT車の運転

一時停止時

▼ 操作手順

1. セレクト レバーは走行位置のままでブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをNレンジに入れます。
3. 発進するときは、セレクト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠注意

- 上り坂での停止はクリープ現象で前へ進もうとする力よりもお車が後退しようとする力の方が大きくなり、お車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退時

▼ 操作方法

お車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかりと踏み続け、セレクトレバーをRレンジに入れます。

⚠注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはRレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐNレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、完全にお車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。



アドバイス

- セレクトレバーをRレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーがRレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。



駐車時

▼ 操作手順

1. お車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車
ブレーキをかけ、セレクト レバーを
Pレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位
置まで回してキーを抜きます。（プ
ッシュ スタート装着車は、スイッチ
を押して電源を“OFF”にします）

⚠注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままでお車から離れ
ないでください。
- お車から離れるときはエンジン スイ
ッチを“LOCK”の位置にしてキーを
抜いてください。（プッシュ スタ
ート装着車は、スイッチを押して電源を
“OFF”にします）
“ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- Pレンジでは車輪が固定されます。駐
車するときは必ずPレンジにあること
を確認してください。
- お車が完全に止まらないうちにPレン
ジに入れないでください。トランスミ
ッションに負担がかかり故障の原因と
なります。

プッシュ スタート装着車を除く

- キー インター ロック装置により、セ
レクト レバーがPレンジ以外のとき
は、エンジン スイッチを“LOCK”の
位置まで回すことができません。
(キー インター ロック→ 254 ページ)



アイドリング ストップ システムの使いかた

アイドリング ストップ

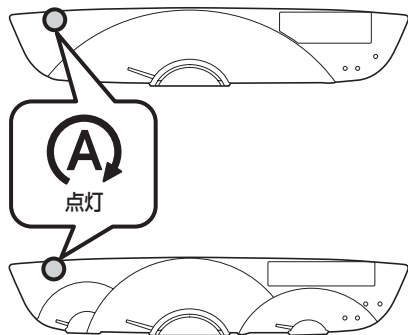
アイドリング ストップは、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 9km/h以下）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリング ストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリング ストップ、エンジンの再始動のしかた

1. 走行中にアイドリング ストップが作動する条件を満たすと、アイドリング ストップ表示灯が点灯します。

<スタンバイ状態>

（スタンバイ条件→ 275 ページ）



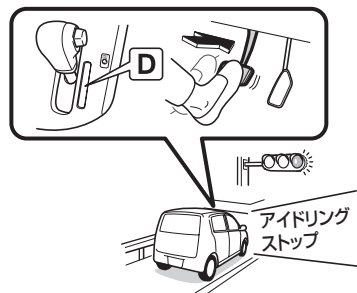
2. ② レンジのままブレーキ ペダルを踏み減速すると、停車前（約 9km/h以下）もしくは停車後に、アイドリング ストップします。

アイドリング ストップ表示灯はアイドリング ストップ中も点灯し続けます。

<アイドリング ストップ状態>

（アイドリング ストップ条件

→ 276 ページ）



お車を運転するにあたって アイドリング ストップ システムの使いかた

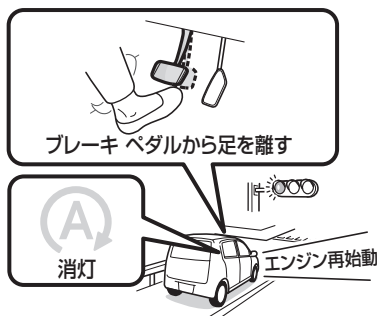


3. ブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

アイドリング ストップ表示灯は消灯します。

<エンジン再始動>

(エンジン再始動条件→ 276 ページ)



4. しばらく走行して、再びアイドリング ストップが作動する条件を満たすと、アイドリング ストップ表示灯が点灯します。

⚠警告

- アイドリング ストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席シート ベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでも、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
- 警告ブザーは約 5 秒間鳴ります。ただし運転席シート ベルトと運転席ドアを元に戻すと警告ブザーが止まります。

(警告ブザー→ 278 ページ)





⚠ 注意

- ブレーキ ペダルとアクセル ペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ ペダル操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。
- アイドリング ストップ中は、ブレーキ ペダルを踏んだまま、アクセル ペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジン スイッチを操作してエンジンを停止させてください。

アイドリング ストップを正常に作動させるために

- 次の場合、アイドリング ストップが正常に作動しないおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
- 運転席シート ベルトを着用していても、シート ベルト警告灯が点滅するとき
- 運転席シート ベルトを外していても、シート ベルト警告灯が点滅しないとき
- 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
- 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

👉 アドバイス

アイドリング ストップ中の操作について

- アイドリング ストップ中に、セレクト レバーを[D]から[N]レンジ（または[S]・[B]レンジ）に操作してもアイドリング ストップは継続します。ただし、セレクト レバーを[N]レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリング ストップ中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- ハンドル操作をする
- アイドリング ストップOFFスイッチを押す

（アイドリング ストップ
OFFスイッチ→ 281 ページ）

アイドリング ストップ中のエアコンの作動について

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、次の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- アイドリング ストップOFFスイッチを押す



システムの作動条件について

■ スタンバイ条件

次の条件をすべて満たすと、アイドリング ストップ表示灯が点灯し、アイドリング ストップが作動可能な状態になります。

- アイドリング ストップOFFスイッチを押して、アイドリング ストップの作動を停止していないとき

（アイドリング ストップ作動停止中は、アイドリング ストップOFF表示灯が点灯します）

- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッション オイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h以上でしばらく走行したあと

（走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリング ストップしません）

- セレクト レバーがRレンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シート ベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき

（走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります）

- フロント デフロスター スイッチが“OFF” のとき（オート エアコン装着車）
- 車内温度が快適なとき（オート エアコン装着車の冷房時）

- システム（アイドリング ストップ、エンジン電子制御、CVT、ABS、VDC、エアコン、電動パワー ステアリング）が正常なとき



アドバイス

- 次の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
 - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
 - バッテリー交換などで、バッテリーの端子をはずしたあと
 - 冷房初期（オート エアコン装着車）



■ アイドリング ストップ条件

スタンバイ条件と次の条件をすべて満たすと、アイドリング ストップ表示灯が点灯したまま、停車前もしくは停車後にアイドリング ストップします。

アドバイス

- 停車前と停車後のアイドリング ストップ条件が異なるため、停車前にアイドリング ストップしなくても、停車後にアイドリング ストップすることがあります。

停車前アイドリング ストップ条件

- 車速が約 9km/h以下になったとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ライティング スイッチが“OFF” のとき
- フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチが“OFF” のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VDCが作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

アドバイス

- 次の場合、停車前アイドリング ストップしない場合があります。
- ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
- ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配のある坂道を走行しているとき
- ゆるやかに減速しているとき

停車後アイドリング ストップ条件

- 車両が停車しているとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VDCが作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

アドバイス

- 次の場合、停車後アイドリング ストップしない場合があります。
- ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
- ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
- 急勾配の坂道で停車したとき

■ エンジン再始動条件

アイドリング ストップ中に、次のいずれかの操作を行うと、エンジンが再始動します。

- ブレーキ ペダルから足を離す
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- アクセル ペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- セレクト レバーを[R]・[P]レンジに操作する
- セレクト レバーを[N]レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- アイドリング ストップOFFスイッチを押して、システム作動を停止する
- フロント デフロスター スイッチを“ON”にする（オート エアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シート ベルトを外す

お車を運転するにあたって アイドリング ストップ システムの使いかた



アドバイス

エンジンの再始動について

- 次の場合でも、アイドリング ストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏み続けてください。
- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが作動可能な条件を満たさなくなった場合（アイドリング ストップ表示灯は点滅後消灯）
 - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
 - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
 - ・停車前アイドリング ストップ中に下り坂などで加速したとき
 - ・バッテリーの放電量が多いとき（パワー スライド ドアを自動開閉したとき等）
 - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS、VDC&TRC、電動パワー ステアリング）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
 - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オート エアコン装着車）
 - ・冷房時にエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オート エアコン装着車）
 - ・アイドリング ストップしてから約3分経過したとき

* エンジンがかかっているとき、セレクト レバーがP、Nレンジ以外の位置で動力がつかなくなった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

アドバイス

- アイドリング ストップ中、アイドリング ストップ システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（アイドリング ストップ OFF表示灯は点滅）

アイドリング ストップ時間が短くなる場合

- 次の場合、アイドリング ストップ時間が短くなる場合があります。
- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリング ストップしたとき（オート エアコン装着車）
- 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

- 次の場合、警告ブザーが鳴ってアイドリング ストップ表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキ ペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
- アイドリング ストップ中にボンネットを開けたとき
(警告ブザー→ 278 ページ)

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリング ストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に次の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
- オーディオ
- カー ナビゲーション（別売）
- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。



警告ブザー

アイドリング ストップ中に、運転席シート ベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザー（断続音）が約 5 秒間鳴り、アイドリング ストップ表示灯が高速で点滅します。

■ 運転席シート ベルトを外したとき
エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

運転席シート ベルトを確実に着用してください。

（警告ブザーが止まります）

■ 運転席ドアを開けたとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。

（警告ブザーが止まります）

■ ボンネットを開けたとき

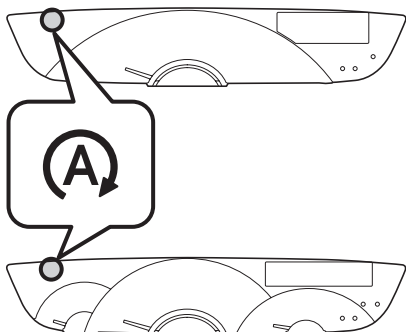
安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・チャージ警告灯・オイル プレッシャー警告灯も同時に点灯します）

▼ 対処方法

- ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。
- セレクト レバーをPレンジに操作してから、エンジン スイッチを操作して、エンジンを始動してください。



アイドリング ストップ 表示灯



アイドリング ストップに関する操作状況、車両の状態をお知らせします。

■ 点灯

- 電源を“ON”にしたとき
(数秒後消灯)
- アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしたとき
＜スタンバイ条件成立＞
- アイドリング ストップ中

■ 消灯

- アイドリング ストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしていないとき
＜スタンバイ条件不成立＞

■ 低速点滅後、消灯

アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが作動可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

■ 高速点滅

アイドリング ストップ中に次の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが約5秒間鳴ります。

- 運転席シート ベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ポンネットを開けたとき
(警告ブザー→ 278 ページ)

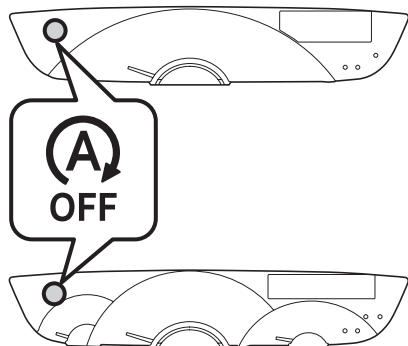


アドバイス

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。



アイドリング ストップ OFF表示灯



- アイドリング ストップOFFスイッチを押して、アイドリング ストップの作動を停止すると点灯します。

(アイドリング ストップ

OFFスイッチ→ 281 ページ)

- 次の状態になると、電源が“ON”のときに点滅します。
 - ・アイドリング ストップ システムに異常があるとき
 - ・エンジン部品（スターター）が交換時期のとき
- バッテリーが交換時期になると、電源が“ON”のときに点滅し、数秒後に消灯します。

⚠注意

点滅した場合

- スバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

アイドリング ストップ時間表示

アイドリング ストップ時間を、メーターのディスプレイに表示できます。

(オドノトリップ切り替えスイッチ
→ 210 ページ)



アイドリング ストップ OFFスイッチ

アイドリング ストップの作動を停止したいときにスイッチを押します。

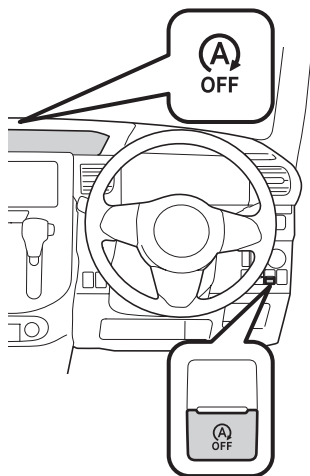
▼ 操作方法

スイッチを押すと、アイドリング ストップは作動停止状態になり、メーター内のアイドリング ストップOFF表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、アイドリング ストップ作動停止状態が解除され、アイドリング ストップOFF表示灯が消灯します。

(アイドリング ストップ
表示灯→ 279 ページ)

(アイドリング ストップ
OFF表示灯→ 280 ページ)



アドバイス

- アイドリング ストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリング ストップは作動停止状態になります。(アイドリング ストップOFF表示灯は点灯します)
- アイドリング ストップはエンジン スイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。



ヒル スタート アシスト

アイドリング ストップからブレーキ ペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

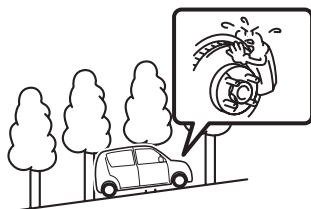
坂道発進時の後退を軽減します。

▼ 作動の流れ

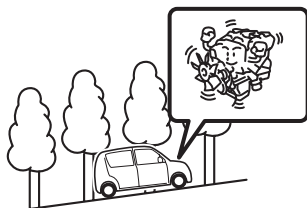
1. ブレーキ ペダルを踏む力をゆるめる



2. ブレーキ力保持



3. エンジン再始動



4. 発進



⚠ 警告

- ヒル スタート アシストは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかり踏み続けてください。
- ヒル スタート アシストを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認して、適切にセレクト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。



⚠ 警告

- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリング ストップしたあと、車両が停止する前にアクセル ペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキ ペダル、アクセル ペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒル スタートアシストが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

👉 アドバイス

- ヒル スタート アシストの作動により、次の状態になることがあります
が、異常ではありません。
- ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
- ブレーキ ペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する
- ヒル スタート アシストは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

アイドリング ストップ専用 バッテリー

アイドリング ストップ装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。

バッテリーを交換するときは、この車専用のスバル指定バッテリーに交換してください。

(アイドリング ストップ専用
バッテリー→ 409 ページ)

⚠ 注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

👉 アドバイス

- バッテリーは定期的に充電すること
で、長持ちさせることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。





発電制御

発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

MEMO

MEMO



装備品の使いかた

お車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

マニュアル エアコン	288
オート エアコン	296

■ オーディオ

ルーフ アンテナ	305
ステアリング スイッチ	306
バック カメラ	307

■ 室内装備品

室内照明	311
アクセサリ ソケット	314
サン バイザー	315
格納式リヤ ドア サンシェード	316
収納装備	317
ドリンクホルダー	320
ショッピング フック	322
助手席シート バック テーブル	322
アシスト グリップ	323
乗降用グリップ	323



空調

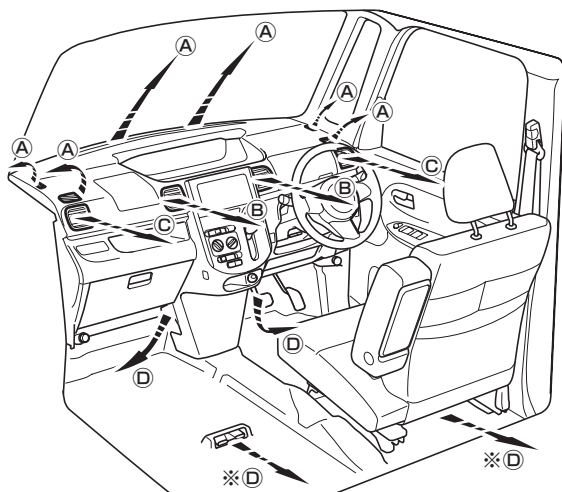
マニュアル エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠ 警告

- アイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。
(ガラスの曇りを取るとき→ 294 ページ)



アドバイス

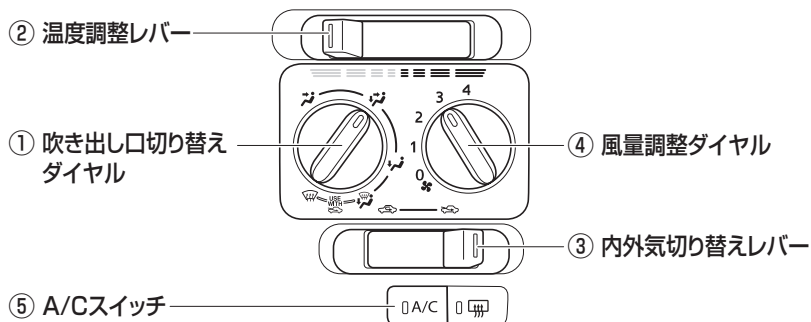
アイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、次の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- アイドリング ストップOFFスイッチを押す

(アイドリング ストップ→ 272 ページ)



マニュアル エアコン コントロール パネル



■ 各ダイヤル／レバー／スイッチの使いかた

① 吹き出し口切り替えダイヤル

イラストの方向へ風が出てきます。風量は吹き出し口によって異なります。



ダイヤル					
吹き出し口	(B) (C)	(B) (C) (D)	(D) (A) (C)	(A) (D) (C)	(A) (C)

() は特に風量の少ないものを示します。

▼ 操作方法

ダイヤルを左右に回して、切り替えます。

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い温度で作動させている場合は、吹き出し口を 、または に切り替えないでください。

外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。





アドバイス



- このマークは、①吹き出し口切り替えダイヤルを☼または☼に合わせるときに③内外気切り替えレバーを🚗（外気導入）に合わせて使用することをおすすめするためのものです。🚗（外気導入）に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

②温度調整レバー

風の吹き出し温度を調整します。



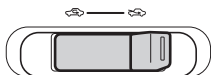
▼ 操作方法

レバーを左右に動かして、調整します。



③内外気切り替えレバー

内気循環、外気導入の切り替えを行います。



内気循環		外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
外気導入		外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼ 操作方法

レバーを左右に動かして切り替えます。

⚠注意

- “内気循環” を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入” を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- ①のダイヤルが 、 または  のとき “内気循環” にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

👉 アドバイス

- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。



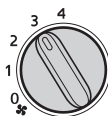
装備品の使いかた

空調

④風量調整ダイヤル

吹き出し口からの風の強さを切り替えます。

ダイヤルにより 4 段階の切り替えができます。



▼ 操作方法

ダイヤルを回して操作します。



アドバイス

- “0”の位置にすると、ファンが停止します。

⑤A/Cスイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。

作動表示灯



▼ 操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。

もう一度押すとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。



アドバイス

- 停車時（アイドリング ストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。

冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

（CVT車の運転→ 262 ページ）

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。



風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

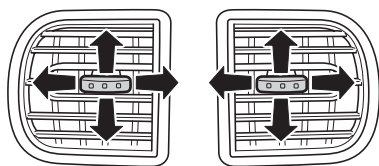
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 吹き出し口

▼ 操作方法

ノブを動かして調整します。

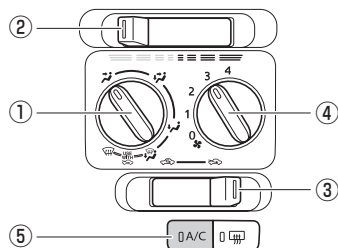


マニュアル エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、レバー、スイッチのセット位置を説明します。

■ 通常の冷房

室内を冷やしたいときに使用します。



- ① 温度
- ② 低温側
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ ON

アドバイス

急速に冷房したいときは

- ②のレバーを最低温に、③のレバーを“内気循環”に、⑤のスイッチを“ON”にしてください。

ただし“内気循環”で長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき“外気導入”にしてください。

冷えてきたら②のレバーを高温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

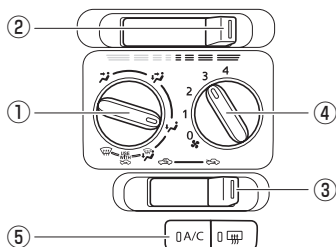
車内の温度が高いときは

- 駐車のと車内の温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。



■ 通常の暖房

室内を暖めたいときに使用します。



- ① 風扇
- ② 高温側
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ OFF

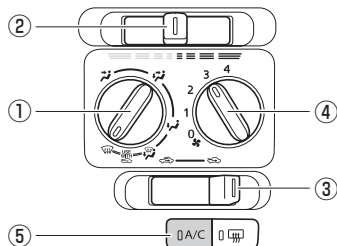
👉 アドバイス

急速に暖房したいときは

- ②のレバーを最高温に、③のレバーを“内気循環”にしてください。
ただし“内気循環”で長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
暖かくなってきたら②のレバーを低温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

■ ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



- ① 風扇
- ② お好みの位置
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ ON

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- ②のレバーを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ①のダイヤルを風扇にする、曇り取りと同時に足元にも送風されます。

外気が汚れているときは

- 一時的に③のレバーを“内気循環”にしてください。

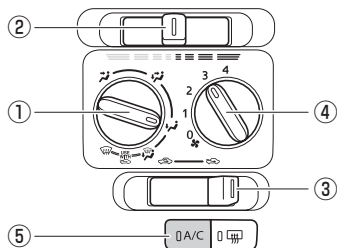
より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、次の操作を行います。
- ④のダイヤルを操作して、風量を増す
- ②のレバーを操作して、設定温度を上げる



■ 除湿暖房するとき（曇り止め）

雨の日など湿気が多く、ガラスが曇りやすいときに使用します。



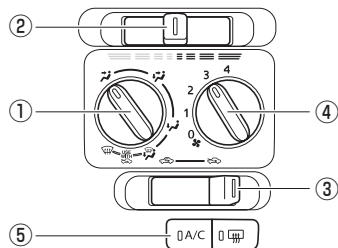
- ① 自動
- ② お好みの位置
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ ON

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

■ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



- ① 自動
- ② お好みの位置
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ OFF





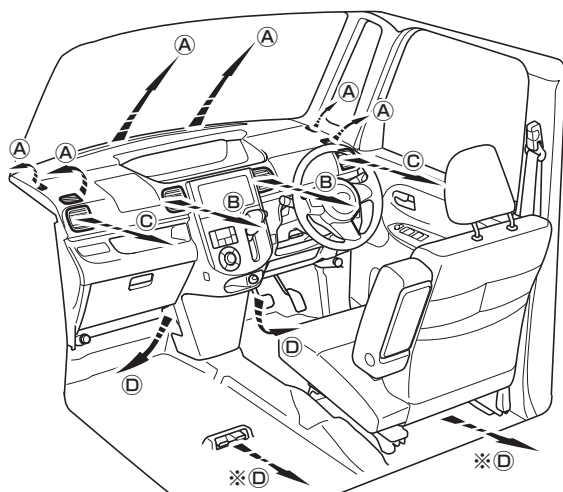
オート エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠ 警告

- アイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。
(ガラスの曇りを取るとき→ 303 ページ)

👉 アドバイス

- エアコンの操作や室内温度により、アイドリング ストップ作動しない場合や、アイドリング ストップ中にブレーキ ペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

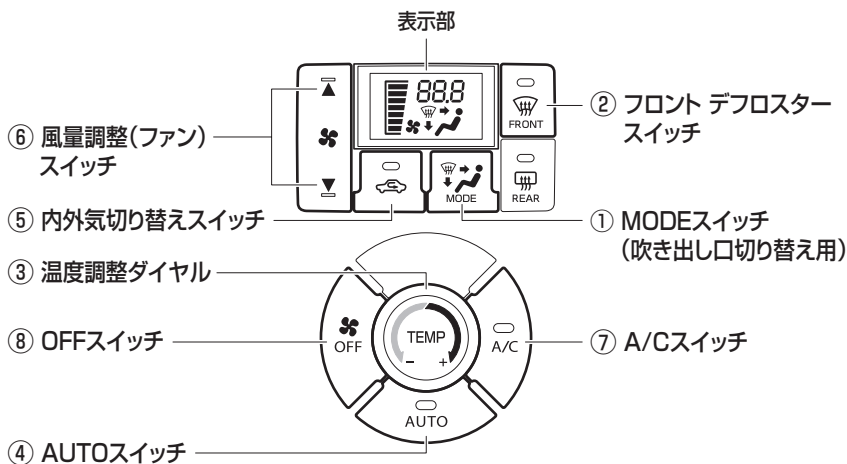
アイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、次の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ・ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
 - ・アイドリング ストップOFFスイッチを押す

(アイドリング ストップ→ 272 ページ)



オート エアコン コントロール パネル



■ 各ダイヤル／スイッチの使いかた

①MODE (吹き出し口切り替え用) スイッチ

吹き出し口を選択します。

選択された吹き出し口が表示部に表示されます。

選択された吹き出し口から風が出てきます。

風量は吹き出し口によって異なります。



表示				
吹き出し口	(B) (C)	(B) (C) (D)	(D) (A) (C)	(A) (D) (C)

()は特に風量の少ないものを示します。

▼ 操作方法

スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で動作させている場合は、吹き出し口をに切り替えしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。





装備品の使いかた

空調

②フロント デフロスター スイッチ
ガラスの曇りを取ります。



▼ 操作方法

- スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時に内外気切り替えが外気導入に切り替わり、作動表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと作動表示灯が消灯し、元の状態に戻ります。

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

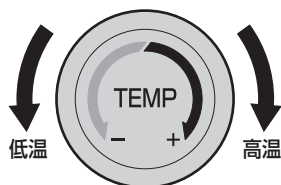


アドバイス

- スイッチが“ON”のときは、アイドリング ストップをしません。
- アイドリング ストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

(アイドリング ストップ
→ 272 ページ)

③温度調整ダイヤル
室内の設定温度を調整します。
設定温度が表示部に表示されます。



▼ 操作方法

ダイヤルを左右に回して、調整します。



アドバイス

- 設定温度を 18℃～32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“H”の表示になります。



④AUTOスイッチ

スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。



▼ 操作方法

スイッチを押すと“ON”になります。

“ON”のときは作動表示灯が点灯します。

👉 アドバイス

- AUTOスイッチが“ON”のときは、次のようになります。
 - 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、AUTOスイッチの作動表示灯が消灯しますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度AUTOスイッチを押してください。
 - 吹き出し口が❖または❖で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
 - 吹き出し口が❖または❖で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
 - エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
 - AUTOスイッチが“ON”のときで、アイドリング ストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
- エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

(アイドリング ストップ

→ 272 ページ)





⑤内外気切り替えスイッチ

内気循環、外気導入の切り替えを行います。



● 内気循環

外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

● 外気導入

外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼ 操作方法

スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

- 作動表示灯が点灯している状態が“内気循環”
- 作動表示灯が消灯している状態が“外気導入”

⚠注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。



アドバイス

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。



⑥風量調整（ファン）スイッチ

吹き出し口からの風の強さを調整します。
風量が表示部に表示されます。



▼ 調整方法

スイッチを押して調整します。

- 風量を強くするには▲側のスイッチ、弱くするには▼側のスイッチを押します。
- ファンを停止させたいときは、OFFスイッチを押します。

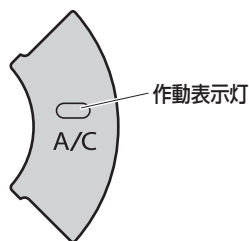


アドバイス

- 吹き出し口が π または ∞ で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

⑦A/Cスイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。



▼ 操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。

もう一度押すとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。



アドバイス

- 停車時（アイドリング ストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。

冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

（CVT車の運転→ 262 ページ）

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。



装備品の使いかた 空調

⑧OFFスイッチ

空調機能の停止を行います。



▼ 操作方法

スイッチを押します。

風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。



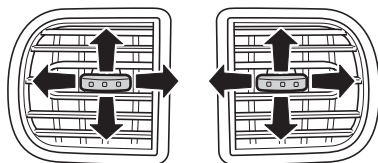
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 吹き出し口

▼ 操作方法

ノブを動かして調整します。

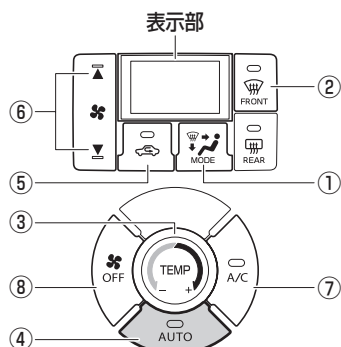


オート エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、スイッチのセット位置を説明します。

■ 通常の使いかた

室内温度を一定に保ちたいときに使用します。



- | | |
|----------|----------|
| ① 操作不要 | ⑤ 操作不要 |
| ② OFF | ⑥ 操作不要 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ お好みの設定 |
| ④ ON | ⑧ 操作不要 |



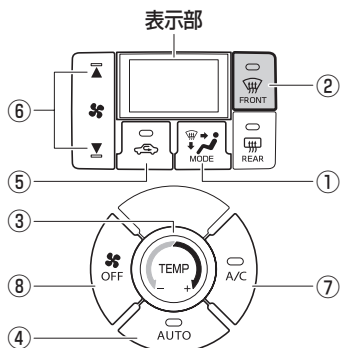
アドバイス

- ④のスイッチを“ON”にすることにより、状況に応じて①・⑤・⑥のスイッチが最適な状態に自動的に選択されます。
- 設定温度は25℃を目安に、お好みで調整してください。
乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- 冷房、除湿をするときは、⑦のスイッチを“ON”にします。



■ ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



- | | |
|----------|--------------|
| ① 操作不要 | ⑤ 操作不要(外気導入) |
| ② ON | ⑥ お好みの風量 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ 操作不要 |
| ④ OFF | ⑧ 操作不要 |

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- ③のダイヤルを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ②のスイッチが“ON”のときは、アイドリング ストップをしません。
- アイドリング ストップ中に②のスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

(アイドリング ストップ
→ 272 ページ)

外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

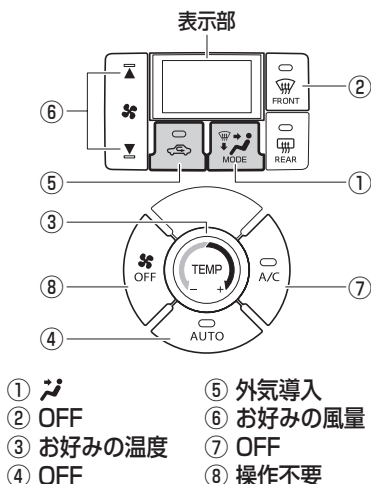
- ガラスの曇りを取る操作と併せて、次の操作を行います。
- ⑥のスイッチを操作して、風量を増す
- ③のダイヤルを操作して、設定温度を上げる





■ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



温度調節センサー

オート エアコンには、自動的に温度調節を行うために、日射センサーと内気センサーが取り付けられています。

アドバイス

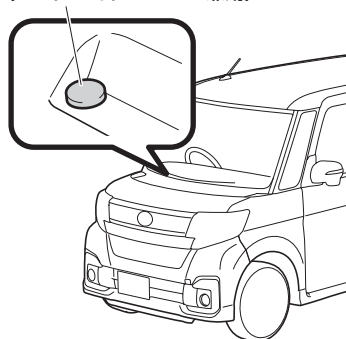
- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

■ 日射センサー

日射量を検知します。

インストルメント パネル上部に取り付けられています。

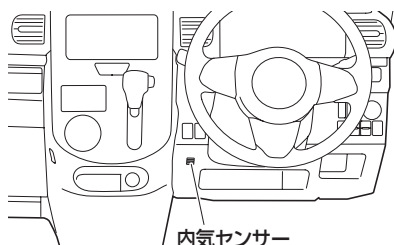
日射センサー
(オート ライト センサー兼用)



■ 内気センサー

室内温度を検知します。

インストルメント パネル中央部（運転席側）に取り付けられています。

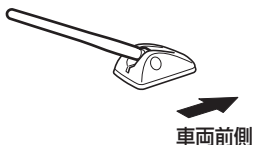




オーディオ

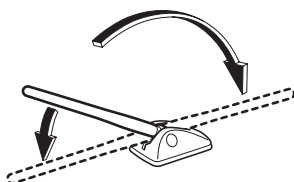
ルーフ アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。



アンテナは、倒すことと取り外すことができます。

▼ 倒しかた



▼ 取り外しかた、取り付けかた

アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回します。

- 取り付け時はしっかりと締め付けてください。



⚠ 注意

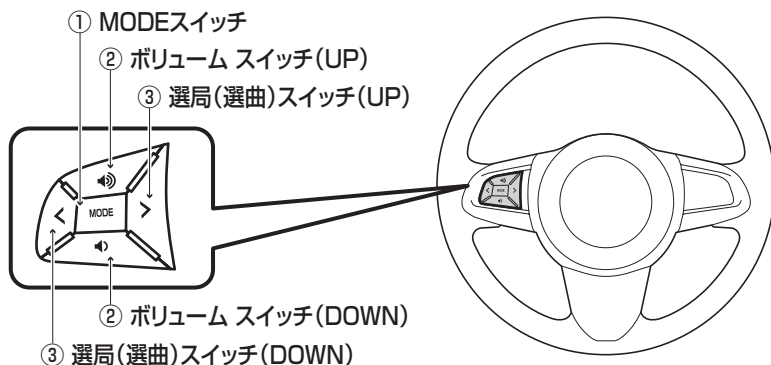
- アンテナを取り扱うときは、無理な力をかけないでください。ボディの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。
- アンテナは横方向への調整はできません。
- 次のようなときは、アンテナを取り外してください。破損したり、変形したりする場合があります。
 - 自動洗車機を使用するとき
 - ボディ カバーをかけるとき
 - 降雪時に長時間駐車するとき
- 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるときは、アンテナを倒してください。
- 洗車時などアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。



ステアリング スイッチ

オプション/グレード別装備

車両の電源が“ON”または“ACC”のとき、ハンドルにあるスイッチでオーディオを操作することができます。



アドバイス

- スバル指定品以外のオーディオ、ナビゲーション システムを装着した場合、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属している各取扱説明書をお読みください。



バック カメラ

オプション/グレード別装備



アドバイス

- 詳しくはナビゲーションに付属している各取扱説明書をお読みください。

バック カメラはお車を後退させるとき、ナビゲーション（別売）のバック モニター画面に車両後方の映像を表示します。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- バック カメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。
- バック カメラを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。
特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
- 映像だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後退すると車両をぶついたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。

⚠警告

- 次のような状況では使用しないでください。
- 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
- タイヤ チェーン、応急用スペア タイヤを使用しているとき
- リヤ ゲートが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない道路
- 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。





⚠注意

- バック カメラが正常に作動しなくなるとおそれがありますので、次のことにご注意ください。
- バック カメラ周辺にはカメラの視野に影響を及ぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けしないでください。
- バック カメラ周辺を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃をあてえないでください。バック カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- バック カメラは取り外したり、分解、改造をしないでください。
- バック カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- バック カメラ周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- バック カメラのカバーは樹脂部品ですので、ワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。
付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときに、お湯をかけるなどして急激な温度変化をあてえないでください。
- バック カメラ周辺をぶつけたときは、バック カメラが故障しているおそれがありますので、スバル販売店で点検を受けてください。

👉アドバイス

- バック カメラ装着車は、字光式ナンバー プレートを取り付けることができません。

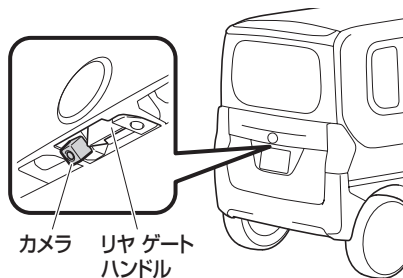
バック カメラのレンズが汚れている場合

- バック カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を映すことができません。
水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。



バック カメラの位置

リヤ ゲート ハンドルの横に取り付けられています。



バック カメラの使い方

車両の電源が“ON”のときに、セレクトレバーを R レンジにすると、ナビゲーション（別売）のバック モニター画面に車両後方の映像を表示します。

- セレクト レバーを R レンジ以外にすると、元の画面に戻ります。



アドバイス

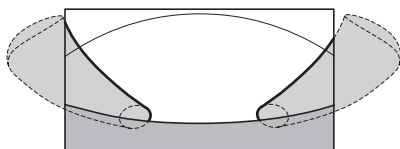
- バック カメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。



画面に映る範囲

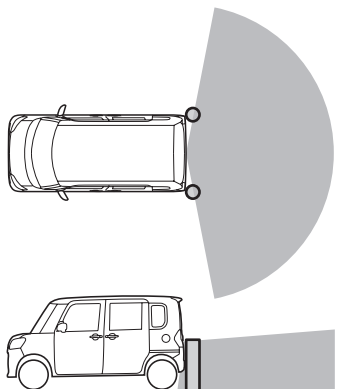
リヤ バンパー後端から車両の後方（下図の範囲）が映ります。

■ 映像



バンパーの両端付近は映りません

■ 映る範囲



アドバイス

- お車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バック カメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バック カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- 次のようなときは、画面が見つづらくなることがありますが、異常ではありません。
 - ・ 暗いところ（夜間など）
 - ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき
 - ・ バック カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
 - ・ バック カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
 - ・ 太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき



室内装備品

室内照明

アドバイス

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

▼ スイッチが“ON” のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

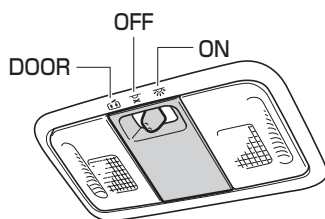
▼ スイッチが“OFF” のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR” のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

(ドア連動機能→ 312 ページ)



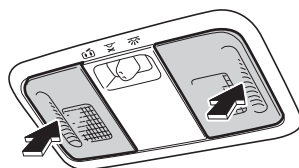
フロント マップ ランプ

運転席、助手席の手元を照らすときに使用します。

▼ 操作方法

フロント マップ ランプを押し込むと点灯します。

もう一度押し込むと消灯します。





装備品の使いかた 室内装備品

カーゴ ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

▼スイッチが“ON”のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼スイッチが“OFF”のとき

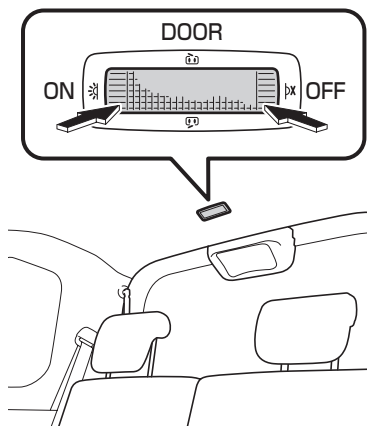
ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

(ドア連動機能→ 312 ページ)

ランプの状態	操作
 (ON)	押し込む
 (OFF)	押し込む
 (DOOR)	中間位置



ドア連動機能

室内照明は、ドア操作、電源操作に連動して、点灯・消灯します。

- スイッチ付き室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。



アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



■ タイマー機能

- すべてのドアが閉まっているとき、電源の操作により照明が点灯・消灯します。

電源	室内照明
ON	消灯
ACC または OFF	約15秒間点灯後に消灯

👉 アドバイス

- 電源の操作による室内照明のタイマー機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

- 電源が“OFF”または“ACC”のとき、次の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席 ドア ロック	室内照明
施錠	消灯(点灯中は減光後に)
解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
いずれか開	点灯
全閉	約15秒後に消灯

■ バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

▼ ドア連動機能による点灯時

- 電源が“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 次のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
 - すべてのドアを閉めて、再度開ける
 - 電源を“ON”にする

▼ 室内照明のスイッチが“ON”のとき

- 電源が“OFF”で、室内照明のスイッチが“ON”のまま約 12 分経過すると、自動的に消灯します。
- 次のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
 - 電波式リモコン ドア ロックによる施錠・解錠
 - キーレス アクセスによる施錠・解錠
 - ドアの開閉
 - 電源を“ACC”、または“ON”にする

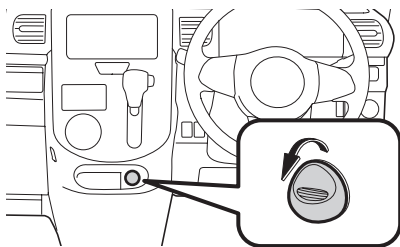


アクセサリー ソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

▼ 使用方法

カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。



⚠ 注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりのおそれがあります。また、エンジンがかかっている場合でも、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- アクセサリー ソケットを使用しないときは、カバーを開けておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートするおそれがあります。

👉 アドバイス

- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

（アイドリング ストップ
→ 272 ページ）

- 故障を防ぐため、電化製品はスバル指定品をおすすめします。

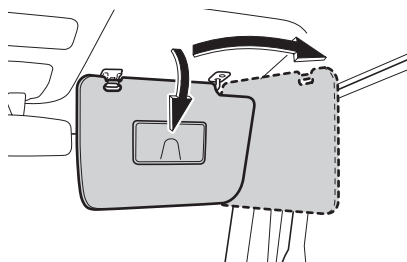


サン バイザー

直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用するとき

図中の矢印の方向に動かします。

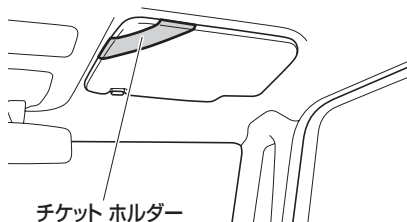


👉 アドバイス

- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時に物が落ちるおそれがあり危険です。

チケットホルダー

チケット類を収納することができます。



👉 アドバイス

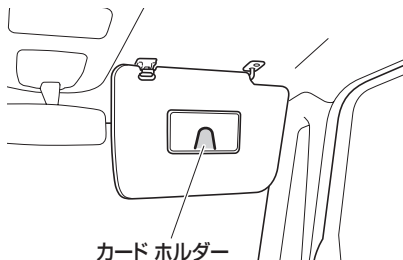
- チケットホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時に物が落ちるおそれがあり危険です。

カードホルダー

カード類を収納することができます。

👉 アドバイス

- カードホルダーにカード類以外の物を入れないでください。発進時に物が落ちるおそれがあり危険です。



バニティミラー

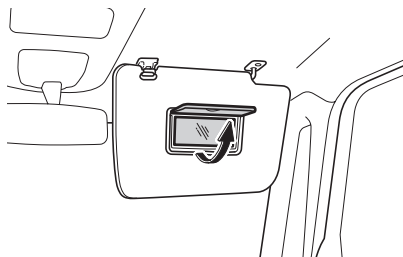
鏡として使用できます。

⚠️ 注意

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 使用方法

カバーを矢印の方向に開けます。



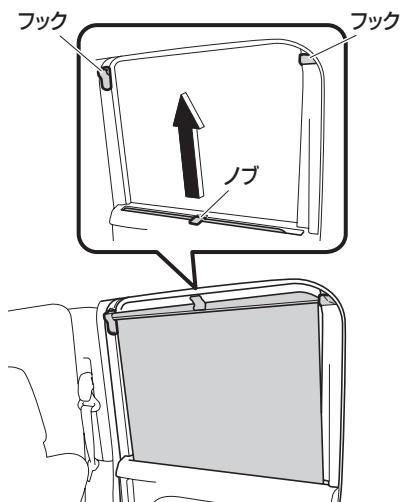


格納式リヤ ドア サンシェード

後席の両側にあります。

▼ 使用方法

ノブをしっかり持って上方向にゆっくり引き出し、フックに引っ掛けます。



▼ 格納するとき

ノブをしっかり持ってフックから外し、ゆっくり下げて元の位置に格納します。

⚠注意

- 操作するときは、ノブを最後までしっかり持って操作してください。途中で手を離すと、巻き戻ったサンシェードで手や指をはさむなど思わぬけがをするおそれがあります。
- サンシェードを上以外の方向に引っ張らないでください。破損の原因になります。



収納装備

収納装備はグレードやメーカー オプションにより、一部異なることがあります。

⚠警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキ ペダルやアクセル ペダルにものがはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセル ペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

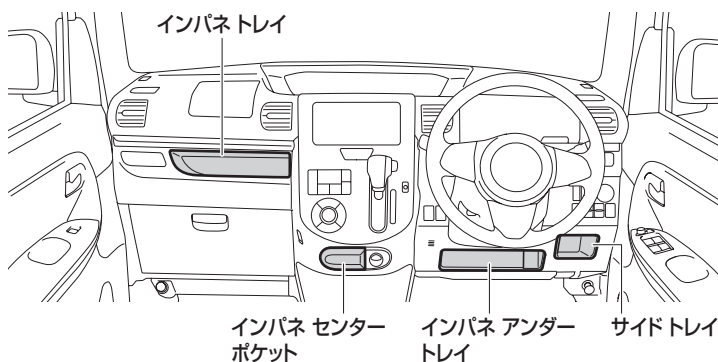
⚠注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。

インパネ トレイ、インパネ ポケット



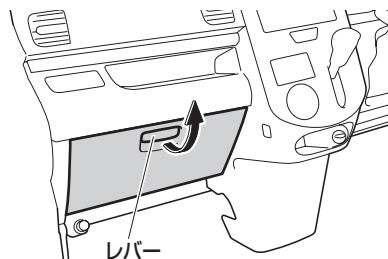


装備品の使いかた 室内装備品

グローブ ボックス

▼ 開閉方法

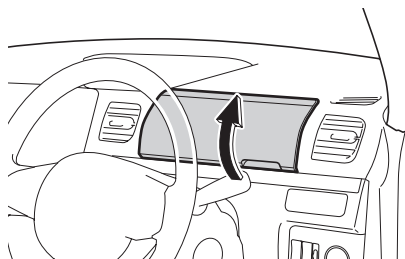
- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



インパネ アッパー ボックス

▼ 開閉方法

- フタを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



フロント アーム レスト ボックス

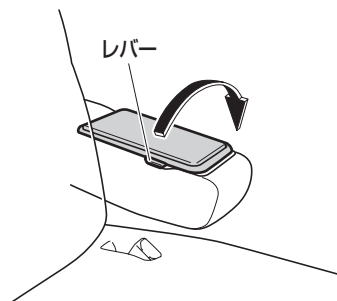
福祉車（リフトタイプ）以外

▼ 使用方法

- アーム レストを倒します。
(アーム レスト→ 48 ページ)

▼ 開閉方法

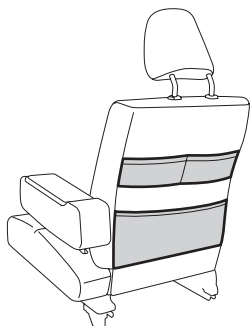
- レバーを押して上に開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。





運転席シートバック ポケット

福祉車（リフトタイプ）以外

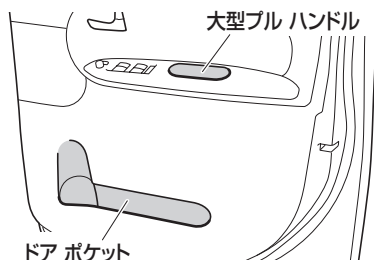


⚠注意

- シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

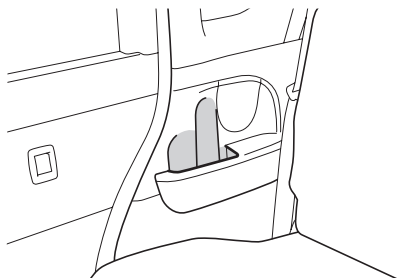
大型プル ハンドル、 ドア ポケット

運転席ドア、助手席ドアにあります。



リヤ クォーター ポケット

後席左右にあります。



サブ トランク

福祉車（スロープタイプ）以外

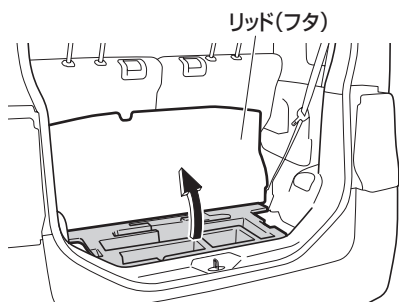
収納スペースとして利用できます。

- ジャッキ、工具などが格納されています。

（格納場所→ 326 ページ）

▼ 使用方法

リッド（フタ）を持ち上げて使用します。



⚠注意

- カーゴ ルームでの作業時は、リヤ シートをスライドさせないでください。手を挟むなどけがをするおそれがあります。



装備品の使いかた 室内装備品

ドリンクホルダー

⚠注意

- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。また、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ペットボトルは形状によって、しっかり固定されない場合があります。しっかり固定されないまま走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

👉アドバイス

- ペットボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

プッシュオープン カップホルダー（前席）

ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

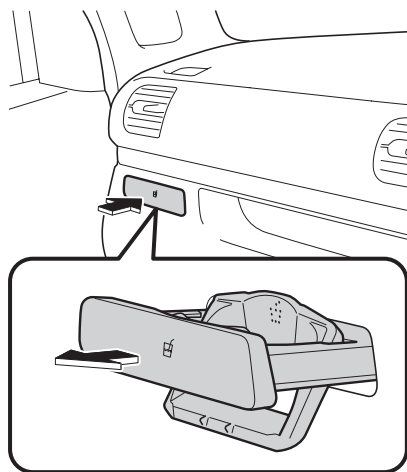
⚠注意

- カップホルダーには、ペットボトルやカップ、飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
- 次のような異物が入ると、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
 - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
 - タバコの灰
 - 芳香剤の液体
- 使用しないときは、カップホルダーを必ず格納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。



▼ 使用方法

- 使用するときは、トレイを押すと開きます。
- 格納するときは、そのままトレイを押し込みます。

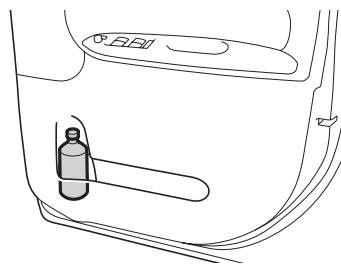


ボトルホルダー

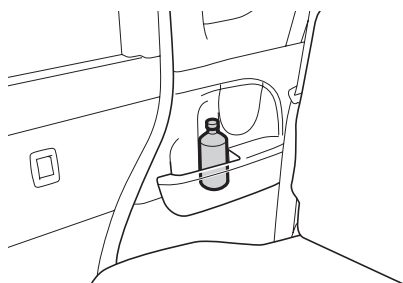
ペットボトルなどを置くときに便利です。

- フロント ドア、後席左右にあります。

フロント



リヤ



👉 アドバイス

- カップや飲料缶を置かないでください。
- 飲み物が入ったまま栓をしていないペットボトルを置かないでください。
ブレーキ時に、飲み物がこぼれるおそれがあります。



装備品の使いかた 室内装備品

ショッピング フック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。

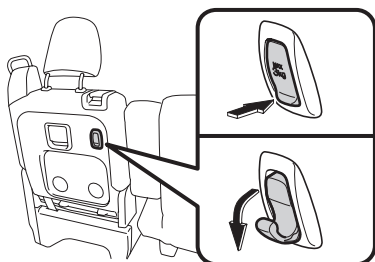
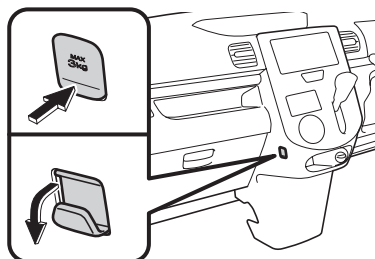
インストールメント パネル中央（助手席側）・助手席シートバック*にあります。

⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をショッピング フックにかけないでください。
（最大荷重量約 3.0kg）
フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

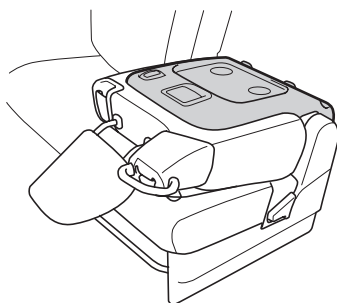
▼使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。



助手席シート バック テーブル

（助手席背もたれの前倒し（シートバック テーブル）→ 45 ページ）



* 福祉車（リフトタイプ）を除く



アシスト グリップ

引き起こして使用します。

▼ 使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。



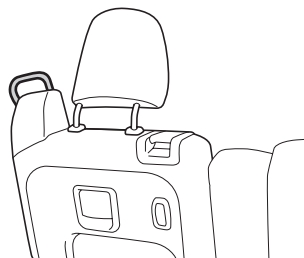
⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をアシストグリップにかけないでください。アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

乗降用グリップ

福祉車（リフトタイプ）以外

リヤシートに乗り降りするときに使用します。



⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物を乗降用グリップにかけないでください。乗降用グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

MEMO



いざというときに

車載工具の使いかたや、お車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所 -----	326
ジャッキの使いかた -----	327

■ いざというときの処置

エンジンがかからないとき -----	332
スタック（立ち往生）したとき -----	332
故障したとき -----	334
けん引されるとき -----	335
パンクしたとき -----	338
タイヤ パンク応急修理セット -----	338
バッテリーあがりの処置 -----	348
オーバー ヒートの処置 -----	350
ヒューズの交換 -----	352
電球（バルブ）交換 -----	356
アクセス キーが使用できないとき ----	368
キーを閉じ込めたとき -----	370
車両を緊急停止するには -----	371
事故が起きたとき -----	372

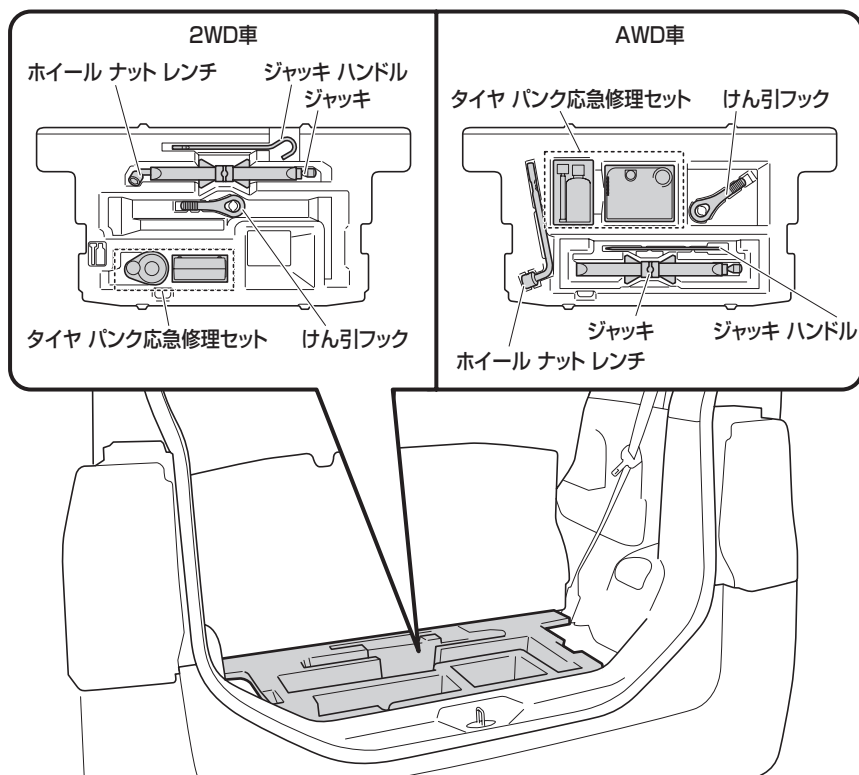


工具類

格納場所

福祉車（スロープタイプ）以外

サブ トランクに収納しています。



△注意

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。



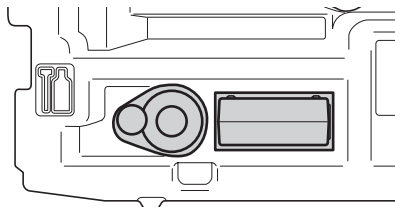
■ タイヤ パンク修理セット

使用するときは、袋から出してください。

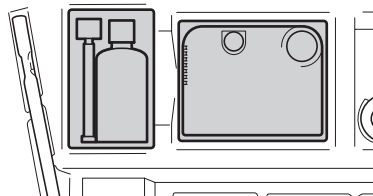
⚠注意

- 収納するときは、下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、サブ トランクに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。

2WD車



AWD車



ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップしたお車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジに入れて、輪止めをしてください。お車が動き出すおそれがあります。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤ パンク応急修理およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車両を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物をお車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。





⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

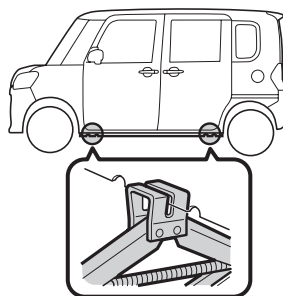
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

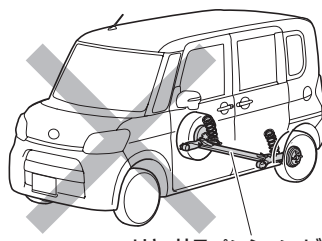
▼ セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットします。



⚠注意

- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。



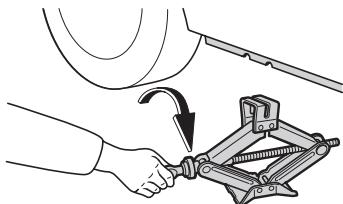
リヤ サスペンション ビーム



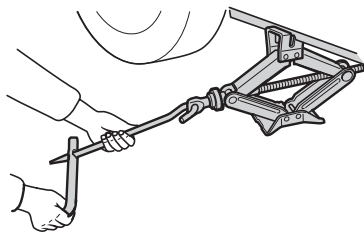
ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置（切り欠きと切り欠きの間）まで上げます。

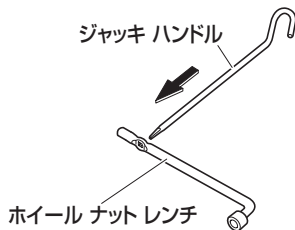


2. ジャッキが確実にセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車体を持ち上げます。



👉 アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。





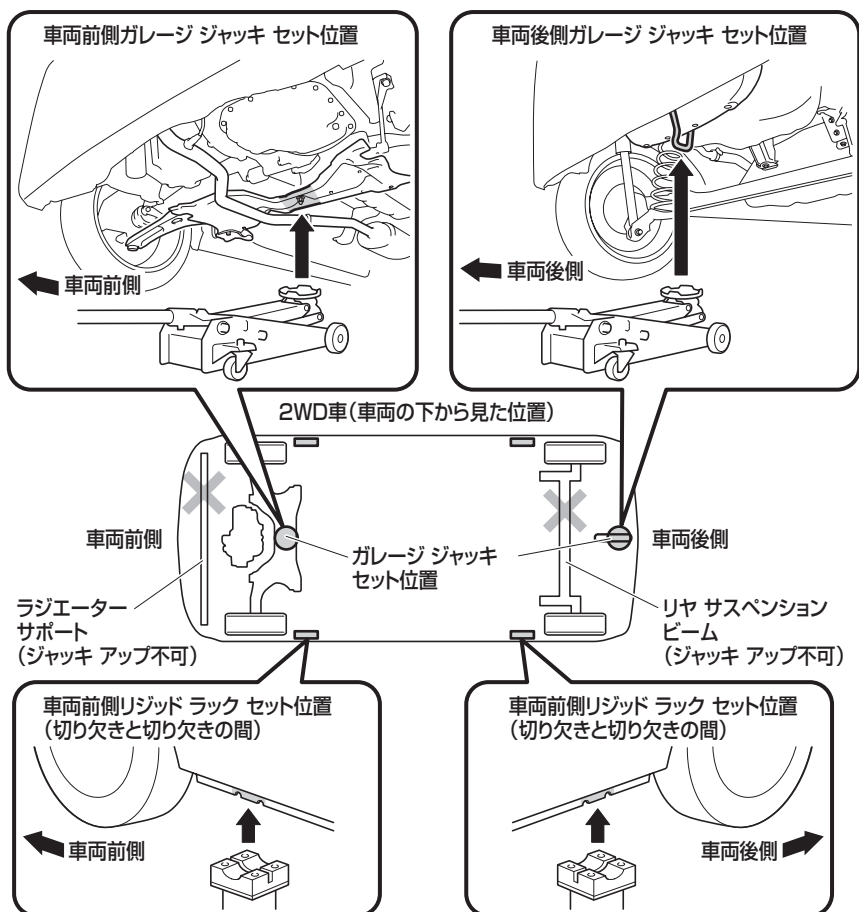
ガレージ ジャッキ（市販品）を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック（市販品）をリジッド ラック セット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットしてください。

⚠注意

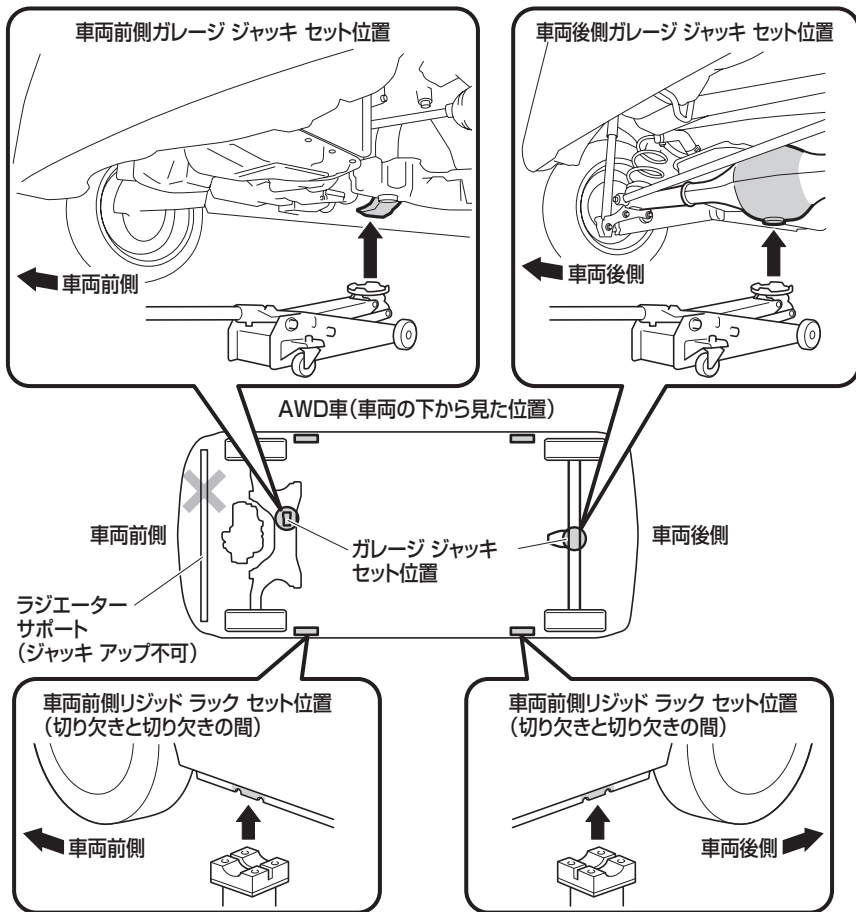
- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

2WD車の福祉車（スロープタイプ）以外





AWD車





いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際には電源を“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのスバル販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生） したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。
スタックから脱出する際に、お車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- セレクト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。お車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。

（けん引されるとき→ 335 ページ）

👉アドバイス

- TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCを停止してください。
（VDC&TRC OFFスイッチ→ 97 ページ）

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーを④レンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。
4. エンジンを始動します。
5. セレクト レバーを④、または④レンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。





いざというときに いざというときの処置

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠注意

- お車を押す場合、セレクト レバーは
[N]レンジに入れてください。



アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

■ 踏切内の場合

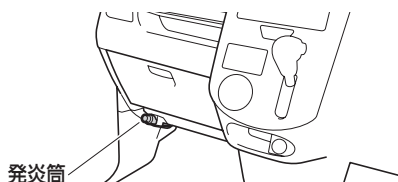
踏切内で動かなくなったり、脱輪などで
すぐ動かせない場合は、ただちに踏切の
非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、
非常事態が発生したときに使用する非常
信号用具です。

▼ 設置場所

グローブ ボックス左下に設置されています。



⚠注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯や懐中電灯で合図してください。



アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅表示灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。



けん引されるとき

故障車の移動は、スバル販売店、スバル指定サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

(スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は、別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。)

⚠警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- AWD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、お車がレッカー車(台車)から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、次の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。
車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店にご確認ください。
駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- 次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにスバル販売店にご連絡ください。
 - エンジンがかかるがお車が動かない
 - 異常な音がする
- ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュ エンジン スイッチが故障したときは、ハンドル ロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。





いざというときに いざというときの処置

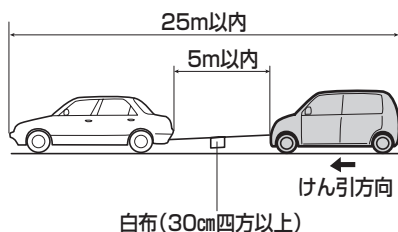
⚠注意

- けん引される車両は、次の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
 - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
 - 電源はハンドル ロックを解除させるために“ACC”にし、セレクト レバーはNレンジにしてください。
 - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
- また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキ ペダルを踏んでください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。

また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。





ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。
けん引フックは、サブ トランクに格納し
ています。

(格納場所→ 326 ページ)

▼ けん引フックの取り付けかた

1. カバーを外します。

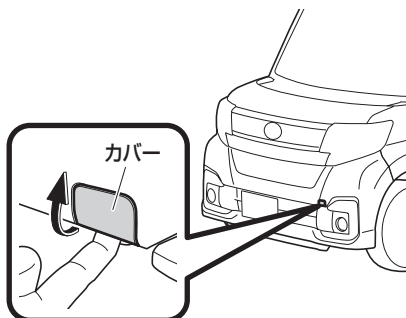
標準車

カスタム仕様車のLEDライナー装着車

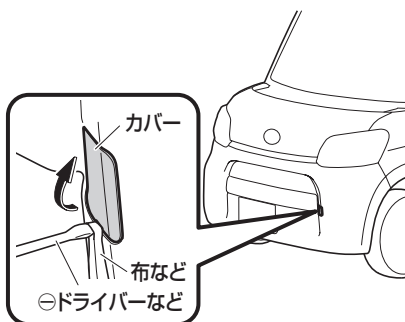
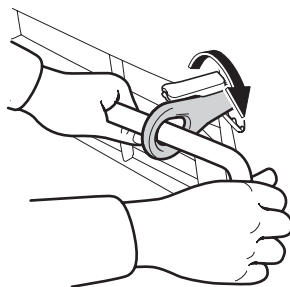
- カバーの切りかきに薄刃の⊖ドライバーなどを差し込み、カバーを外します。
- 傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻きつけてください。

カスタム仕様車のLEDライナー装着車以外

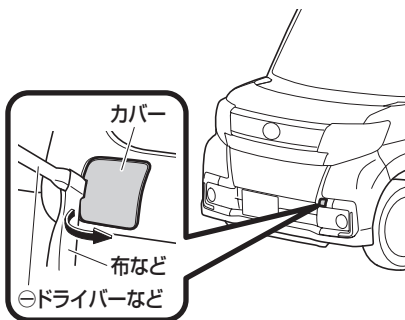
- カバーを図の方向に引いて外します。



2. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。



〈標準車〉



〈カスタム仕様車のLEDライナー装着車〉

アドバイス

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。



パンクしたとき

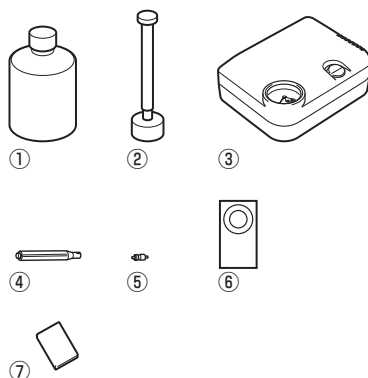
高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

タイヤ パンク応急修理セット

タイヤ パンク応急修理セットは、タイヤがパンクしたとき、パンク穴をふさぐタイヤ パンク応急修理剤と空気を注入するタイヤ空気充填用コンプレッサーを用いて応急修理を行う際に使用します。

- タイヤ パンク応急修理セット装着車には、応急用スペア タイヤは装着されていません。
- タイヤ パンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはスバル販売店で、点検、修理を受けてください。

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤ パンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。



- ① タイヤ パンク応急修理剤
- ② 注入ホース
- ③ タイヤ空気充填用コンプレッサー
- ④ バルブ コア回し
- ⑤ 予備バルブ コア
- ⑥ 速度制限シール
- ⑦ 取扱説明書



⚠注意

- タイヤ パンク応急修理剤は、飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
 - タイヤ パンク応急修理剤が、目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
 - タイヤ パンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- (格納場所→ 326 ページ)
- タイヤ パンク応急修理剤は衣服などに付着すると、取れなくなるおそれがありますので注意してください。

👉アドバイス

- タイヤ空気充填用コンプレッサーは、タイヤ空気充填専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので次のことをお守りください。
- 10 分以上連続して使用しないでください。
- 降雨時など、水がかからないようにしてください。
- 砂ぼこりなどを吸い込ませないようにしてください。
- 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったときはただちにスイッチを“OFF”にし、30 分以上放置してください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。
- 強い衝撃や圧力を加えないでください。
- タイヤ パンク応急修理剤は有効期限を過ぎる前に交換してください。
- 有効期限はタイヤ パンク応急修理剤ボトルに表示されています。



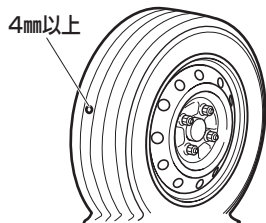
- 交換するときは、スバル販売店にご相談ください。



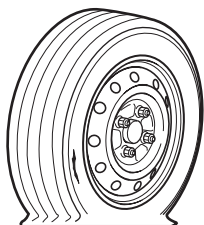
いざというときに いざというときの処置

アドバイス

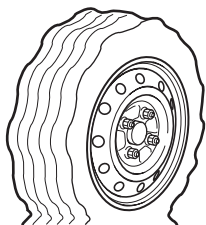
- 次のような場合は、タイヤ パンク応急修理セットによる応急修理ができません。スバル販売店またはJAFなどにご連絡ください。JAFロード サービスについては別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。
- 約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷



- タイヤ サイド部が損傷を受けた場合

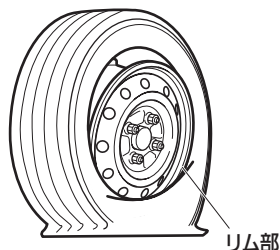


- ほとんど空気の抜けた状態で走行した場合

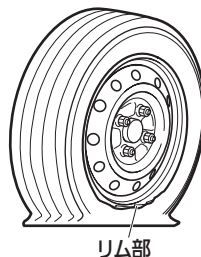


アドバイス

- タイヤがリムの外側に完全に外れている場合



- リム部が破損している場合



- タイヤが 2 本以上パンクしている場合
(修理剤はタイヤ 1 本分です)



タイヤの応急修理方法

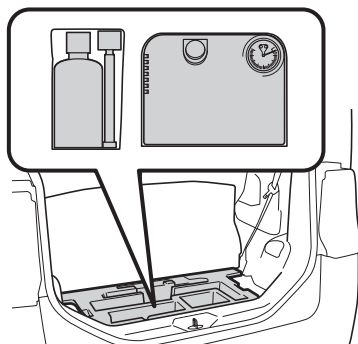
⚠注意

- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

📱アドバイス

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

タイヤ パンク応急修理セットはサブ トランクに格納しています。



▼使用方法

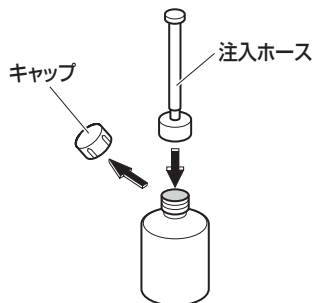
1. タイヤ パンク応急修理剤ボトルとタイヤ空気充填用コンプレッサーを取り出します。
2. タイヤ パンク応急修理剤ボトルをよく振ります。

📱アドバイス

- タイヤ パンク応急修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前に振ってください。

3. タイヤ パンク応急修理剤ボトルのキャップを外し、中ぶたをつけたまま注入ホースをタイヤ パンク応急修理剤ボトルにねじ込みます。

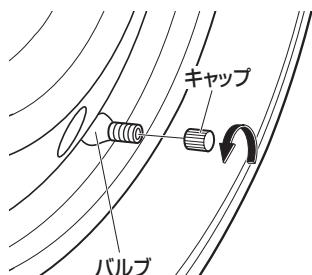
（注入ホースをねじ込むと中ぶたが破れます）



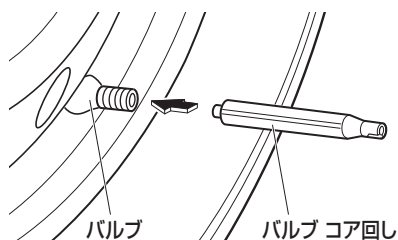


いざというときに いざというときの処置

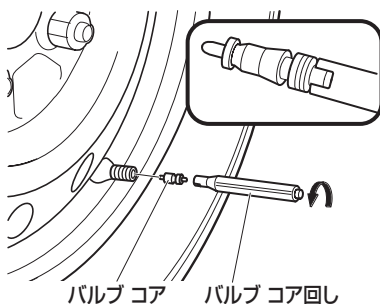
4. パンクしたタイヤのバルブからキャップを左に回して外します。



5. バルブ コア回しを図の向きでバルブに押し付けて、タイヤの空気を完全に抜きます。



6. バルブ コア回しの溝がある部分で、バルブ コアを左に回して外します。



⚠注意

- バルブ コアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブ コアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

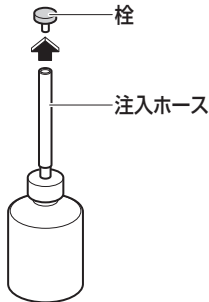


アドバイス

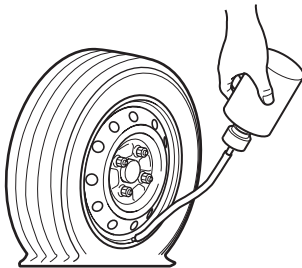
- バルブ コアは再度使用しますので汚れないようにきれいなところに保管してください。



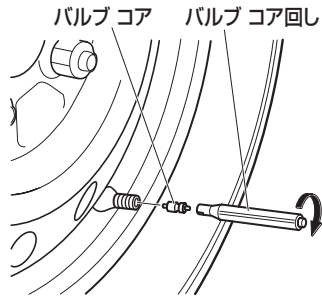
7. 注入ホースの栓を外し、注入ホースの先端をタイヤのバルブに差し込みます。



8. タイヤ パンク応急修理剤を逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。



9. 注入し終わったら、注入ホースをタイヤ バルブから引き抜き、バルブコアをタイヤ バルブにしっかりとねじ込みます。



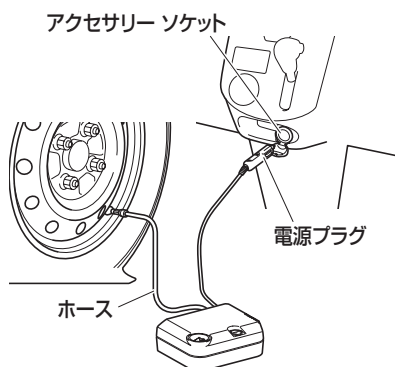
アドバイス

- 空になったタイヤ パンク応急修理剤ボトルは、タイヤ交換、または恒久修理のときに修理剤の回収に使用しますので、捨てずにスバル販売店までお持ちください。



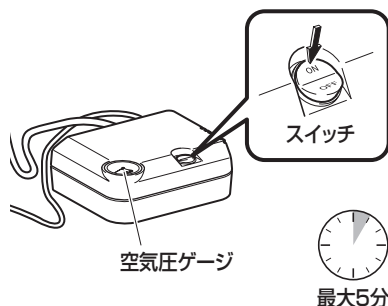
いざというときに いざというときの処置

10. タイヤ空気充填用コンプレッサーに格納されているホースと電源プラグを取り出します。
11. タイヤ空気充填用コンプレッサーのホースをタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。
12. タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグを車両アクセサリーソケットに差し込みます。

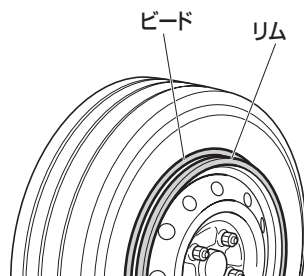


13. 車両の電源を“ACC”にします。
 14. タイヤの指定空気圧を確認します。
- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

15. タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、コンプレッサーの空気圧ゲージで確認しながら、タイヤを指定空気圧まで昇圧してください。



- タイヤのビードがリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤの隙間をなくすようにしてコンプレッサーを作動させてください。
(隙間がなくなれば空気圧が上がります)



⚠注意

- タイヤが膨らむとビードがリムにはまり込むので、指などを挟まないようにしてください。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーは10分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。



アドバイス

- タイヤ空気圧を、指定の空気圧まで昇圧するには約 5 分程度必要です。もし、5 分以内に十分昇圧しないなら、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2~3 回以上回し、タイヤ パンク応急修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

(ジャッキの使いかた→ 327 ページ)

- 5 分以内に指定の空気圧まで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤ パンク応急修理剤で修理することができません。スバル販売店または、JAFなどにご連絡ください。

アドバイス

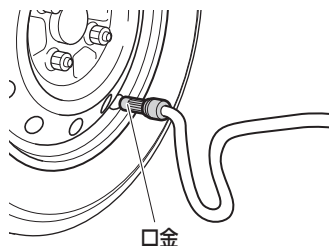
- JAFロード サービスについては別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

16. 指定の空気圧まで昇圧できれば、タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを“OFF”にしてコンプレッサーを車両から取り外し、すみやかに走行してください。

- 急加速、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80km/h以下で慎重に運転してください。

アドバイス

- 空気を入れすぎた場合は、ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

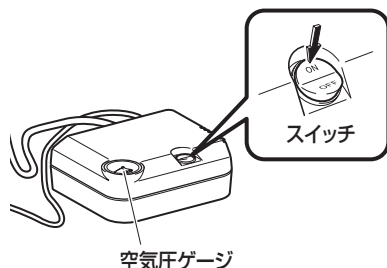


17. 10 分間または 5 km程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、車両の電源を“OFF”にします。



いざというときに いざというときの処置

18. タイヤ空気充填用コンプレッサーを
手順 11～12 の要領で車両に接続し
ます。
19. 車両の電源を“ACC”にして、タイ
ヤの空気圧を空気圧ゲージでチェッ
クしてください。



👉 アドバイス

- 空気圧を測定するときは、タイヤ空気
充填用コンプレッサーのスイッチを一
度“ON”にしてコンプレッサーを作動
させます。そのあと、スイッチを
“OFF”にしてからタイヤ空気圧を確
認してください。

- 空気圧が 130kPa以下に低下してい
たら、タイヤ パンク応急修理剤による
修理はできません。走行を中止し、ス
バル販売店または、JAFなどにご連絡
ください。

👉 アドバイス

- JAFロード サービスについては別冊の
「メンテナンス ノート」を参照して
ください。

20. 空気圧が 130kPa以上であれば、パン
ク応急修理の完了です。

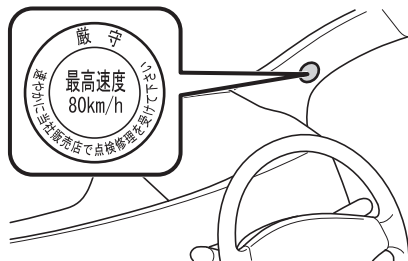
再度コンプレッサーのスイッチを入
れ、指定空気圧まで昇圧してくださ
い。



アドバイス

- 必ず空気圧を確認して応急修理を完了
してください。

21. 異常がなければ、付属の速度制限シ
ールを運転者のよく見えるところに
貼り、急加速、急ブレーキ、急ハン
ドルをさけ、80km/h以下ですみやか
にスバル販売店まで走行します。



⚠️ 警告

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド
部などエアバッグ展開面に貼らないで
ください。SRSエアバッグが正常に作
動しなくなり、重大な傷害を受けるお
それがあります。
- また、メーターやウインドウ ガラス
など、運転のさまたげになるようなと
ころに貼らないでください。思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。



■ 応急修理後の処置

タイヤ パンク応急修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

- ホイールは、付着したタイヤ パンク応急修理剤を抜き取れば再使用できます。ただし、バルブ コアは新しい物と取り替えてください。
こぼれたタイヤ パンク応急修理剤はふき取ってください。
- タイヤ パンク応急修理剤の空容器は、タイヤ交換時に、使用済みの修理剤の回収に使用しますので、スバル販売店までお持ちください。
- タイヤ パンク応急修理剤を使用した場合は、再び、新しい修理剤を車両に装備しておく必要がありますので、スバル販売店にご相談ください。
- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤ パンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

タイヤ パンク応急修理セットの 点検

いざというとき使用できるようにタイヤ パンク応急修理セットの各部品は日常点検を実施してください。

- タイヤ パンク応急修理剤の有効期限の確認
- アクセサリー ソケット電源の確認
(電化製品を使用するなどして、作動で点検してください)
- タイヤ空気充填用コンプレッサー作動の確認
(タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリー ソケットに差し込み、電源を“ACC”にします)





いざというときに いざというときの処置

バッテリーあがりの処置

次のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- キーレス アクセス装着車のアクセスキーでドアが解錠しない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- バッテリーを交換するときは、このお車専用のスバル指定バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。

(アイドリング ストップ専用
バッテリー→ 409 ページ)

- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

(アイドリング ストップ専用
バッテリー→ 409 ページ)

👉 アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐために次のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたリ、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。



▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いたら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースター ケーブルを接続するとき、⊕端子と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

▼ 処置の手順

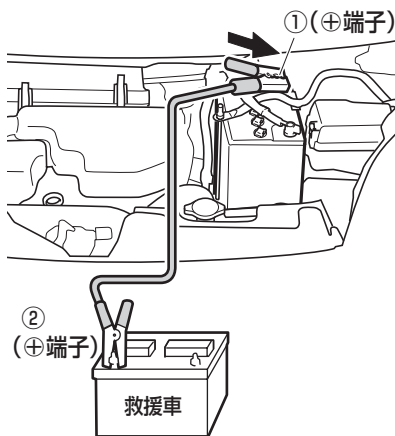
⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- 1 本目のブースター ケーブル接続の際には、ケーブルを図の矢印の方向で⊕端子に接続してください。
また、⊕端子をボディ金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外します。
2. 1 本目のブースター ケーブルを
①→②の順に接続します。

①バッテリーあがり車の⊕端子

②救援車の⊕端子





いざというときに いざというときの処置

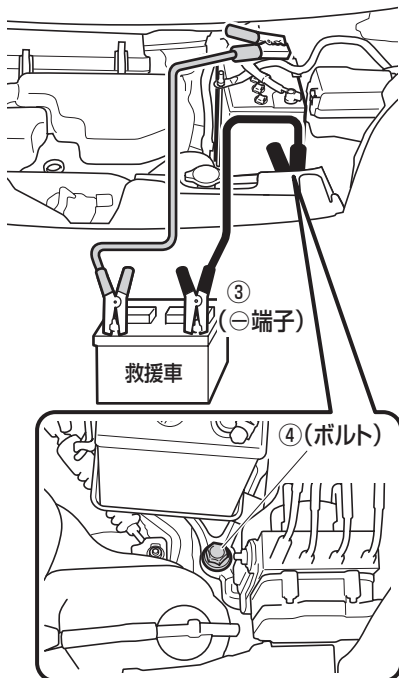
3. 2 本目のブースター ケーブルを
③→④の順に接続します。

③ 救援車の⊖端子

④ バッテリーあがり車の

ミッション マウントのボルト

(アースにつなぐ)



4. 救援車（電源側の車）のエンジンを始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
5. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
6. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

オーバー ヒートの処置

次の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

お車を安全な場所に止め、次の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。



3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が次のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバー タンクの水がないとき
 - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

👉アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）





いざというときに いざというときの処置

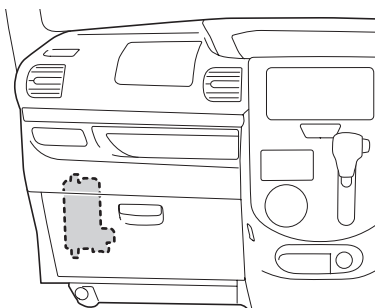
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

ヒューズの位置

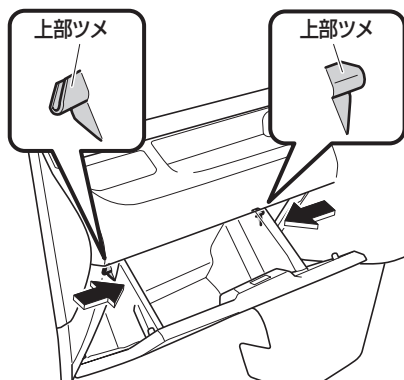
■ 助手席足元

グローブ ボックス奥に設置されています。

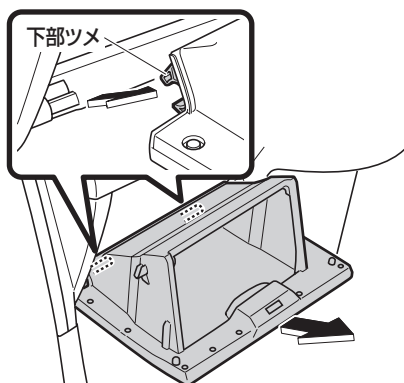


▼ グローブ ボックスの取り外しかた

1. 車両の電源を“OFF”にします。
2. グローブ ボックスを開けます。
3. グローブ ボックス側面を左→右の順で内側にたわませ、上部のツメを外します。



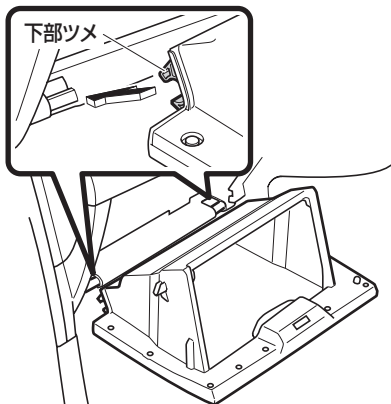
4. 図の矢印の方向へ引いて下部ツメを外し、グローブ ボックスを取り外します。



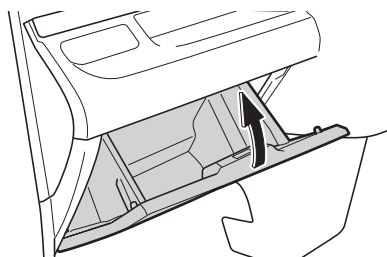


▼ グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスの下部ツメを取り付けます。



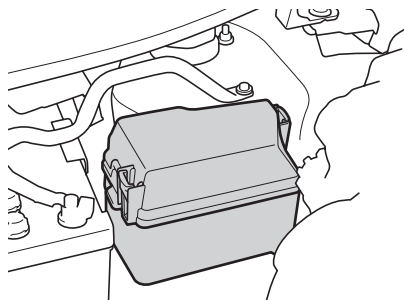
2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。



 アドバイス

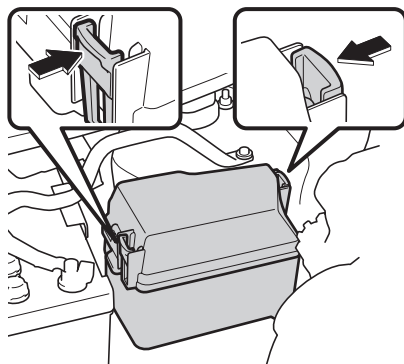
- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。

■ エンジン ルーム内



▼ カバーの取り外しかた

1. 電源を“OFF”にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを取り外します。



▼ カバーの取り付けかた

取り外すときと逆の手順で行います。



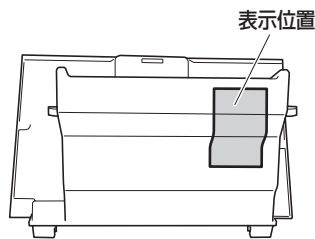
いざというときに いざというときの処置

ヒューズの配置と負荷

各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

■ 助手席足元

グローブ ボックスの裏側に表示しています。



グローブ ボックス裏側

■ エンジン ルーム内

ヒューズ ボックス カバーの裏側に表示しています。

👉 アドバイス

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。
- また、装置がなくてもヒューズだけが付いている場合があります。

ヒューズの点検と交換

⚠️ 警告

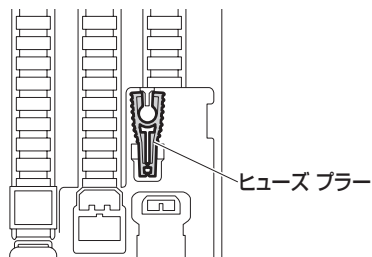
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

👉 アドバイス

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。

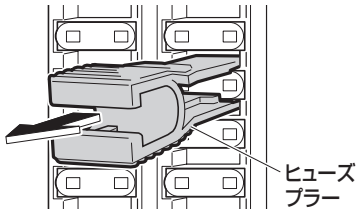
▼ ヒューズの点検方法

1. 助手席足元のヒューズ ボックスから、ヒューズ プラーを取り出します。

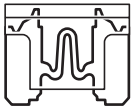




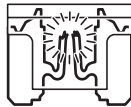
2. ヒューズをヒューズ プラーで挟んで外します。



3. 取り外したヒューズを点検します。
- ヒューズが切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。
 - ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



(正常)



(切れているとき)





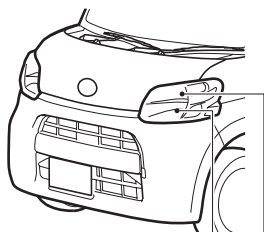
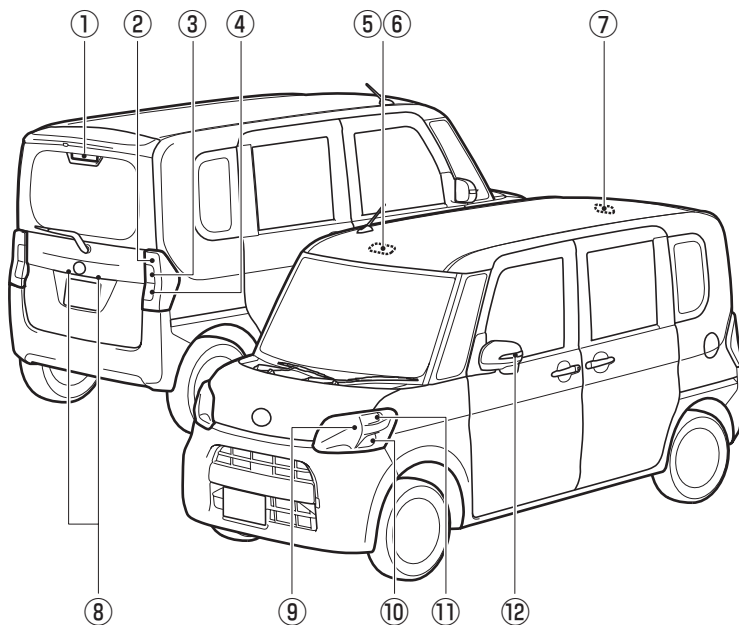
電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

標準車

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



〈LEDヘッド ランプ装着車〉

13 14



電球(バルブ)		W(ワット)数
①	ハイマウント ストップ ランプ	LED
②	制動灯 兼 尾灯	LED
③	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
④	後退灯	16
⑤	ルーム ランプ	8
⑥	フロント マップ ランプ	5
⑦	カーゴ ルーム ランプ	5
⑧	番号灯	5
⑨	前照灯(Hi / Low)(バルブ タイプ : H4)	60/55
⑩	前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
⑪	車幅灯	5
⑫	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	LED
⑬	前照灯(Low)	LED
⑭	前照灯(Hi)(バルブ タイプ : HB3)	60

⚠注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。



アドバイス

LEDランプについて

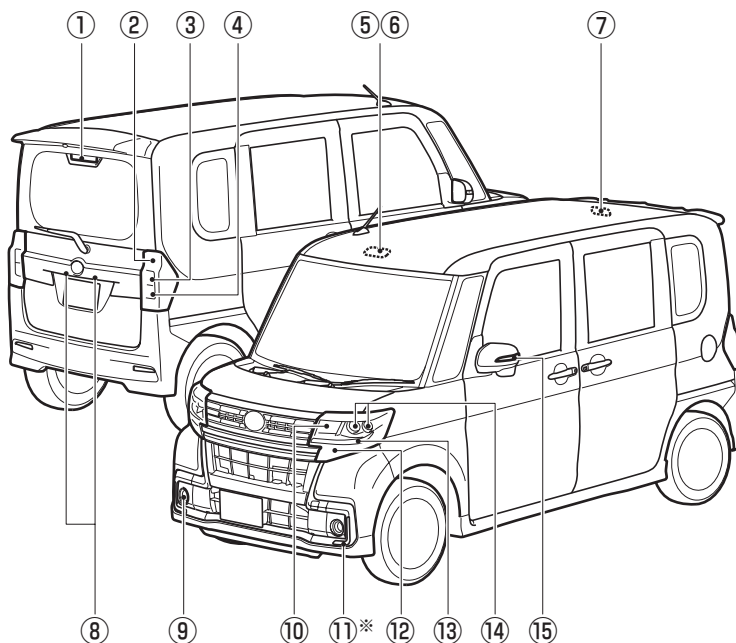
- LEDを使用しているランプは、LEDのみの交換をすることができません。点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。
- ハイマウント ストップ ランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数のLEDで構成されています。もし、LEDが1つでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。



いざというときに いざというときの処置

カスタム仕様車

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



※オプション/グレード別装備



電球(バルブ)		W(ワット)数
①	ハイマウント ストップ ランプ	LED
②	制動灯 兼 尾灯	LED
③	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
④	後退灯	16
⑤	ルーム ランプ	8
⑥	フロント マップ ランプ	5
⑦	カーゴ ルーム ランプ	5
⑧	番号灯	5
⑨	フォグ ランプ	LED
⑩	前照灯(Hi)(バルブ タイプ: HB3)	60
⑪	LEDライナー	LED
⑫	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
⑬	車幅灯	LED
⑭	前照灯(Low)	LED
⑮	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	LED

⚠注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

👉アドバイス

LEDランプについて

- LEDを使用しているランプは、LEDのみの交換をすることができません。点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。
- ハイマウント ストップ ランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数のLEDで構成されています。もし、LEDが1つでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。



いざというときに いざというときの処置

交換の手順

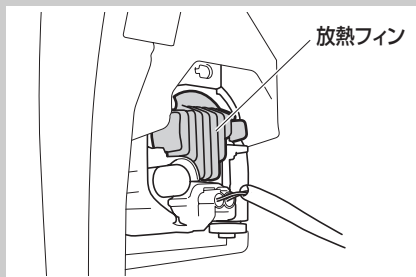
⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

LEDフォグ ランプ装着車について

- フォグ ランプが点灯しているとき、および消灯した直後は、ランプの裏側の放熱フィンが高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

フォグ ランプの点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。



⚠注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。

⚠注意

- ①ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- 前照灯などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落したり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。

また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。

- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- ヘッド ランプやリヤ コンビネーション ランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇のと同様の現象であり、機能上の問題はありません。

ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。

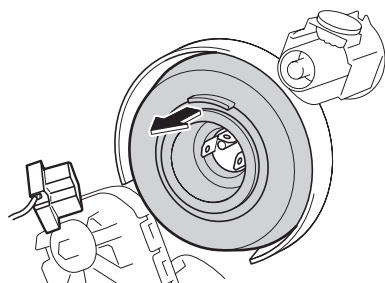


■ 前照灯

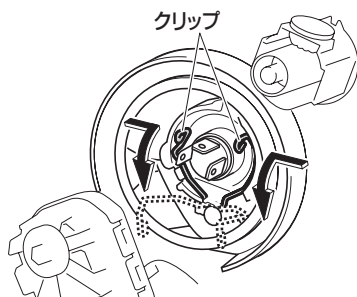
標準車のハロゲン ヘッド ランプ装着車

▼ 取り外し手順

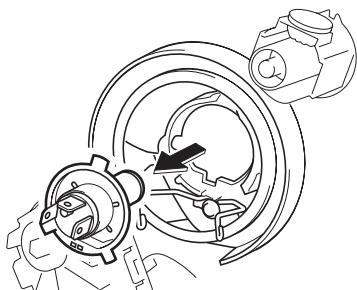
1. ボンネットを開けます。
(ボンネット→ 190 ページ)
2. コネクターを取り外します。
3. ゴム カバーを取り外します。



4. クリップをフックから外します。
 - 両側のクリップを矢印の方向に寄せながら手前に倒して外します。

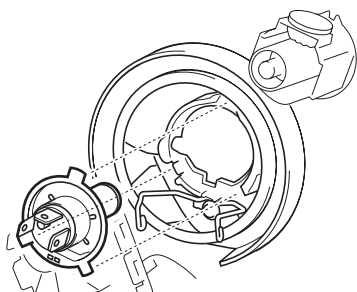


5. バルブを取り外します。



▼ 取り付け手順

1. バルブを取り付けます。
 - ヘッド ランプ本体の溝にバルブの突起部が合うように、はめ込みます。





いざというときに いざというときの処置

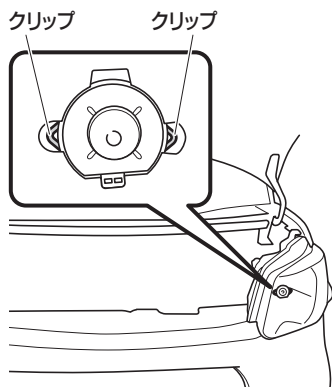
2. バルブを確実に固定します。

- 両側のクリップを起こして中央方向にたわませ、フックに取り付けます。



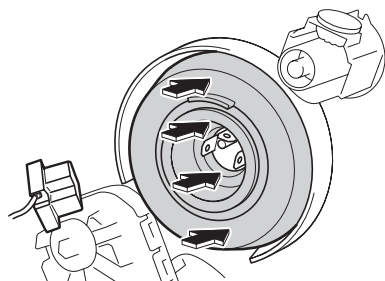
アドバイス

- バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。



3. ゴム カバーを確実に取り付けます。

- ゴム カバーを矢印方向にしっかり押さえます。
4. コネクターを取り付けます。

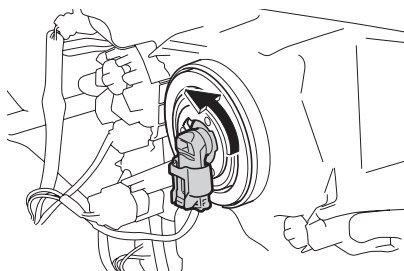


■ 前照灯／ハイ ビーム

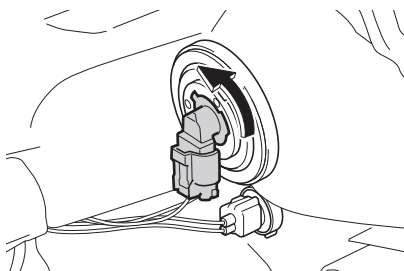
▼ 取り外し手順

1. ボンネットを開けます。
(ボンネット→ 190 ページ)
2. バルブを回して外します。

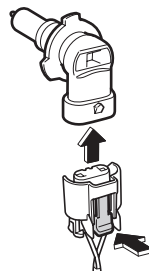
標準車のLEDヘッド ランプ装着車



カスタム仕様車



3. コネクターのツメを押して、コネクターからバルブを引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

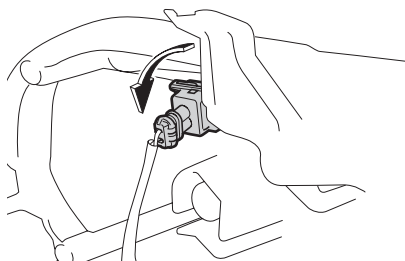


■ 車幅灯

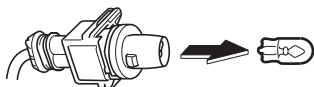
標準車

▼ 取り外し手順

1. ボンネットを開けます。
(ボンネット→ 190 ページ)
2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

カスタム仕様車



アドバイス

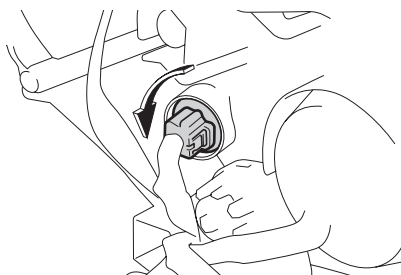
- LEDを使用しているため、電球のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。

■ 前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

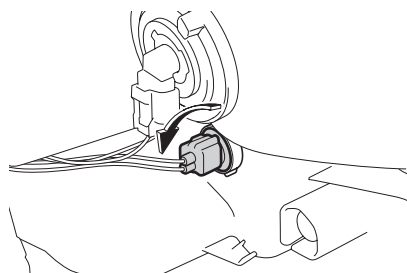
▼ 取り外し手順

1. ボンネットを開けます。
(ボンネット→ 190 ページ)
2. ソケットを回して取り外します。

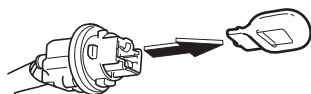
標準車



カスタム仕様車



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。



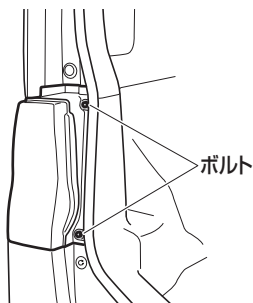
いざというときに いざというときの処置

■ リヤ コンビ ランプ

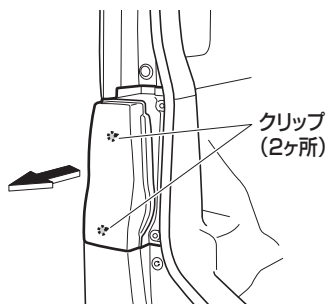
(後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯、
後退灯)

▼ 取り外し手順

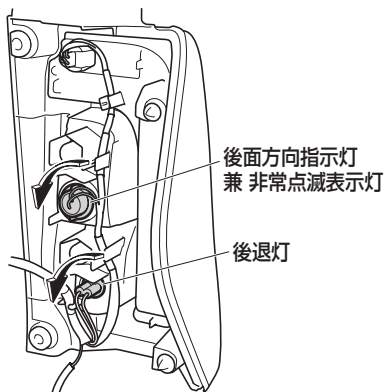
1. リヤ ゲートを開けます。
2. ランプ本体のボルト (2 本) を取り外します。



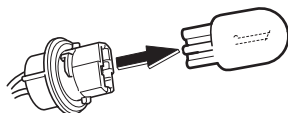
3. ランプ本体を、車両後方に引いて取り外します。



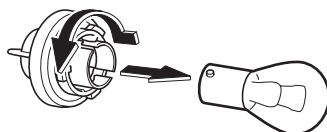
4. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



5. ソケットから電球を取り外します。
 - 後退灯および標準車の後面方向指示灯、または非常点滅表示灯は、電球を引き抜きます。



- カスタム仕様車の後面方向指示灯、または非常点滅表示灯は、電球を押し回して外します。





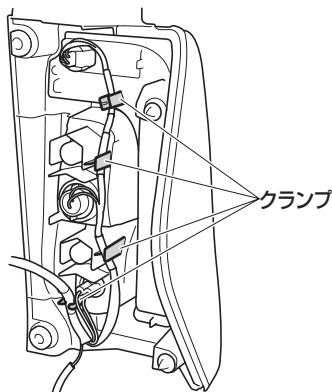
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠注意

- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部を目印にしてクランプに取り付けてください。

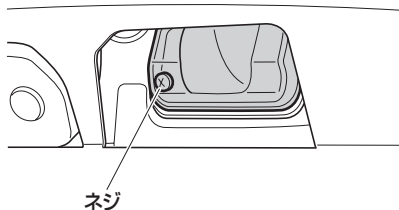
クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



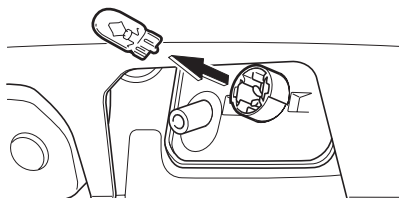
■ 番号灯

▼ 取り外し手順

1. ネジ（1 本）を取り外し、レンズを取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

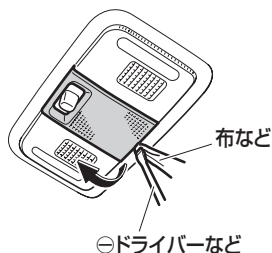


いざというときに いざというときの処置

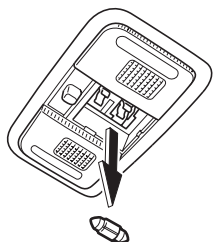
■ ルーム ランプ

▼ 取り外し手順

1. ①ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



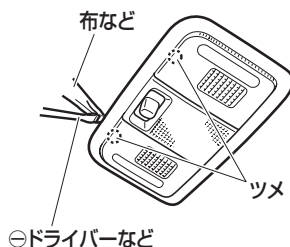
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

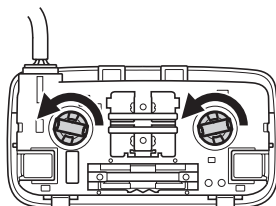
■ フロント マップ ランプ

▼ 取り外し手順

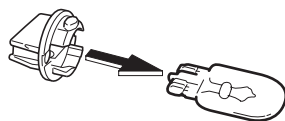
1. ①ドライバーなどを差し込み、ツメ（2カ所）を外してランプ本体を取り外します。



2. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

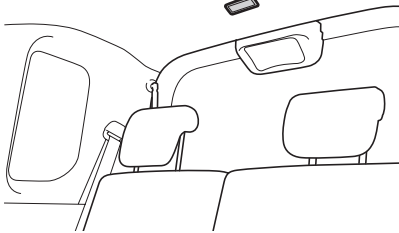
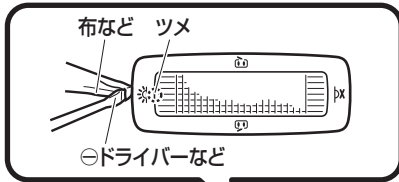
逆の手順で行います。



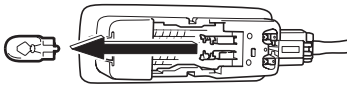
■ カーゴ ルーム ランプ

▼ 取り外し手順

1. ㊦ドライバーなどを差し込み、ランプ本体を取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。



いざというときに いざというときの処置

アクセス キーが 使用できないとき

キーレス アクセス装着車

電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できない場合は、アクセス キー（メカニカル キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行うことができます。

⚠警告

- 電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できない場合でも、アンテナは電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外アンテナ・車室内アンテナから約 22 cm以内に近付かないようにしてください。

（アンテナ→ 148 ページ）

👉アドバイス

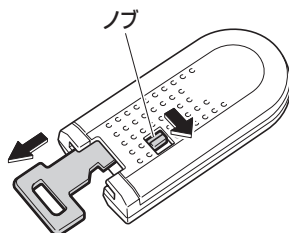
- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な処置です。電池が消耗したときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

（キーの電池交換→ 392 ページ）

メカニカル キー の取り出しかた

▼取り出しかた

アクセス キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、メカニカル キーを引いて取り出します。



👉アドバイス

- 使用後は、メカニカル キーを必ずアクセス キーに格納しておいてください。



ドアの施錠、解錠

▼ 操作を行う前に

👉 アドバイス

盗難警報装置がセットされている場合

- アクセス キー以外でドアを解錠してドアを開けると、盗難警報装置の警報が作動します。

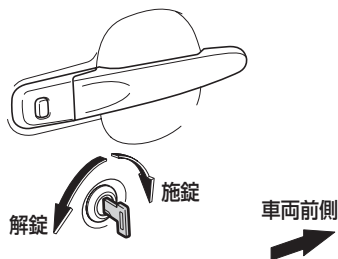
警報が作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1～3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。

(盗難警報装置→ 158 ページ)

(エンジンのかけかた→ 369 ページ)

▼ 操作方法

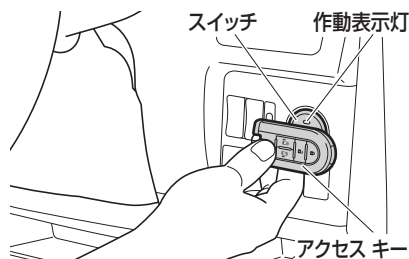
キーを確実に差し込んでから回します。
キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。



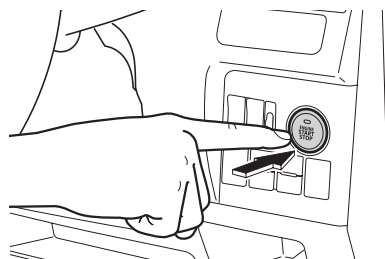
エンジンのかけかた

▼ 操作方法

1. セレクト レバーがRレンジにあるのを確認し、ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを図のようにプッシュ エンジン スイッチに接触させます。
- アクセス キーの中心をスイッチの中心に接触させます。



3. キーが認識されて、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
4. 作動表示灯が点灯している間にスイッチを押すと、エンジンが始動します。





いざというときに いざというときの処置

▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、セレクト レバーをPレンジに入れてスイッチを押します。

(エンジンの停止→ 253 ページ)

▼ 電源の切り替え方法

アクセス キーをスイッチに接触させたまま、スイッチを押します。

スイッチを押すごとに

「OFF→ACC→ON→OFF」の順に電源が切り替わります。



アドバイス

- 次の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動はできません。もう一度ははじめからやり直してください。
- キーの認識後、作動表示灯が消灯した
- 電源を“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、スバル販売店にご相談ください。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
- ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどと呼んでください。

別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。

▼ キーをなくした場合

電波式リモコン ドア ロック装着車

キー ナンバーを最寄りのスバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために次の習慣を心がけてください。
- 日頃からキーを使ってロックしてください。
- バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

キーレス アクセス装着車

保管していたアクセス キーとキー ナンバー プレートを最寄りのスバル販売店にお持ちください。



アドバイス

- アクセス キー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ずアクセス キーを携帯していることを確認するか、電波式リモコン ドア ロック操作で施錠を行ってください。



車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

■ 緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠ 警告

- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2. セレクト レバーをNレンジに入れます。

▼ セレクト レバーがNレンジに入った場合

3. 減速後、お車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

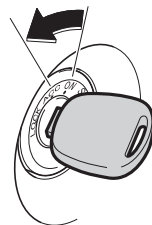
▼ セレクト レバーがNレンジに入らない場合

4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

5. エンジンを停止します。

プッシュ エンジン スイッチ装着車以外

エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。



プッシュ エンジン スイッチ装着車

スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押し、または3連打する

6. お車を安全な道路脇に停めます。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。





事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに次の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちにお車を止めます。お車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

MEMO



お車の手入れ

お車の整備、手入れの方法について
説明しています。

■ お車の手入れ

エンジン ルーム-----	376
消耗品の補給、交換-----	378
タイヤの点検-----	381
タイヤの交換-----	383
ワイパーの交換-----	387
エアコンの手入れ-----	391
キーの電池交換-----	392
室内の手入れ-----	396
ボディ、塗装面の手入れ-----	397



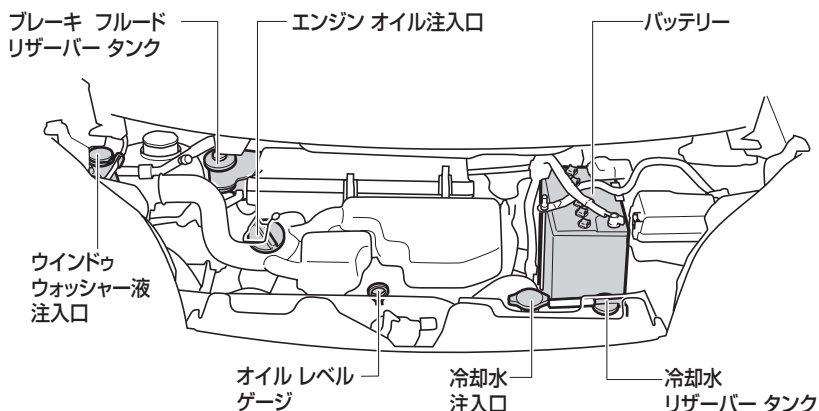
お車の手入れ

お車を安全、快適にご使用いただくには、日頃の手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

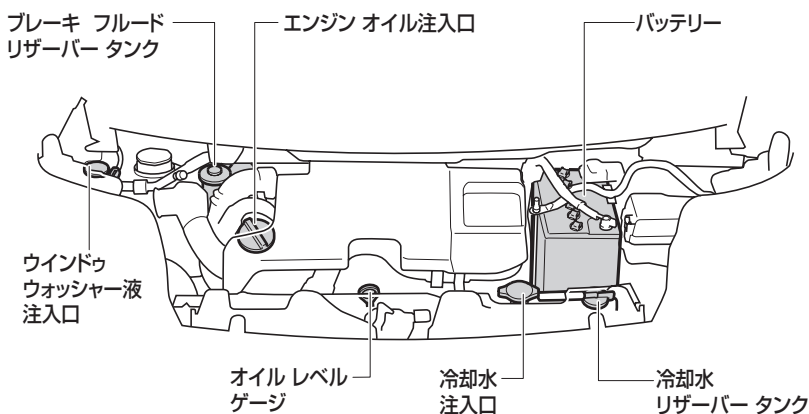
エンジン ルーム

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。

ターボ車以外



ターボ車



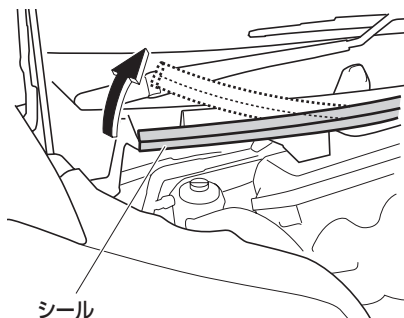


エンジン ルーム サービス カバー

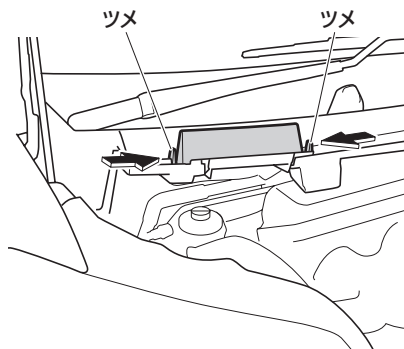
ブレーキ フルードの点検・交換をするときは、エンジン ルーム サービス カバーを取り外します。

▼ カバーの外しかた

1. 車両の中央部あたりまで、シールをめくります。



2. ツメを矢印の方向に押しながら、カバーを取りはずします。

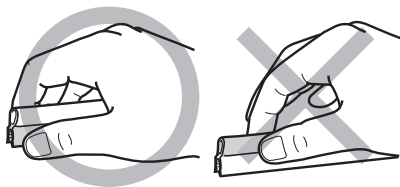


▼ カバーの取り付けかた

逆の手順で行います。

⚠注意

- シールをめくるときは、下側の取り付け部を持ってください。上側を持ってめくると、シールが破れるなど破損するおそれがあります。



- シールを元に戻すときは、中央側から取り付けてください。端側から取り付けるとシールがたわみ、ボンネットが確実に閉まらない場合があります。



消耗品の補給、交換

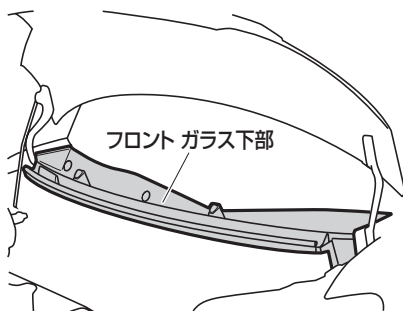
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、次のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあります。

⚠注意

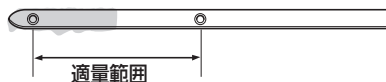
- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。





エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイルレベルゲージ

👉 アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、エンジン オイル注入口の裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

冷却水リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠️ 警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。





お車の手入れ お車の手入れ

ウィンドウ ウォッシャー液 の補給

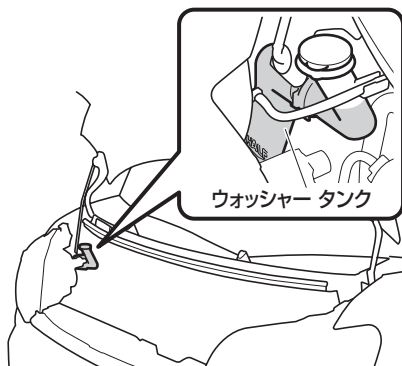
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、スバル指定ウィンドウ ウォッシャー液を補給します。

アドバイス

- ウィンドウ ウォッシャー液はスバル指定をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウィンドウ ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

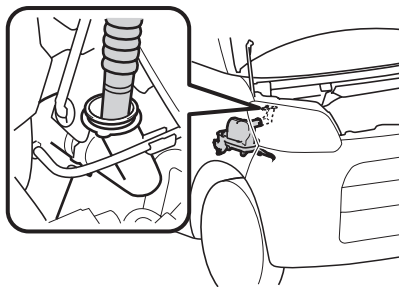
▼ 点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(サービスデータ→ 409 ページ)

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。)

⚠警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

👉 アドバイス

- タイヤが冷えているときは、一般道路で走行距離が1km以下の場合、または3時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約20～30kPa (0.2～0.3 {kgf/cm²}) 空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、スバル販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。





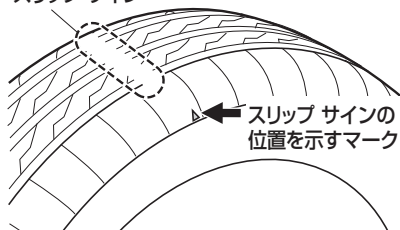
お車の手入れ お車の手入れ

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

スリップサイン



スリップサインの位置を示すマーク

⚠警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤのローテーション

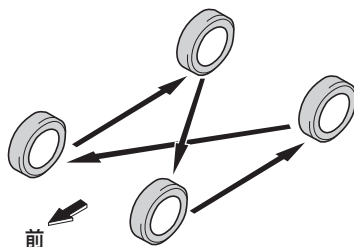
タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km 走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

（タイヤの交換→ 383 ページ）



👉 アドバイス

- タイヤ パンク応急修理セット装着車では、応急用スペアタイヤが搭載されていないため、応急用スペアタイヤを利用するタイヤのローテーションができません。スバル販売店にご相談ください。

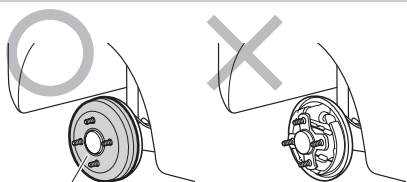


タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車体の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。
ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキドラム

- このお車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

⚠注意

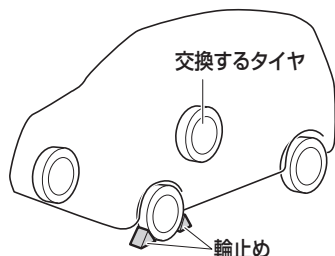
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- アルミ ホイール装着車は、専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- お車を交通のさまたげにならない安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- バンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人はお車から降り、重い荷物はお車から降ろしてください。





交換の手順

1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、セレクト レバーをPレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。

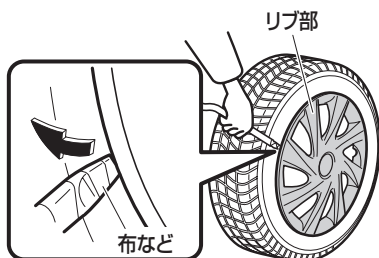


アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3. 工具、ジャッキを取り出します。
(格納場所→ 326 ページ)
(ジャッキの使いかた→ 327 ページ)

4. フル ホイール キャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキ ハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。

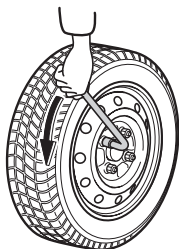


⚠注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたリ、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキ ハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

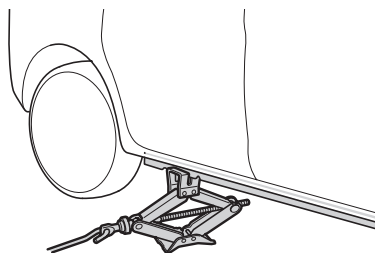


5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。

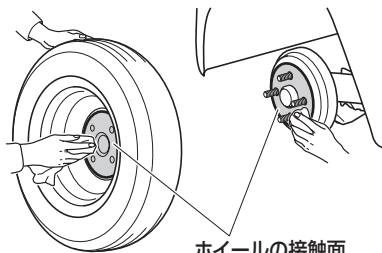
(ジャッキの使いかた→ 327 ページ)



7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。

8. 取り付けるタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。



⚠警告

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

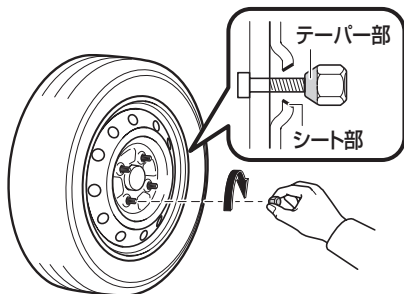




お車の手入れ お車の手入れ

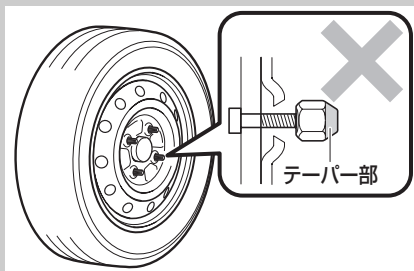
9. タイヤを取り付けます。

10. ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。



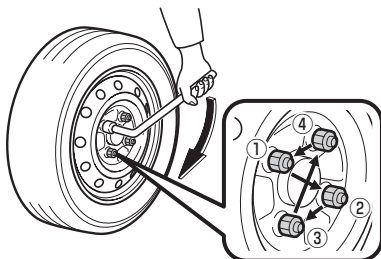
⚠警告

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3 度にわたり十分締め付けます。



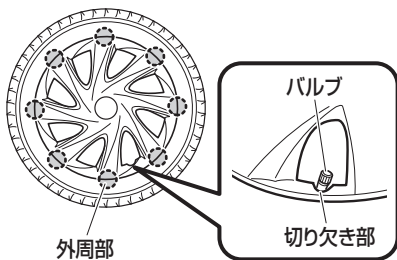
⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締め付力（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
- 締め付トルク：103N・m {1,050kgf・cm}



12. フル ホイール キャップ装着車は、フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。



13. 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

14. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をスバル販売店で受けてください。

ワイパーの交換

⚠注意

- ワイパー ブレード、ラバーはスバル指定品をおすすめします。スバル指定品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインドウ ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインドウ ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。



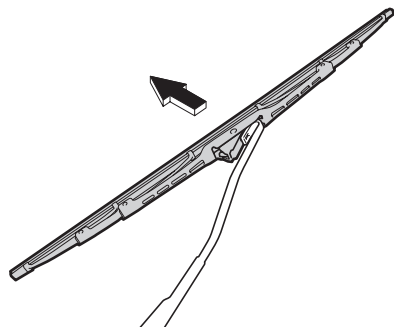
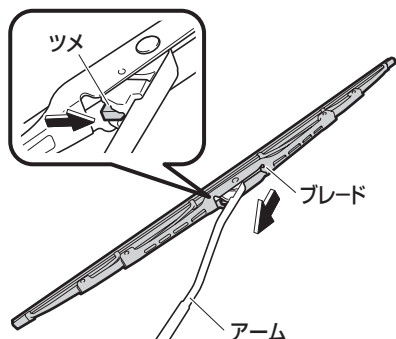


フロント ワイパー

■ ワイパー ブレード

▼ 取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードをスライドさせてアームから外します。



▼ 取り付けかた

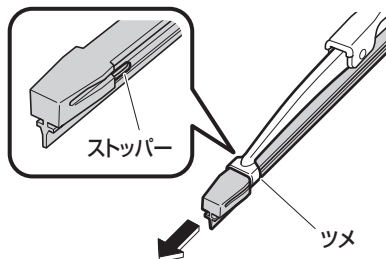
ブレードをアームに取り付けます。

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

■ ワイパー ブレード ラバー

▼ 取り外しかた

1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。

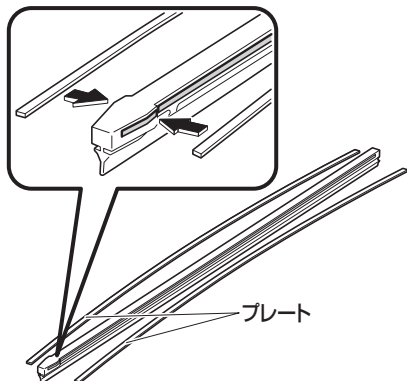


2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。



▼ 取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

⚠注意

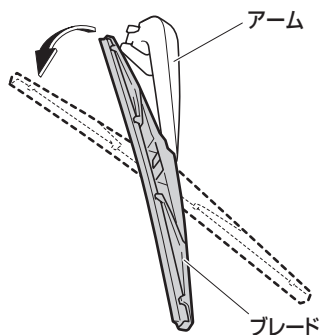
- ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤ ワイパー

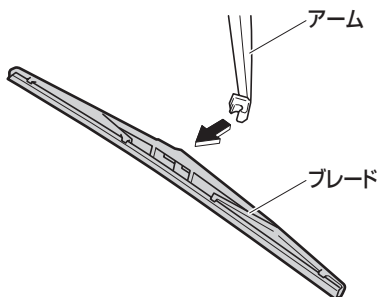
■ ワイパー ブレード

▼ 取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを図の角度まで回します。



3. ブレードを図の方向に引いて、アームから外します



▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

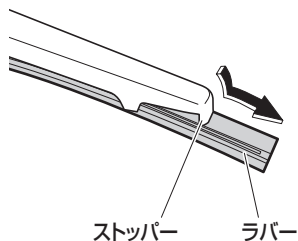


お車の手入れ お車の手入れ

■ ワイパー ブレード ラバー

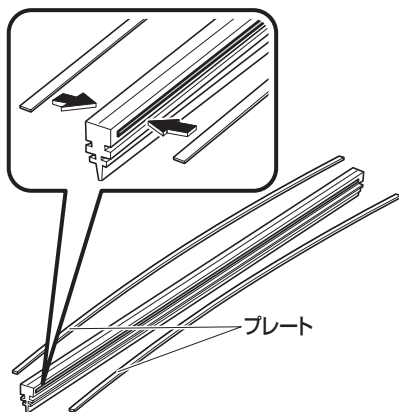
▼ 取り外しかた

1. ラバーの先端部を引き、ブレードのストッパーから外します。
2. ラバーをブレードから引き抜きます。

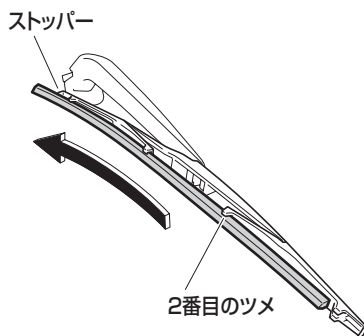


▼ 取り付けかた

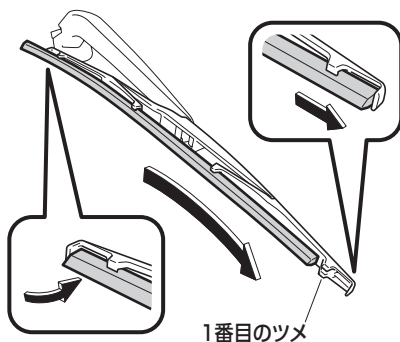
1. ラバーからプレートを外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込みます。
5. ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出します。



6. ブレードの 1 番目のツメにラバーを通します。
7. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して確実に固定します。



⚠ 注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。



エアコンの手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。



アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はスバル販売店にご相談ください。

クリーン エア フィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーン エア フィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、スバル販売店にご相談ください。

スーパー クリーン エア フィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は 20,000km です。
(大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は 10,000km です。)

クリーン エア フィルター

- 交換の目安は 20,000km です。
(大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km です。)



アドバイス

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。



キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- ・スイッチを押しても作動しない
- ・著しく作動距離が短くなった
- ・インジケーターが点灯しない
- ・電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、スバル販売店での交換をおすすめします。

⚠注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは次のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
- 濡れた手で電池交換をしない
- 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
- 油や異物を入れない

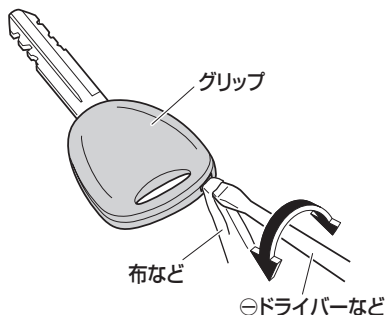
電波式リモコン ドア ロック 装着車

▼ 使用電池について

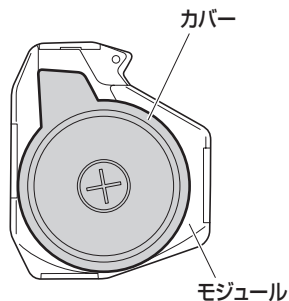
使用電池は「CR1620 (3V)」です。

▼ 交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の幅の⊖ドライバーなどを用意します。
2. グリップを外します。
- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。



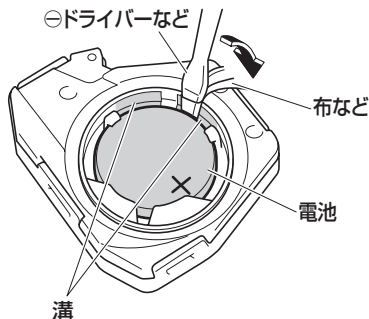
3. モジュールの裏側のカバーを外します。





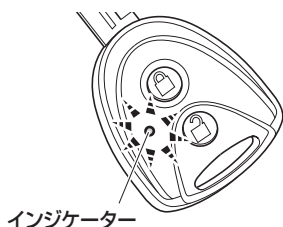
4. 新しい電池と交換します。

- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込んで電池を取り出します。



▼ 交換したあと

1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。

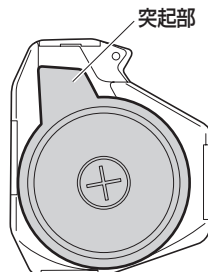


⚠ 注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりメイン キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

👉 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、次のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はメイン キーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。
- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にとはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。





キーレス アクセス装着車

▼ 使用電池について

使用電池は「CR2032 (3V)」です。

▼ 交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の幅の⊖ドライバーなどを用意します。
 2. スバル マーク側を上にしてから、アクセス キーのカバーを外します。
- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

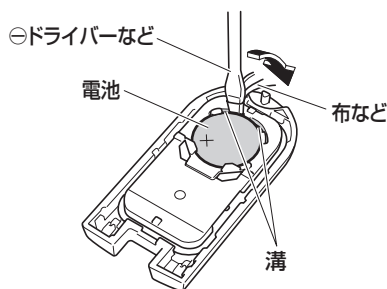


⚠ 注意

- スバル マーク側を下にしてカバーを外さないでください。アクセス キーのスイッチや電子部品などが落下して破損するおそれがあります。

3. 新しい電池と交換します。

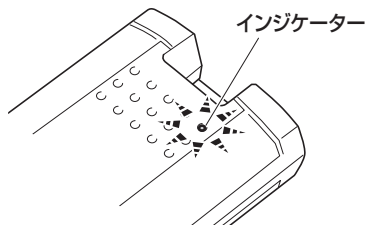
- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込んで電池を取り出します。
- カバーを外したときに、上側のカバーにアクセス キーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、アクセス キーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。





▼ 交換したあと

1. カバーを取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。



⚠ 注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセス キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

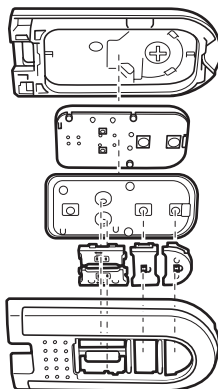
👉 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、次のことをお守りください。
 - ・端子部分などを曲げない
 - ・水、油などでぬらさない
 - ・ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。

👉 アドバイス

- 電池交換後はアクセス キーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。

- ▼ アクセス キーの部品がばらけたときは
図を参考に組み付けてください。



⚠ 注意

- 電子部品の基板面に触れないでください。故障の原因になります。



室内の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインドウ ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠️注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- シート ベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

⚠️注意

車内に水などをかけないでください

- インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。

フロント ウインドウ ガラスの内側を清掃するとき

- ステレオ カメラにさわらないように注意してください。誤って傷を付けたリ衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

スーパーUV&Rカット ガラス（フロント ドア）を清掃するときは（オプション/グレード別装備）

- 汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤や鋭利なもの、硬いもので清掃しないでください。室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。
- ドア ガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

👉アドバイス

- リヤ ウインドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。



ボディ、塗装面の手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボディカバーを付けるように心がけましょう。車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

次の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき



アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しく手入れを行ってください。

洗車

▼ 洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

⚠️ 注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効が悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効が回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。



アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。



お車の手入れ お車の手入れ

■ 自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- ルーフ アンテナは取り外し、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元通りに取り付けてください。
- ドア ミラーは必ず格納し、洗車機の「ドア ミラーを洗車しない」モードを選択してください。
洗車機によっては、ドア ミラーを損傷するおそれがあります。
- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えレバー、またはスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

■ 高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、およびリヤゲート ハンドルのスイッチ、またはスライドドアのワンタッチスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなっただときに行ってください。

▼ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠注意

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、およびリヤゲート ハンドルのスイッチ、またはスライドドアのワンタッチスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。



アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。



塗装部品の手入れ

塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。



アドバイス

- 塗装部品の傷の補修をする場合は、スバル販売店にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールの手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボディの洗車と同じ要領で行い、ボディと同じワックスでワックス掛けをしてください。

⚠注意

- アルミ ホイールにワックス掛けをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

MEMO



積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かっての手入れ-----	402
走行前点検と準備-----	403
積雪、寒冷時の走行-----	404
走行中の点検と注意-----	405
走行後の取り扱い-----	406



積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かっての手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキーレス アクセス（オプション/グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をスバル販売店に依頼してください。

ウインドウ ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパー ブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

△注意

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインドウ ガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。



走行前点検と準備

走行前点検の際に次の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

お車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドウ ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドウ ガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウインドウ ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウインドウ ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたは冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）を装着してください。

⚠注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）装着車、またAWD車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。AWD車も前 2 輪に装着します。

タイヤ チェーンは、タイヤ サイズに合った物を使用してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

▼ 指定タイヤ サイズおよびチェーンの種別

タイヤサイズ	タイヤチェーンの種別	
155/65R14	スバル純正チェーン	使用可能
165/55R15	市販JISチェーン(金属)	使用不可

⚠注意

- タイヤ チェーンはお車のタイヤのサイズに合った、スバル指定品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- スバル純正以外の金属チェーンを使用すると車体に干渉して異音発生や傷付きによる錆が発生することがあります。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅表示灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- チェーン装着時VDCが正確に作動しない場合があります。



アドバイス

- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップやアルミ ホイールに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。



冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) の装着

⚠注意

- 冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン (溝模様) の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキ パッドのしめりを乾かしてください。

⚠注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤ ハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤ パンク応急修理セットで応急修理をしてください。

(タイヤ パンク応急修理セット

→ 338 ページ)



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、お車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。

また、ワイパー アームは起こしてください。雪の重みでワイパー アームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態でお車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。セレクト レバーをPレンジに入れて輪止めを置いてください。

👉 アドバイス

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、ルーフ アンテナを取り外してください。
(ルーフ アンテナ→ 305 ページ)

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

👉 アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボディ カバーを使用してください。

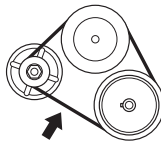
⚠注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロント グリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。



MEMO

サービス データ

項		目	サービス データ	
点火プラグ	プラグ型式		NGK	デンソー
	エンジン型式			
	KF型(ターボ車以外)		ILKR6F11 (イリジウム プラグ)	SXU20HPR11 (イリジウム プラグ)
	KF型(ターボ車)		ILKR7D8 (イリジウム プラグ)	SXU22HPR8 (イリジウム プラグ)
ファン ベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時		7.9～9.7(点検時)  点検位置	
アイドリング回転数(rpm)			800	
ブレーキ ペダル	遊び(mm)		0.5～3.0	
	床板とのすき間(mm) (踏力294N{30kgf}時)	2WD車	99.4以上	
		AWD車	98.7以上	
駐車ブレーキ	踏みしろ (踏力245N{25kgf}時)		5～7ノッチ	
バッテリー			M-42	
フューエル タンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)		30	
ウォッシャー タンク	容量(ℓ)		1.5	

項 目		サービス データ	
エンジン オイル	使用オイル と交換時期	ターボ車以外	・ SUBARU MOTOR OIL SN 0W-20* ¹ または5W-30 ・ アミックス 0W-20 SN* ¹ ・ アミックス 5W-30 SN 6か月ごとまたは、 10,000kmごと(5,000kmごと* ²) のどちらか早い方
		ターボ車	・ SUBARU MOTOR OIL SN 5W-30 ・ アミックス 5W-30 SN 6か月ごとまたは、 5,000kmごと(2,500kmごと* ²) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルと オイル フィルター (オイル クリーナー) 交換時	約2.9
オイル フィルター (オイル クリーナー)	交換時期	10,000kmごと(5,000kmごと* ²)	

*1 省燃費性に優れるオイルです。

*2 シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や
短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し
走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

項 目		サービス データ
トランスミッション オイル	交換時期	50,000kmごと
	使用オイル	アミックスCVTフルード- DC
	交換量(ℓ)	ターボ車以外 約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)
		ターボ車 約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)
トランスファ オイル	交換時期	100,000kmごと
	使用オイル	アミックス デファレンシャル ハイポイド ギヤ オイルSAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量(ℓ)	約0.57
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年(初回は3年)
	使用オイル	アミックス ATF D3-SP
	交換量(ℓ)	約0.73
ブレーキ オイル	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用オイル	アミックス ブレーキ フルード (DOT3相当)

⚠注意

CVT車のトランスミッション オイルを交換する場合

- スバル指定オイル（アミックスCVTフルード-DC）のみご使用ください。ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
オイルの交換については、スバル販売店にご相談ください。

項 目		サービス データ
エア クリーナー エレメント	交換時期	40,000kmごと(20,000kmごと*)
冷却水 (除くりザーバー タンク)	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用液	アミックス ロングライフ クーラント (高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)	50(全車寒冷地仕様)
	全容量(ℓ)	約3.5

- * シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や
短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し
走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧 (空車時:kPa{kgf/cm ² })				タイヤの溝の 深さ(mm)	タイヤ位置 交換時期
	前 輪		後 輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	240{2.4}				1.6以上	5,000kmごと
165/55R15						

アドバイス

- 標準装着タイヤ、装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

MEMO

さくいん

ア

アーム レスト -----	48
アーム レスト ボックス-----	318
アイドリング回転数 -----	410
アイドリング ストップ-----	272
アイドリング ストップ	
OFFスイッチ -----	281
アイドリング ストップ	
OFF表示灯-----	280
アイドリング ストップ時間-----	214
アイドリング ストップ システム ---	272
アイドリング ストップ積算時間-----	215
アイドリング ストップ表示灯 -----	279
アウター (ドア) ミラー-----	199
アクセサリー ソケット-----	314
アシスト グリップ-----	323
足踏み式駐車ブレーキ-----	256
アンダー ボックス (サブトランク) ---	319
アンチロック ブレーキ システム	
(ABS) -----	88
アンテナ -----	305

イ

ELRシート ベルト -----	58
イージークローザー機構 -----	174
EPS (電動パワー ステアリング)	
警告灯-----	232
EBD-----	88
イグニッション (エンジン)	
スイッチ -----	248
イグニッション キー -----	142
ISO FIX対応ISO FIX固定バー	
&テザー アンカー-----	70
イモビライザー機能 -----	255
インジケーター ランプ (表示灯) ---	219

インター ロック-----	254
インナー ハンドル -----	189
インナー (ルーム) ミラー-----	199
インパネ アッパー ボックス -----	318
インパネ アンダー トレイ-----	317
インパネ センター ポケット -----	317
インパネ トレイ-----	317

ウ

ウインカー (方向指示) レバー -----	241
ウインドウ ウォッシャー液の補給 ----	380
ウインドウ ガラス	
(パワー ウインドウ) -----	195
ウインドウ デフォッガー	
スイッチ -----	245
ウインドウ反転機構 -----	197
ウォーニング ランプ (警告灯) ----	225
ウォッシャー タンクの容量-----	410
ウォッシャー スイッチ -----	243
運転席SRSエアバッグ -----	74
運転席シートバック	
ポケット -----	319
運転席シート ヒーター	
スイッチ -----	246
運転席シート ベルト警告灯-----	228
運転席シート リフター -----	48

エ

エア クリーナー エlementの	
データ-----	413
エアコン	
オート-----	296
マニュアル-----	288
エアコン ガス-----	391
エアバッグ	
SRSエアバッグ-----	74
SRSサイド エアバッグ、	
SRSカーテン シールド エアバッグ-----	80
エア フィルター-----	391
AWD車-----	257
ABS-----	88
エコ ドライブ アシスト照明-----	218
エコ ドライブ アシスト照明の	
表示設定-----	216
SRSエアバッグ-----	74
SRSエアバッグ警告灯-----	231
SRSエアバッグ コンピューター-----	86
エマージェンシー ストップ	
シグナル-----	90
LEDライナー-----	239
LLC（冷却水）のデータ-----	413
エンジン オイルのデータ-----	411
エンジン オイル レベル ゲージ-----	379
エンジン回転計	
（タコ メーター）-----	210
エンジン キー-----	142
エンジン警告灯-----	225
エンジン スイッチ-----	248
エンジン スタート サポート-----	261
エンジン フード（ボンネット）-----	190
エンジン ルーム-----	376

オ

オイルの交換量-----	411
オイル プレッシュャー警告灯-----	225
応急修理セット-----	338
オート エアコン-----	296
オート格納式ドア ミラー	
（キーレス アクセス連動）-----	201
オート ドア アンロック機能-----	169
オート ドア ロック機能-----	168
オート（パワー）ウインドウ-----	195
オート ライト 機能-----	234
オート レベライザー警告灯-----	231
オーバー ヒート-----	350
オープナー	
フューエル リッド-----	193
ボンネット-----	190
オド メーター（積算距離計）-----	211
オルタネーター（ファン）ベルトの	
点検基準値-----	410
温度調節センサー-----	304

カ

カーゴ ルーム ランプ-----	312
カーテン シールド エアバッグ-----	80
カード ホルダー-----	315
外気温-----	213
鍵（キー）-----	142
格納式リヤ ドア サンシェード-----	316
カップ ホルダー-----	320
可変ロード リミッター機構付	
シート ベルト-----	60
間欠ワイパー（ワイパー・	
ウォッシャースイッチ）-----	243

キ

キー	142
キー インター ロック	254
キー（エンジン）スイッチ	248
キー閉じ込み防止機能	167
キー抜き忘れ警告ブザー	167
キーの電池交換	392
キーレス アクセス	146
キーレス アクセス警告灯	158
キーレス アクセス電池残量警告灯	155
キーレス アクセスの警告	153
機能停止コード	
（スマートアシストⅢ）	132
給油口（フューエル リッド）	192
緊急停止するには	371

ク

空気圧	413
空調	288
クーラー（エアコン）	
オート エアコン	296
マニュアル エアコン	288
クーラント（冷却水）のデータ	413
区間距離計	
（トリップ メーター）	211
曇り取り	
フロント（オート エアコン）	303
フロント	
（マニュアル エアコン）	294
リヤ	245
クラクション（ホーン）スイッチ	247
クリーナー（オイル フィルター）の	
データ	411
クリーン エア フィルター	391
グローブ ボックス	318

ケ

警告器（ホーン）スイッチ	247
計器（メーター）	208
警告灯	225
警告ブザー	
キー抜き忘れ警告ブザー	167
ランプ消し忘れ警告ブザー	239
警報（盗難警報装置）の	
停止方法	161
けん引	335

コ

工具	326
光軸調整ダイヤル	240
高水温警告灯	227
後席（リヤ シート）	49
航続可能距離	212
コーナー センサー	136
誤発進抑制制御機能（前方・後方）	116
小物入れ	
インパネ アッパー ボックス	318
フロント アーム レスト	
ボックス	318
コンビネーション メーター	208

サ

サービス データ	409
サイド アンダー ミラー	202
サイド エアバッグ	80
サイド (ドア) ミラー	199
サイドトレイ	317
サブ トランク	319
サンシェード	316
3点式ELRシート ベルト	58
サン バイザー	315

シ

シート	
フロント	43
リヤ	49
シートバック テーブル	45
シート ヒーター スイッチ	246
シート ベルト	55
シート ベルト 警告灯 (運転席・助手席)	228
シート リフター	48
CVT警告灯	228
CVT車	262
室内照明	311
シフト セレクト インジケーター	221
シフト (セレクト) レバー	262
シフト ロック解除ボタン	263
シフト ロック装置	262
車載工具	326
車線逸脱警報機能	122
車線逸脱警報OFF表示灯	130
車線逸脱警報作動灯	129
ジャッキの使いかた	327
車両盗難防止 (イモビライザー) 機能	255

車両を緊急停止するには	371
集中ドア ロック	166
充電 (チャージ) 警告灯	226
使用オイル	411
衝撃感知ドア ロック解除システム	168
乗降用グリップ	323
照度調整	216
衝突回避支援ブレーキ機能	106
衝突警報機能	106
照明	311
助手席SRSエアバッグ	74
助手席シート ベルト 警告灯	228
ショッピング フック	322
ショルダー アジャスター	59

ス

水温警告灯	227
水温表示灯	220
スタック (立ち往生) したとき	332
ステアリング スイッチ	306
ステアリング制御警告灯	232
ステアリング ホイール (チルト ステアリング)	204
ステレオ カメラ	102
スノー (タイヤ) チェーン	404
スパーク (点火) プラグの型式	410
スピード メーター	210
スマートアシストOFFスイッチ	134
スマートアシストOFF表示灯	129
スマートアシスト機能停止コード	132
スマートアシスト作動灯	128
スマートアシスト III	100
スライド調整	
フロント シート	43
リヤ シート	49
スライド ドア	171

セ

積算距離計（オドメーター）	-----	211
セキュリティ表示灯	-----	221
セレクト インジケーター	-----	221
セレクト レバー	-----	262
先行車発進お知らせ機能	-----	125
洗車	-----	397
前照灯（ヘッド ランプ）の 切り替え	-----	235
前席（フロント シート）	-----	43

ソ

速度計（スピードメーター）	-----	210
ソナー	-----	105

タ

ターボ車	-----	257
ターン シグナル インジケーター （方向指示器表示灯）	-----	219
ターン シグナル（方向指示） レバー	-----	241
タイヤ チェーン	-----	404
タイヤの交換	-----	383
タイヤのデータ	-----	413
タイヤのローテーション	-----	382
タイヤ パンク応急修理セット	-----	338
タコメーター	-----	210
暖房（エアコン） オート エアコン	-----	296
マニュアル エアコン	-----	288

チ

チェーン	-----	404
チェック エンジン警告灯	-----	225
チェンジ（セレクト）レバー	-----	262
チケットホルダー	-----	315
チャージ警告灯	-----	226
チャイルドシート	-----	61
チャイルドシートの選びかた	-----	63
チャイルドシートの固定の しかた	-----	68
チャイルドシートの種類	-----	62
チャイルドプルーフ	-----	166
駐車ブレーキ	-----	256
駐車ブレーキの点検基準値	-----	410
チルトステアリング	-----	204

ツ

ツール（工具）	-----	326
---------	-------	-----

テ

TRC-----	93
TRC OFF表示灯-----	96
低水温表示灯-----	220
ディスク ホイール (タイヤ) の 交換-----	383
ディスク ホイール (タイヤ) の データ-----	413
デッキ (カーゴ) ルーム ランプ-----	312
デファレンシャル オイルの データ-----	412
デフォッガー スイッチ-----	245
デフロスター (曇り取り) フロント(オート エアコン) -----	303
フロント (マニュアル エアコン) -----	294
リヤ-----	245
デュアルSRSエアバッグ-----	74
点火プラグの型式-----	410
電球の交換-----	356
点検整備項目 (サービス データ) -----	409
電池の交換-----	392
電動格納式 (ドア) ミラー-----	199
電動格納式ヒートッド ドア ミラー-----	202
電動スライド ドア-----	175
電波式リモコン ドア ロック-----	145
電力回生制御-----	284

ト

ドア-----	163
ドア スイッチ-----	149
ドア (パワー) ウインドウ-----	195
ドア ポケット-----	319
ドア ミラー-----	199
ドア ロック-----	166
盗難警報装置-----	158
盗難警報装置の警報の停止方法-----	161
時計-----	217
トラクション コントロール (TRC) -----	93
トランスファ オイルのデータ-----	412
トランスミッション オイルの データ-----	412
トリップ メーター (区間距離計) -----	211
ドリンクホルダー-----	320

ナ

内気センサー-----	304
-------------	-----

ニ

日射センサー-----	304
-------------	-----

ネ

燃費 (平均燃費) -----	212
燃料カット システム-----	332
燃料給油口 (フューエル リッド) -----	192
燃料計-----	210
燃料残量警告灯-----	230
燃料 (フューエル) タンクの容量-----	410

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ-----	256
パーキング（駐車）ブレーキの 点検基準値-----	410
ハイ ビーム アシスト-----	236
ハイ ビーム アシスト“故障”表示----	131
ハイ ビーム アシスト作動灯-----	130
ハイビーム/パッシング表示灯-----	220
ハザード インジケーター （非常点滅表示灯）-----	219
ハザード（非常点滅表示灯）スイッチ----	242
挟み込み防止機構 パワー スライド ドア-----	184
発炎筒-----	334
バック カメラ-----	307
バック（ルーム）ミラー-----	199
パッシング （ヘッド ランプの切り替え）-----	235
バッテリー-----	283
バッテリーあがり-----	348
バッテリーあがり防止機能-----	313
バッテリーの型式-----	410
発電制御-----	284
パニティ ミラー-----	315
バルブ（電球）の交換-----	356
パワー ウィンドウ-----	195
パワー ステアリング警告灯-----	232
パワー スライド ドア （ワンタッチ オープン機能、 予約ロック機能付）-----	175
POWERモード切り替えスイッチ----	259
パンク-----	338
パンク応急修理セット-----	338
半ドア警告灯-----	229
ハンドル （チルト ステアリング）-----	204

ヒ

ビークル ダイナミクス コントロール （VDC）-----	91
ヒーター（エアコン） オート エアコン-----	296
マニュアル エアコン-----	288
ヒーター スイッチ-----	246
ヒートッド ドア ミラー-----	202
被害軽減ブレーキ アシスト-----	106
非常点滅表示灯-----	219
非常点滅表示灯スイッチ-----	242
ヒューズ ボックス-----	354
表示灯-----	219
ヒル スタート アシスト-----	282
ヒル ホールド システム-----	99

フ

ファン ベルトの点検基準値	410
VDC	91
VDC&TRC OFFスイッチ	97
VDC&TRC警告灯	95
VDC OFF表示灯	96
VDC作動表示灯	96
V (ファン) ベルトの点検基準値	410
フィルターのデータ	411
フォグ ランプ スイッチ	245
フォグ ランプ表示灯	220
プッシュ エンジン スイッチ	249
プッシュ オープン	
カップ ホルダー (前席)	320
フット (足踏み式駐車) ブレーキ	256
不凍液 (冷却水) のデータ	413
フューエル ウォーニング (燃料残量警告灯)	230
フューエル タンクの容量	410
フューエル (燃料) カット システム	332
フューエル メーター (燃料計)	210
フューエル リッド	192
冬用タイヤ	405
プラグの型式	410
プリテンショナー & 可変ロード	
リミッター機構付シート ベルト	60
フル タイムAWDシステム	258
ブレーキ (ABS)	88
ブレーキ オイルのデータ	412
ブレーキ警告灯	226
ブレーキ ペダルの点検基準値	410
ブレード (ワイパー) の交換	387
フロント アーム レスト	48
フロント アーム レスト ボックス	318
フロント シート	43

フロント シート ベルト	58
フロント ドア	163
フロント フォグ ランプ スイッチ	245
フロント マップ ランプ	311
フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	243

ヘ

平均燃費	212
ヘッド ランプの切り替え	235
ヘッド レスト フロント シート	45
リヤ シート	50
ベルトの点検基準値	410

ホ

ホイール (タイヤ) の交換	383
ホイール (タイヤ) のデータ	413
方向指示器表示灯	219
方向指示レバー	241
ホーン スイッチ	247
ポジション表示 (シフト セレクト インジケーター)	221
ボトル ホルダー	321
ボンネット	190

マ

前倒し	
フロント シート	45
リヤ シート	51
マスター ウォーニング	128
窓ガラス（パワー ウィンドウ）	195
マニュアル エアコン	288
マルチ インフォメーション	
ディスプレイ	210

ミ

ミラー	
サイド アンダー ミラー	202
ドア ミラー	199
リヤ アンダー ミラー	203
ルーム ミラー	199

メ

メーター	208
メカニカル キー	143
メンテナンス データ	
（サービス データ）	409

ユ

油圧（オイル プレッシャー）	
警告灯	225

ラ

ライティング スイッチ	234
ライティング スイッチ表示灯	220
ラジエーター液（冷却水）の	
データ	413
ラバー（ワイパー）の交換	387
ランプ消し忘れ警告ブザー	239
ランプ自動消灯機能	239

リ

リクライニング調整	
フロント シート	44
リヤ シート	50
リバース連動リヤ ワイパー	244
リフター	48
リモコン スイッチ	
キーレス アクセス	149
電波式リモコン ドア ロック	145
リヤ アンダー ミラー	203
リヤ ウィンドウ デフォッガー	
スイッチ	245
リヤ クォーター ポケット	319
リヤ ゲート	186
リヤ サンシェード	316
リヤ シート	49
リヤ シート ベルト	58
リヤ デファレンシャル オイルの	
データ	412
リヤ ドア	163
リヤ ワイパー・ウォッシャー	
スイッチ	244

ル

ルーフ アンテナ -----	305
ルーム ミラー -----	199
ルーム ランプ -----	311

レ

冷却水のデータ -----	413
冷房（エアコン）	
オート エアコン -----	296
マニュアル エアコン -----	288
レベライザー 警告灯 -----	231
レベリング スイッチ -----	240

ロ

ローテーション -----	382
ロー ビーム・オート レベリング 警告灯 -----	231

ワ

ワイパー・ウォッシャー スイッチ -----	243
ワイパーの交換 -----	387
ワイヤレス ドア ロック （電波式リモコン ドア ロック） ----	145
W数（電球） -----	356
ワンタッチ スイッチ -----	180

3

3 点式ELRシート ベルト -----	58
----------------------	----

A

ABS -----	88
ABS警告灯 -----	230
A/C（エアコン）	
オート エアコン -----	296
マニュアル エアコン -----	288
AWD車 -----	257

C

CVT警告灯 -----	228
CVT車 -----	262

E

EBD -----	88
ELRシート ベルト -----	58
EPS（ステアリング制御） 警告灯 -----	232

I

ISO FIX対応ISO FIX固定バー &テザー アンカー -----	70
---	----

L

LEDライナー -----	239
LLC（冷却水）のデータ -----	413

P

POWERモード切り替えスイッチ ----	259
-----------------------	-----

S

SRSエアバッグ-----	74
SRSエアバッグ警告灯 -----	231
SRSエアバッグ コンピュータ-----	86
SRSサイド エアバッグ、	
SRSカーテン シールド エアバッグ-----	80

T

TRC-----	93
TRC OFF表示灯 -----	96

V

VDC作動表示灯 -----	96
VDC -----	91
VDC OFF表示灯 -----	96
VDC&TRC OFFスイッチ -----	97
VDC&TRC警告灯 -----	95
V（ファン）ベルトの点検基準値 ----	410

W

W数（電球） -----	356
--------------	-----

- 次の名称はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
- TRC
- VSC
- 次の名称はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
- アミックス
- スマアシ
- スマートアシスト

MEMO

MEMO

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（**A**は一時使用中止時、**B**は解体返納時に必要です）

A 自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書

B 解体届出書

A B 自動車検査証

A B 車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）

A B 軽自動車税申告書

A B 印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



3番窓口

検査手数料収納



2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（**㊦**は使用者・所有者を変更した場合、**㊧**は引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

㊦㊧ 自動車検査証記入申請書

㊦㊧ 自動車検査証

㊦㊧ 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後3ヶ月以内のもの）

㊦ 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）

㊦㊧ 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）

㊦ 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書

㊧ 軽自動車税申告書

㊦㊧ 印鑑

㊦㊧（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認



7番窓口

ナンバー頒布



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



7番窓口

ナンバー頒布

㊦㊧（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話などでお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証などをご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARU お客様センター

SUBARU コール  0120-052215

受付時間【平 日】 9:00～17:00
【土日祝】 9:00～12:00、13:00～17:00

※平日の12:00～13:00および土日祝は
(1)のインフォメーションサービスのみとなります。

SUBARU お客様センターでは下記の内容を承っております。

(1)ご意見/ご感想/ご案内(カタログ、販売店、転居手続き 他)

(2)お問合せ/ご相談

富士重工業株式会社

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿1-20-8 (エビススバルビル)

禁複製・転載

編集・発行

富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター



富士重工業株式会社

※2017年4月より、社名が株式会社SUBARUとなります。

発行 2017年 2月 Printed in Japan KB

Publication No. A5850JJ-B

01999-B2361